

シラバス

(社会構想研究科)

※ シラバスの変更、追加等が生じた場合は、Teams・掲示等でお知らせいたします

令和8（2026）年度 学年暦

前期	週	日	月	火	水	木	金	土	備考
4月	—				1	2	3	4	・ 4/4：入学式 ・ 4/6-11：導入集中授業期間 ・ 4/13-18：オリエンテーション期間 ・ 4/13-19：履修登録期間
	導	5	6	7	8	9	10	11	
	AB1	12	13	14	15	16	17	18	
	A2	19	20	21	22	23	24	25	
	B2	26	27	28	29	30			
5月	B2					1	2		
	A3	3	4	5	6	7	8	9	
	B3	10	11	12	13	14	15	16	
	A4	17	18	19	20	21	22	23	
	B4	24	25	26	27	28	29	30	
	A5	31							
6月	A5		1	2	3	4	5	6	・ 6/7：2年次中間審査会（6月）
	B5	7	8	9	10	11	12	13	
	A6	14	15	16	17	18	19	20	
	B6	21	22	23	24	25	26	27	
	A7	28	29	30					
7月	A7				1	2	3	4	
	B7	5	6	7	8	9	10	11	
	A8	12	13	14	15	16	17	18	
	B8	19	20	21	22	23	24	25	
	A9/B9	26	27	28	29	30	31		
8月							1		・ 8/8：2年次中間報告会（8月） ・ 8/8：1年次中間報告会（8月） ・ 8/8：2年次最終審査会（8月） ・ 8/4-8/22：補講期間
	B9	2	3	4	5	6	7	8	
	—	9	10	11	12	13	14	15	
	補	16	17	18	19	20	21	22	
	—	23	24	25	26	27	28	29	
	—	30	31						
9月	—			1	2	3	4	5	・ 9/19：学位授与式（秋）・入学式（秋） ・ 9/19-26：導入集中授業期間（秋） ・ 9/28-10/3：オリエンテーション期間 ・ 9/28-10/4：履修登録期間
	—	6	7	8	9	10	11	12	
	—	13	14	15	16	17	18	19	
	導	20	21	22	23	24	25	26	
	AB1	27	28	29	30				

後期	週	日	月	火	水	木	金	土	備考
10月	AB1					1	2	3	
	A2	4	5	6	7	8	9	10	
	B2	11	12	13	14	15	16	17	
	A3	18	19	20	21	22	23	24	
	B3	25	26	27	28	29	30	31	
11月	A4	1	2	3	4	5	6	7	・ 11/7-8：2年次中間審査会（11月）
	B4	8	9	10	11	12	13	14	
	A5	15	16	17	18	19	20	21	
	B5	22	23	24	25	26	27	28	
	A6	29	30						
12月	A6			1	2	3	4	5	
	B6	6	7	8	9	10	11	12	
	A7	13	14	15	16	17	18	19	
	B7	20	21	22	23	24	25	26	
	—	27	28	29	30	31			
1月	—						1	2	・ 1/20-2/6：補講期間
	A8	3	4	5	6	7	8	9	
	B8	10	11	12	13	14	15	16	
	補	17	18	19	20	21	22	23	
	補	24	25	26	27	28	29	30	
		31							
2月	補		1	2	3	4	5	6	・ 2/6-13：2年次最終審査会（2月） ・ 2/20：1年次中間報告会（2月） ・ 2/20：2年次中間報告会（2月） ・ 2/20：社会構想プロジェクト報告会
	—	7	8	9	10	11	12	13	
	—	14	15	16	17	18	19	20	
	—	21	22	23	24	25	26	27	
		28							
3月	—		1	2	3	4	5	6	・ 3/20：学位授与式
	—	7	8	9	10	11	12	13	
	—	14	15	16	17	18	19	20	
	—	21	22	23	24	25	26	27	
	—	28	29	30	31				

※斜体は祝祭日

科目区分	科目コード	科目名称	授業テーマ	担当教員	講義 演習	単位数	標準履 修年次	DP①リベラ ルアーツ・ 教養	DP②社会科 学的思考力	DP③実践的 な思考力	DP④リサー チ能力	DP⑤社会構 想提言能力	DP⑥社会構 想実践能力	学期	曜日	備考
基礎 科目	リベラル 社会構 想のた め の教養	SDPA1101L 社会構想概論	未来社会のデザイン学	先崎 彰容	講義	2	1	○	○					前期	土A（1・2限）	必修
		SDPA1113L リベラルアーツ概論Ⅰ	専門を超える「知のOS」	下村 智典	講義	2	1	○	○					前期	金A	MPD共通
		SDPA1109L リベラルアーツ概論Ⅱ	専門を超える「知のOS」	先崎 彰容	講義	2	1	○	○					後期	土A（1・2限）	
		SDPA1102L 社会学基礎理論	社会の仕組みを科学する	富井 久義	講義	2	1	○	○					前期	水B	CD・PE共通
		SDPA1103L 経営学基礎理論	人を動かす組織の科学	中川 哲	講義	2	1	○	○					前期	木A	CD共通
		SDPA1105L 政治学基礎理論	「正しさ」をめぐる思考実験	下平 拓哉	講義	2	1	○	○					前期	金B	
		SDPA1110L 社会構想と法	未来のためのルールメイキング	橋本 純次	講義	2	1	○	○					後期	木B	
		SDPA1104L 現代社会論	“いま”を読み解く社会地図	大谷 晃	講義	2	1	○	○					後期	金A	CD・PE共通
		SDPA1111L 地政学と国際秩序	地図で読み解く世界戦略	下平 拓哉	講義	2	1	○	○					前期	月A	
	SDPA1112S クリエイティブ・シンキング	アイデアを生み出す「思考の型」	渡邊 信彦	演習	2	1	○			○			後期	金B	MPD共通	
基礎科目から必修科目「社会構想概論」（2単位）を含んで4単位以上を修得する。																
科目区分	科目コード	科目名称	授業テーマ	担当教員	講義 演習	単位数	標準履 修年次	DP①リベラ ルアーツ・ 教養	DP②社会科 学的思考力	DP③実践的 な思考力	DP④リサー チ能力	DP⑤社会構 想提言能力	DP⑥社会構 想実践能力	学期	曜日	備考
専門 基礎 科目	政策 構想 のため の教養	SDPB1202L 公共哲学	「みんな」の幸せって何だろう？	下平 拓哉	講義	2	1	○	○					後期	金B	
		SDPB1201L 政策過程論	政策は“いかにして”決まるか	下平 拓哉	講義	2	1	○	○					後期	月A	
		SDPB2208L 行政学	「お役所」の仕組みと可能性	北島 純	講義	2	2	○	○					前期	火B	
		SDPB2209L 財政学	税金の“賢い”使い方を考える	中村 玲子	講義	2	2	○	○					前期	月B	
		SDPB2210S 公共コミュニケーション	信頼を築く「対話」のデザイン	橋本 純次・山口 健太郎	演習	2	1		○		○			後期	月B	CD共通
	経営 構想 のため の教養	SDPB1211L 企業理念・経営哲学	「志」で動かす組織の力	広木 隆	講義	2	2		○		○			前期	木B	CD共通
		SDPB1212L 組織論	組織はなぜ存在し、どのように進化するのか？	田原 祐子	講義	2	1	○	○					後期	月A	CD・PE共通
		SDPB1213L 事業構想のためのファイナンス	お金で語れますか？あなたの構想計画	結城 秀彦	講義	2	2	○	○					前期	金B	MPD共通
		SDPB2214L マーケティング論	「価値」を伝え、市場を創る	佐藤 達郎	講義	2	2		○		○			前期	水A	CD共通
		SDPB2215L パブリック・リレーションズ	社会とつながる「関係づくり」	二木 真	講義	2	1		○		○			後期	土B（1・2限）	CD共通
	市民 社会 構想 のため の教養	SDPB1216L 市民社会論	社会を動かす「第三の力」	富井 久義	講義	2	1	○	○					後期	水B	
		SDPB1203L 産業社会学	「働く」ことの過去・現在・未来	富井 久義	講義	2	2	○	○					前期	土B（1・2限）	PE共通
		SDPB1206L 地域社会論	“つながり”で動かす「まちづくり」入門	中村 玲子	講義	2	1	○	○					後期	月B	
		SDPB2217L 生涯学習の理論と発展	人生100年時代の「学び」を創る	川山 竜二	講義	2	1	○	○					前期	火B	社会教育士養成講座・PE共通
		SDPB1218L 生涯学習支援論	人の「学びたい」を支える技術	大谷 晃	講義	2	1		○		○			後期	火B	社会教育士養成講座・PE共通
	SDPB1219L 社会教育経営論	「学びの場」のつくり方、育て方	荒木 貴之	講義	2	1		○		○			前期	木A	社会教育士養成講座・PE共通	
専門基礎科目から6単位以上を修得する。																
科目区分	科目コード	科目名称	授業テーマ	担当教員	講義 演習	単位数	標準履 修年次	DP①リベラ ルアーツ・ 教養	DP②社会科 学的思考力	DP③実践的 な思考力	DP④リサー チ能力	DP⑤社会構 想提言能力	DP⑥社会構 想実践能力	学期	曜日	備考
専門 科目	政策 構 想	SDPC1301L 政策構想論	社会を変える「政策」のデザイン	松江 英夫	講義	2	2		○		○			前期	水B	
		SDPC2312S 政策と戦略	勝つための政策シミュレーション	下平 拓哉	演習	2	2		○		○			前期	土B（1・2限）	
		SDPC2303L ロビイング	世論を動かす「交渉の技術」	別所 直哉	講義	2	2		○		○			後期		CD共通
		SDPC2313S シティ・プロモーション	選ばれる街の「ブランド戦略」	牧瀬 稔	演習	2										

科目区分	科目コード	科目名称	授業テーマ	担当教員	講義 演習	単位数	標準履 修年次	DP①リベラ ルアーツ・ 教養	DP②社会科 学的思考力	DP③実践的 な思考力	DP④リサー チ能力	DP⑤社会構 想提言能力	DP⑥社会構 想実践能力	学期	曜日	備考
社会 構 想	リ サ ー チ 法 技 術	SDPF1501L アカデミック・リサーチ	知的生産のための「作法」	オムニバス	講義	2	1		○		○			前期	火A	CD・PE・MPD共通
		SDPF1502S 質的データ分析	言葉から“本質”を掴む技術	橋本 純次	演習	2	1		○		○			後期	金A	CD・PE共通
		SDPF1503S データ・サイエンス	数字から社会の「物語」を読む	オムニバス	演習	2	1		○		○			後期	火A	CD・PE共通
		SDPF2504S マーケティング・リサーチ	“顧客の声”を科学する	佐藤 達郎	演習	2	2			○	○			後期	水A	CD共通
		SDPF2505S ライティング・エディティング	伝わる文章の「設計図」	上岡 典彦	演習	2	2				○		○	前期	月B	CD共通
実 践 の 目	構 想 の 事 例 研 究	SDPF1506S 地域プロジェクトマネージャーの理論と実践	政策構想実践・リアルな地域課題に挑む	オムニバス	演習	4	1			○	○	○	○	前期／後期	火A・火B他	先端教育研究所開設科目
		SDPF1507S 経営構想実践	事業を構想し、カタチにする	河村 昌美・下平 拓哉	演習	4	1			○	○	○	○	通年	土B（3・4限）	
		SDPF1508S 社会教育演習	市民社会構想実践・市民が主役の社会をつくる	荒木 貴之	演習	2	1			○	○	○	○	後期	木A	社会教育士養成講座・PE共通
		SDPF1509S 社会構想事例研究Ⅰ	成功事例に学ぶ「構想の型」	オムニバス	演習	2	1			○			○	前期	水A	
		SDPF1510S 社会構想事例研究Ⅱ	失敗から学ぶ「次の一手」	オムニバス	演習	2	1			○			○	後期	水A	
社会構想実践科目から6単位以上を修得する。																
科目区分	科目コード	科目名称	授業テーマ	担当教員	講義 演習	単位数	標準履 修年次	DP①リベラ ルアーツ・ 教養	DP②社会科 学的思考力	DP③実践的 な思考力	DP④リサー チ能力	DP⑤社会構 想提言能力	DP⑥社会構 想実践能力	学期	曜日	備考
探 究 科 目	社 会 構 想	SDPD1410T 社会構想研究Ⅰ	研究の第一歩：問いを立て、テーマを探る	専任教員	演習	2	1		○	○	○	○		前期	時間割参照	必修
		SDPD1420T 社会構想研究Ⅱ	リサーチデザインを構築する	専任教員	演習	2	1		○	○	○	○		後期	時間割参照	必修
		SDPD2431T 社会構想研究Ⅲa	中間報告とロジックの深化	専任教員	演習	2	2		○	○	○	○		前期	時間割参照	必修
		SDPD2432T 社会構想研究Ⅲb	中間報告とロジックの深化	専任教員	演習	2	2		○	○	○	○		前期	時間割参照	
		SDPD2441T 社会構想研究Ⅳa	実践的価値の創造と社会への提言	専任教員	演習	2	2		○	○	○	○		後期	時間割参照	必修
		SDPD2442T 社会構想研究Ⅳb	実践的価値の創造と社会への提言	専任教員	演習	2	2		○	○	○	○		後期	時間割参照	
社会構想探究科目から8単位以上を修得する。																
科目区分	科目コード	科目名称	授業テーマ	担当教員	講義 演習	単位数	標準履 修年次	DP①リベラ ルアーツ・ 教養	DP②社会科 学的思考力	DP③実践的 な思考力	DP④リサー チ能力	DP⑤社会構 想提言能力	DP⑥社会構 想実践能力	学期	曜日	備考
自由科目	-	-	-	-	-	-	-	○								
自由科目から4単位までを修了単位に含めることができる。																

社会構想研究科 2025年度以前入学者向け 読み替え表

科目区分	科目コード	科目名称（2025年度以前）	単位数	標準履修年次	科目コード	科目名称（2026年度）	単位数	標準履修年次	備考
基礎科目	SDPA1101L	社会構想概論	2	1	SDPA1101L	社会構想概論	2	1	必修
	SDPA1102L	社会学基礎理論	2	1	SDPA1102L	社会学基礎理論	2	1	
	SDPA1103L	経営学基礎理論	2	1	SDPA1103L	経営学基礎理論	2	1	
	SDPA1104L	現代社会論	2	1	SDPA1104L	現代社会論	2	1	
	SDPA1105L	政治的リーダーシップ	2	1	SDPA1105L	政治学基礎理論	2	1	科目名称変更
	SDPA1106L	総合政策概論	2	1	SDPC2314L	地方自治制度論	2	2	科目区分変更・科目名称変更
	SDPA1107L	実践研究法Ⅰ	2	1	SDPF1501L	アカデミック・リサーチ	2	1	科目区分変更・科目名称変更
	SDPA1108S	実践研究法Ⅱ	2	1	SDPF1502S	質的データ分析	2	1	科目区分変更・科目名称変更
					SDPA1113L	リベラルアーツ概論Ⅰ	2	1	新設・基礎科目として履修可
					SDPA1110L	社会構想と法	2	1	
					SDPA1112S	クリエイティブ・シンキング	2	1	
					SDPF1503S	データ・サイエンス	2	1	
					SDPF2504S	マーケティング・リサーチ	2	2	
					SDPF2505S	ライティング・エディティング	2	2	
必修科目「社会構想概論」（2単位）を修得する。					－				
科目区分	科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	科目番号	科目名称	単位数	標準履修年次	備考
専門基礎科目	SDPB1201L	政策過程論	2	1	SDPB1201L	政策過程論	2	1	
	SDPB1202L	公共哲学	2	1	SDPB1202L	公共哲学	2	1	
	SDPB1203L	産業社会学	2	1	SDPB1203L	産業社会学	2	2	
	SDPB1204L	国際社会学	2	1	SDPA1111L	地政学と国際秩序	2	1	科目区分変更・科目名称変更
	SDPB1205L	都市社会学	2	1	SDPC2317L	都市計画論	2	2	科目区分変更・科目名称変更
	SDPB1206L	地域社会論	2	1	SDPB1206L	地域社会論	2	1	
	SDPB2207L	福祉社会学	2	2					対応科目なし
					SDPB2208L	行政学	2	2	新設・専門基礎科目として履修可
					SDPB2209L	財政学	2	2	
					SDPB2210S	公共コミュニケーション	2	1	
					SDPB1211L	企業理念・経営哲学	2	2	
					SDPB1212L	組織論	2	1	
					SDPB1213L	事業構想のためのファイナンス	2	1	
					SDPB2214L	マーケティング論	2	2	
					SDPB2215L	パブリック・リレーションズ	2	1	
					SDPB1216L	市民社会論	2	1	新設・専門基礎科目として履修可・社会教育士指定科目
					SDPB2217L	生涯学習の理論と発展	2	1	
					SDPB1218L	生涯学習支援論	2	1	
					SDPB1219L	社会教育経営論	2	1	
専門基礎科目から4単位以上を修得する。					－				
科目区分	科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	科目番号	科目名称	単位数	標準履修年次	備考
専門科目	SDPC1301L	政策構想論／グランドデザイン構想論	2	1	SDPC1301L	政策構想論	2	2	
	SDPC2302L	社会システム論	2	2	SDPA1109L	リベラルアーツ概論Ⅱ	2	1	科目区分変更・科目名称変更
	SDPC2303L	パブリック・アフェアーズ	2	2	SDPC2303L	ロビイング	2	2	科目名称変更
	SDPC2304L	デジタル社会論	2	2	SDPC2304L	デジタル社会論	2	2	
	SDPC2305L	国際関係論	2	2					対応科目なし
	SDPC2306L	インターカルチュラル・コミュニケーション	2	2	CDPC0327L	インターカルチュラル・コミュニケーション	2	1・2	CDのみ開設
	SDPC2307L	グローバル・リスク・ガバナンス／国際安全保障論	2	2	SDPC2307L	グローバル・リスク・ガバナンス	2	2	
	SDPC1308S	社会起業構想論	2	1	SDPC2308S	ソーシャル・イノベーション	2	2	科目名称変更
	SDPC2309L	社会政策論	2	2					対応科目なし
	SDPC2310L	ソーシャル・コミュニケーション	2	2	CDPC0309L	ソーシャル・コミュニケーション	2	1・2	CDのみ開設
	SDPC2311L	地域イノベーション論	2	2	SDPC2311L	地域イノベーション論	2	2	
					SDPC2312S	政策と戦略	2	2	新設・専門科目として履修可
					SDPC2313S	シティ・プロモーション	2	2	
					SDPC2315L	社会価値創造論	2	2	
					SDPC2316L	エコノミック・ステイトクラフト	2	2	
					SDPC2318L	環境と社会	2	2	
					SDPC2319L	コミュニティの理論と実践	2	2	
					SDPF1509S	社会構想事例研究Ⅰ	2	1	
					SDPF1510S	社会構想事例研究Ⅱ	2	1	
専門科目から8単位以上を修得する。					－				
科目区分	科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	科目番号	科目名称	単位数	標準履修年次	備考
探社会科構想					SDPF1506S	地域プロジェクトマネージャーの理論と実践	4	1	旧科目未履修の場合、3科目のうち1科目以上を社会構想探究科目として履修する・旧科目履修済みの場合、「経営構想実践」は履修不可
	SDPD1411S	グランドデザイン構想実践	6	1	SDPF1507S	経営構想実践	4	1	
	SDPD1412S	社会起業構想実践	6	1	SDPF1508S	社会教育演習	2	1	
					SDPD1410T	社会構想研究Ⅰ	2	1	必修
					SDPD1420T	社会構想研究Ⅱ	2	1	
					SDPD2431T	社会構想研究Ⅲa	2	2	必修・科目名称変更
	SDPD2421T	グランドデザイン構想研究	6	2	SDPD2432T	社会構想研究Ⅲb	2	2	選択・科目名称変更
	SDPD2422T	社会起業構想研究	6	2	SDPD2432T	社会構想研究Ⅳa	2	2	必修・科目名称変更
					SDPD2442T	社会構想研究Ⅳb	2	2	選択・新設
社会構想探究科目から12単位を修得する。					－				12単位以上の履修可

読み替えにあたっての注意

- ・修了要件は、原則として現に入学した年度の要件を適用する。
- ・新カリキュラムで変更があった科目の単位を旧カリキュラム適用時点の入学者が修得した場合、その科目は新カリキュラムにおける科目名称・単位数で単位認定をおこなう。
ただし、科目区分は、新カリキュラムにおける定めにかかわらず、旧カリキュラムにおける科目区分において修得したものとして扱う。
- ・旧カリキュラムで単位を修得済の場合、原則として新カリキュラムで対応する科目を履修することはできない。
ただし、「地域プロジェクトマネージャーの理論と実践」「社会教育演習」についてはこのかぎりではない。
- ・新カリキュラムでの新設科目は、原則として旧カリキュラム適用時点の入学者も履修可能とする。
この際、科目区分の扱いは、読み替え表記載のとおりとする。
（とくに「社会構想実践科目」の扱いは新カリキュラムと異なるので留意すること。）
- ・また、新設科目を自由科目として既に修得済みの場合、その科目は読み替え表記載の科目区分において修得したものとして扱う。
（この点にかかる特段の申請は不要とする。新カリキュラム適用後最初の成績明示の際に振り替えをおこなう。）
- ・「社会構想探究科目」については、旧カリキュラムにおける定めにかかわらず、12単位以上を修得することができる。
この際、修了要件の12単位を満たす組み合わせは、「社会構想研究Ⅰ」・「社会構想研究Ⅱ」（または「グランドデザイン構想実践」／「社会起業構想実践」）と、「社会構想研究Ⅲa」・「社会構想研究Ⅲb」を修得するかぎり、それ以外は任意とする。

社会構想研究科 令和8（2026）年度時間割

前期 A	月 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	火 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	水 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	木 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	金 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	土 1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40	土 3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50
	SDPC2317L 都市計画論 池邊 このみ	SDPF1501L アカデミック・リサーチ オムニバス	SDPF1509S 社会構想事例研究Ⅰ オムニバス	SDPA1103L 経営学基礎理論 中川 哲	SDPA1113L リベラルアーツ概論Ⅰ 下村 智典	SDPA1101L 社会構想概論 先崎 彰容	
	SDPA1111L 地政学と国際秩序 下平 拓哉		SDPB2214L マーケティング論 佐藤 達郎	SDPB1219L 社会教育経営論 荒木 貴之	SDPC2319L コミュニティの理論と実践 大谷 晃	SDPC2313S シティ・プロモーション 秋瀬 稔	
				SDPD1410T 社会構想研究Ⅰ 下村 智典・下平 拓哉・富井 久義			
	SDPD2431T-3・SDPD2432T-3 社会構想研究Ⅲa・Ⅲb 松江 英夫	SDPF1506S 地域プロジェクトマネージャーの理論 と実践 オムニバス		SDPD2431T-7・SDPD2432T-7 社会構想研究Ⅲa・Ⅲb 富井 久義	SDPD2431T-2・SDPD2432T-2 社会構想研究Ⅲa・Ⅲb 下平 拓哉	SDPD2431T-4・SDPD2432T-4 社会構想研究Ⅲa・Ⅲb 西田 淳一	SDPD1410T 社会構想研究Ⅰ 下村 智典・下平 拓哉・富井 久義

前期 B	月 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	火 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	水 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	木 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	金 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	土 1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40	土 3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50
	SDPB2209L 財政学 中村 玲子	SDPB2217L 生涯学習の理論と実践 川山 竜二	SDPA1102L 社会学基礎理論 富井 久義	SDPB1211L 企業理念・経営哲学 広木 隆	SDPA1105L 政治学基礎理論 下平 拓哉	SDPC2312S 政策と戦略 下平 拓哉	SDPF1507S 経営構想実践 河村 昌美・下平 拓哉
	SDPF2505S ライティング・エディティング 上岡 典彦	SDPB2208L 行政学 北島 純	SDPC1301L 政策構想論 松江 英夫	SDPD1410T 社会構想研究Ⅰ 下村 智典・下平 拓哉・富井 久義	SDPB1213L 事業構想のためのファイナンス 結城 秀彦	SDPB1203L 産業社会学 富井 久義	
	SDPD2431T-1・SDPD2432T-1 社会構想研究Ⅲa・Ⅲb 北島 純	SDPF1506S 地域プロジェクトマネージャーの理論 と実践 オムニバス	SDPC2308S ソーシャル・イノベーション 池邊 このみ	SDPD2431T-5・SDPD2432T-5 社会構想研究Ⅲa・Ⅲb 池邊 このみ	SDPD2431T-6・SDPD2432T-6 社会構想研究Ⅲa・Ⅲb 先崎 彰容		

後期 A	月 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	火 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	水 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	木 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	金 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	土 1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40	土 3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50
	SDPB1201L 政策過程論 下平 拓哉	SDPC2307L グローバル・リスク・ガバナンス 下平 拓哉	SDPF1510S 社会構想事例研究Ⅱ オムニバス	SDPF1508S 社会教育演習 荒木 貴之	SDPA1104L 現代社会学 大谷 晃	SDPA1109L リベラルアーツ概論Ⅱ 先崎 彰容	SDPC2315L 社会価値創造論 平塚 敦之
	SDPB1212L 組織論 田原 祐子	SDPF1503S データ・サイエンス オムニバス	SDPF2504S マーケティング・リサーチ 佐藤 達郎	SDPC2311L 地域イノベーション論 池邊 このみ	SDPF1502S 質的データ分析法 橋本 純次	SDPC2316L エコノミック・ステイトクラフト 下平 拓哉	
				SDPD1420T 社会構想研究Ⅱ 下村 智典・下平 拓哉・富井 久義			
	SDPD2441T-3・SDPD2442T-3 社会構想研究Ⅳa・Ⅳb 松江 英夫	SDPF1506S 地域プロジェクトマネージャーの理論 と実践 オムニバス		SDPD2441T-7・SDPD2442T-7 社会構想研究Ⅳa・Ⅳb 富井 久義	SDPD2441T-2・SDPD2442T-2 社会構想研究Ⅳa・Ⅳb 下平 拓哉	SDPD2441T-4・SDPD2442T-4 社会構想研究Ⅳa・Ⅳb 西田 淳一	SDPD1420T 社会構想研究Ⅱ 下村 智典・下平 拓哉・富井 久義

後期 B	月 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	火 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	水 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	木 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	金 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	土 1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40	土 3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50
	SDPB1206L 地域社会論 中村 玲子	SDPB1218L 生涯学習支援論 大谷 晃	SDPB1216L 市民社会論 富井 久義	SDPA1110L 社会構想と法 橋本 純次	SDPB1202L 公共哲学 下平 拓哉	SDPB2215L パブリック・リレーションズ 二木 真	SDPF1507S 経営構想実践 河村 昌美・下平 拓哉
	SDPB2210S 公共コミュニケーション 橋本 純次・山口 健太郎	SDPC2318L 環境と社会 富井 久義	SDPC2304L デジタル社会論 後藤 心平	SDPD1420T 社会構想研究Ⅱ 下村 智典・下平 拓哉・富井 久義	SDPA1112S クリエイティブ・シンキング 渡邊 信彦	SDPC2314L 地方自治制度論 西田 淳一	
	SDPD2441T-1・SDPD2442T-1 社会構想研究Ⅳa・Ⅳb 北島 純	SDPF1506S 地域プロジェクトマネージャーの理論 と実践 オムニバス		SDPD2441T-5・SDPD2442T-5 社会構想研究Ⅳa・Ⅳb 池邊 このみ	SDPD2441T-6・SDPD2442T-6 社会構想研究Ⅳa・Ⅳb 先崎 彰容		

授業名称	社会構想概論			科目区分	基礎科目
授業テーマ	未来社会のデザイン学			科目コード	SDPA1101L
担当教員	先崎 彰容	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	土 A (1・2 限)
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が「大きな視野」から日本社会のグランドデザイン（国家像・社会像）をつかめるようになることである。

現代社会は、国内外において、既存の価値観がゆさぶりを受け、変化を余儀なくされている。露中による国際秩序への変更要求、SNS や AI の登場による既存マスコミや選挙制度の限界などはその一例であり、日本国内では戦後システムが劣化し、次の国家像・社会像を生み出せないまま、失われた 30 年が過ぎていった。こうした国内外の現状に対して、安易な解決策や思いつきの処方箋を描くことは危険である。近視眼的な思い込みは、間違った社会構想しか生み出さない。

本授業では、眼前で起きる諸問題に対し一喜一憂する前に、歴史的な流れを俯瞰したい。具体的には、第二次大戦後、敗戦の焼け跡の中から、日本がどのように立ち上がり、独立を果たし、高度成長を達成し、成熟社会を形成してきたのか——激動の戦後史において、複数の思想家・政治家たちがどのような国づくりを目指してきたのかに注目し、講義する。つまり冒頭の「大きな視野」とは、戦後 80 年にわたる社会構想史の流れをたどり、我々の現在地を探りたい、という意味である。

到達目標

- ① 履修者が戦後の知識人・政治家の社会構想・国家像について理解し、解説できるようになる。
- ② 履修者が他者との対話に基づき現代社会の諸問題について、深い視点から議論できるようになる。
- ③ 履修者が修得した歴史観や社会構想に関する資料を、的確に要約し発表できるようになる。

授業計画			授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) ガイダンス 講義形式の説明と社会構想概念の説明	事前	シラバスの精読 (2h)	
対面有		事後	ディスカッションの復習 (2h)	
第 2 週	(第 2 講) 敗戦後の政治・思想状況を説明し、イメージを共有する。吉田茂・丸山眞男などを解説します。	事前	指定資料の読解 (4h)	
対面有	(第 3 講) 指定した資料にかんするレジメに基づいた、検討会と討論。	事後	レジメ資料の再検討・質問事項の整理 (2h)	
第 3 週	(第 4 講) 1960 年前後の政治・世相を説明し、イメージを共有する。岸信介・江藤淳などを解説します。	事前	指定資料の読解 (4h) 前回授業内容の復習 (2h)	
対面有	(第 5 講) 指定した資料にかんするレジメに基づいた、検討会と討論。	事後	レジメ資料の再検討・質問事項の整理 (2h)	
第 4 週	(第 6 講) 1968 年前後の政治の季節について、イメージを共有	事前	指定資料の読解 (4h) 前回授業内容の復習 (2h)	

対面有	する。田中角栄・吉本隆明などを解説します。 (第7講) 指定した資料にかんするレジメに基づいた、検討会と討論。	事後	レジメ資料の再検討・質問事項の整理 (2h)
第5週	(第8講) 1970年代の成熟社会を説明し、イメージを共有します。大平正芳・三島由紀夫などを解説します。	事前	指定資料の読解 (4h) 前回授業内容の復習 (2h)
対面有	(第9講) 指定した資料にかんするレジメに基づいた、検討会と討論。	事後	レジメ資料の再検討・質問事項の整理 (2h)
第6週	(第10講) 1980年代の日本を説明し、イメージを共有します。中曽根康弘・ポストモダン思想について説明します。	事前	指定資料の読解 (4h) 前回授業内容の復習 (2h)
対面有	(第11講) 指定した資料にかんするレジメに基づいた、検討会と対談。	事後	レジメ資料の再検討・質問事項の整理 (2h)
第7週	(第12講) 1990年代以降の失われた30年を解説し、イメージを共有します。小泉純一郎・佐伯啓思などを解説します。	事前	指定資料の読解 (4h) 前回授業内容の復習 (2h)
対面有	(第13講) 指定した資料にかんするレジメに基づいた、検討会と討論。	事後	レジメ資料の再検討・質問事項の整理 (2h)
第8週	(第14講) 授業全体の総括と討論 戦後の流れを俯瞰しつつ、総合的な討論をおこない、社会構想を練る。	事前	総合討論のための資料総復習 (5h) 最終レポート作成のための準備 (2h)
対面有	(第15講) 最終レポートの作成 授業中を用いて、簡易レポートの作成をおこなう。	事後	全体討論の見直し (3h)

授業の進め方と方法

上記目標・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行する。具体的には、授業前半は、教員による戦後の社会構想史にかんする講義を行う。授業後半は、教員が指定した教材に対してレジメの事前作成を課し、そのレジメに基づいて活発な議論を求める予定である。教員が必要と判断した場合、ゲスト・スピーカーを招聘し、議論を行うことも想定している。

教科書・参考書

教科書として、先崎彰容『国家の尊厳』（新潮新書、2021年）を挙げておく。

そのほかの推薦書などについては、毎回の授業で適宜、紹介する。

評価方法

①毎回の授業での議論への参加とレジメの作成 (50%) ②最終レポート課題の提出 (50%)

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。

2025年度以前の科目との読み替え

－						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	－	－	－	－

授業名称	リベラルアーツ概論Ⅰ			科目区分	基礎科目
授業テーマ	専門を超える「知のOS」			科目コード	SDPA1113L
担当教員	下村 智典	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位
標準履修年次	1年次	開講学期	前期	曜日	金A
年間開講数	1回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が俯瞰的な視野に立って社会を構想する力を養成することである。「構想」するためには、事象や対象をさまざまな角度から眺め、それらの本質に立ち返って見つめ直す思惟が求められる。むしろ、「構想」すること自体が社会の本質を問うことと不可分であるとさえ言うだろう。したがって、本授業では、「構想」することそれ自体、あるいは「つくること」それ自体を問い直し、社会そのものの在り方を哲学的・思想的に考察することによって、履修者が自らの社会構想のための視座を獲得することを目指す。

到達目標

- ① 自らの社会構想を考えるうえでの拠り所となる哲学や思想を明確化することができる。
- ② 社会科学系のリベラルアーツをもとに、専門を超えた知見で社会を捉えることができる。
- ③ 「構想」することそれ自体について、俯瞰的・根源的に理解することができる。

授業計画		授業外の学習	
第1週	(第1講) ガイダンス 授業の進め方についての説明を行なうとともに、社会構想のた	事前	シラバスを精読し、授業から想定される学びを自分に引き付けて展望する (3h)
対面有	めのリベラルアーツについて概観する	事後	授業内容を復習する (2h)
第2週	(第2・3講) 「設計」としての「構想」① リベラル思想の「設計主義」と、保守思想の「反・設計主義」	事前	授業のキーワードに基づいて予習する (2h)
対面有	から、「構想 (つくること)」について考える	事後	授業内容を復習する (3h)
第3週	(第4・5講) 「設計」としての「構想」② 「イデアリズム (理想主義)」と「ニヒリズム (虚無主義)」を	事前	授業のキーワードに基づいて予習する (2h)
対面有	めぐる哲学と思想から、「構想 (つくること)」について考える	事後	授業内容を復習する (3h)
第4週	(第6・7講) 「プロダクション」としての「構想」① 現代文明における「経済成長主義」や「イノベーション」	事前	授業のキーワードに基づいて予習する (2h)
対面有	をめぐる思想から、「構想 (つくること)」について考える	事後	授業内容を復習する (3h)
第5週	(第8・9講) 「プロダクション」としての「構想」② 「何かを生み出すこと (ポイエーシス)」「制作知 (テクネー)」	事前	授業のキーワードに基づいて予習する (2h)
対面有	「技術 (アート)」をめぐる哲学と思想から、「構想 (つくること)」について考える	事後	授業内容を復習する (3h)
第6週	(第10・11講) 「構想」をめぐる西欧と日本① 「つくる」「うむ」「なる」という観点で西欧と日本を対置させ、	事前	授業のキーワードに基づいて予習する (2h)
対面有	「構想 (つくること)」について考える	事後	授業内容を復習する (3h)
第7週	(第12・13講) 「構想」をめぐる西欧と日本②	事前	授業のキーワードに基づいて予習する (2h)

対面有	前回同様、「つくる」「うむ」「なる」という観点で西欧と日本を対置させ、「構想（つくること）」について考える	事後	授業内容を復習する（3h）			
第 8 週	（第 14・15 講）授業全体の総括としての発表と討論	事前	発表の準備をする（10h）			
対面有	授業で扱った内容全体を踏まえて、自分が関心を持ったテーマについて発表し、全体で質疑応答を行なう	事後	最終レポートを作成する（15h）			
授業の進め方と方法						
● 本授業は、授業前半を講義形式で行ない、授業後半はディスカッション形式で行なう。 ● 毎回の授業の最後にコメントペーパーを提出する。 ● 第 8 週に、「自らの社会構想を考えるうえでの拠り所となる哲学や思想」について各履修者が発表し、全体で質疑応答を行なう。また、その発表内容を最終レポートに仕上げて提出する。						
教科書・参考書						
教科書は指定しない。 参考書は、佐伯啓思（2020 年）『近代の虚妄——現代文明論序説』東洋経済新報社。 その他の参考書については、随時、授業内で紹介する。						
評価方法						
● ディスカッションへの参加およびコメントペーパーの内容（50%） ● 第 8 週の発表内容および最終レポートの内容（50%）						
その他の重要事項						
● 担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第 1 週の授業で説明する。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● 新設・基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	—	—	—	—

授業名称	リベラルアーツ概論II			科目区分	基礎科目
授業テーマ	専門を超える「知のOS」			科目コード	SDPA1109L
担当教員	先崎 彰容	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	土 A (1・2 限)
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択
授業の目的					
本授業の目的は、履修者が、我々が生きる社会全体を「長期的な視野」「俯瞰的視野」から理解し、その教養に基き、現代社会に的確な提言を行える能力を身に着けることである。現代社会システムの根幹は、資本主義・議会制民主主義・大衆化・文明開化など、百年単位の大きな枠組みで構成されている。 本授業では具体的に、毎回、授業前半では古典的著作の紹介を中心に社会システムの概説をおこなう。授業後半では、教員が指定した月刊誌・新書・研究論文などについて一名の学生にレジメの作成と発表をしてもらい、それに基づく活発なディスカッションをおこなう。					
到達目標					
① 履修者が資本主義・議会制民主主義など、社会システムの根幹について理解できるようになる。 ② 履修者が他者との対話に基づき、現代社会の諸問題について俯瞰的に説明できるようになる。 ③ 履修者が修得した理論や視点をもとに、現代社会を説得的に説明できるようになる。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) ガイダンス			事前	シラバスの精読 (2h)
対面有	講義形式の説明と社会システム概念の説明			事後	ディスカッションの復習 (2h)
第 2 週	(第 2 講) 民主主義とは何か① 民主主義に関する基礎的文献の解説を中心に解説をおこな い、その可能性と危うさを考える。			事前	指定資料の読解 (4h)
対面有	(第 3 講) 指定した資料にかんするレジメに基づいた、検討会とディスカ ッションをおこなう。			事後	レジメ資料の再検討・質問事項の整 理 (2h)
第 3 週	(第 4 講) 民主主義とは何か② 前回同様、民主主義に関する基礎的文献の解説をおこなう。 歴史的な観点から考える。			事前	指定資料の読解 (4h) 前回授業内容の復習 (2h)
対面有	(第 5 講) 指定した資料にかんするレジメに基づいた、検討会とディスカ ッションをおこなう。			事後	レジメ資料の再検討・質問事項の整 理 (2h)
第 4 週	(第 6 講) 資本主義とは何か① 資本主義に関する新しい研究のうち、哲学・思想性の強い M・			事前	指定資料の読解 (4h) 前回授業内容の復習 (2h)

対面有	ヴェーバー、マルクスなどを中心に解説をおこなう。 (第7講) 指定した資料にかんするレジメに基づいた、検討会とデスカッションをおこなう。	事後	指定資料の読解・質問事項の整理 (2h)
第5週	(第8講) 資本主義とは何か② 前回同様、資本主義とは何かを考える。理論的な観点に加えて、現代社会システムに対する影響を論じる。 (第9講) 指定した資料にかんするレジメに基づいた、検討会とデスカッションをおこなう。	事前	指定資料の読解 (4h) 前回授業内容の復習 (2h)
対面有		事後	指定資料の読解・質問事項の整理 (2h)
第6週	(第10講) ナショナリズムとは何か① ナショナリズムに関する基礎的文献の解説をおこない、その可能性と危うさを考える。 (第11講) 指定した資料にかんするレジメに基づいた、検討会とデスカッションをおこなう。	事前	指定資料の読解 (4h) 前回授業内容の復習 (2h)
対面有		事後	指定資料の読解・質問事項の整理 (2h)
第7週	(第12講) ナショナリズムとは何か② ナショナリズムについて、近代国家日本のなり立ちを知る観点から解説をおこなう。 (第13講) 指定した資料にかんするレジメに基づいた、検討会とデスカッションをおこなう。	事前	指定資料の読解 (4h) 前回授業内容の復習 (2h)
対面有		事後	指定資料の読解・質問事項の整理 (2h)
第8週	(第14講) 全体講義総括 民主主義・資本主義・ナショナリズムの三つの概念で分析した近代社会システムについて総括的討論をおこなう。 (第15講) 最終レポート作成 授業時間中を用いて、簡易レポートの作成をしてもらう。	事前	総合討論のための資料総復習 (5h) 最終レポート作成のための準備 (2h)
対面有		事後	全体討論の見直し (3h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とデスカッションを中心に進行する。具体的には、授業前半を講義形式でおこない、授業後半は学生作成のレジメに基づく討論をおこなう。外部講師の招聘も検討中。

教科書・参考書

教科書として、先崎彰容『ナショナリズムの復権』（ちくま新書、2013年）を挙げておく。

評価方法

①毎回の授業での議論への積極的参加とレジメの提出 (50%) ②最終レポート課題 (50%)

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。

本授業はハイフレックスとし、教員が必要と認めた場合、外部講師の招聘を予定している。

2025 年度以前の科目との読み替え						
● 社会システム論（専門科目・SDPC2302L）						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	—	—	—	—

授業名称	社会学基礎理論			科目区分	基礎科目
授業テーマ	社会の仕組みを科学する			科目コード	SDPA1102L
担当教員	富井 久義	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、社会学の基本的な理論や視座、発想法を理解し、社会的想像力を身につけることにある。社会課題に取り組み、実行可能な解決策を見いだしていくためには、その課題の社会的な位置づけを見定める俯瞰的な視点や、課題を多角的にとらえる複眼的思考が求められる。「より大局的な歴史的場面を、個人ひとりひとりの内的な精神生活や外的な職業経歴によってそれがどのような意味をもっているのか」(C. W. Mills 1959＝2017: 19) を考える社会的想像力を身につけることは、そうした能力を身につける一助となるだろう。

本授業では、主要な社会学者の理論を紹介するテキストと近年の日本の社会学において評価されている論文を講読することで、社会的想像力の多様な発揮のしかたについて検討したうえで、履修者の関心や課題に近い社会学理論を習得することをめざす。

到達目標

- ① 社会学の基本的な理論をもちいて、関心をもつ世の中のさまざまな事象を解釈・説明することができる。
- ② 社会的想像力について理解し、関心をもつ社会課題に関連づけて説明することができる。
- ③ 関心をもつ社会課題に関連することがらについて、社会学の理論をもちいて説明することができる。

授業計画			授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) イントロダクションー社会学とはなにか、授業の進め方、取り上げる文献の選定と報告担当の分担	事前	シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h)	
対面有		事後	コメントペーパー記入、『社会学の歴史』第 1 章・「講義再開にあたって」を読み、質問・感想・コメントを考える (4h)	
第 2 週	(第 2 講) 『社会学の歴史』を読む①	事前	授業で取り上げる文献を読み、質問・感想・コメントを考える (3h)	
対面有	(第 3 講) 日本社会学会奨励賞受賞論文を読む①	事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)	
第 3 週	(第 4 講) 『社会学の歴史』を読む②	事前	授業で取り上げる文献を読み、質問・感想・コメントを考える (3h)	
対面有	(第 5 講) 日本社会学会奨励賞受賞論文を読む②	事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)	
第 4 週	(第 6 講) 『社会学の歴史』を読む③	事前	授業で取り上げる文献を読み、質問・感想・コメントを考える (3h)	
対面有	(第 7 講) 日本社会学会奨励賞受賞論文を読む③	事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)	
第 5 週	(第 8 講) 『社会学の歴史』を読む④	事前	授業で取り上げる文献を読み、質問・感想・コメントを考える (3h)	
対面有	(第 9 講) 日本社会学会奨励賞受賞論文を読む④	事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)	
第 6 週	(第 10 講) 『社会学の歴史』を読む⑤	事前	授業で取り上げる文献を読み、質問・感想・コメントを考える (3h)	
対面有	(第 11 講) 日本社会学会奨励賞受賞論文を読む⑤	事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)	
第 7 週	(第 12 講) 『社会学の歴史』を読む⑥	事前	授業で取り上げる文献を読み、質問・感想・コメントを考える (3h)	

対面有	(第 13 講) 日本社会学会奨励賞受賞論文を読む⑥	事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)			
第 8 週	(第 14 講) 『社会学の歴史』を読む⑦ (第 15 講) 日本社会学会奨励賞受賞論文を読む⑦	事前	授業で取り上げる文献を読み、質問・感想・コメントを考える (3h)			
対面有		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、最終レポート課題への取り組み (16h)			
授業の進め方と方法						
本授業は第 2 週以降、2 種類の文献購読によって進める。前半で取り上げるのは奥村隆の『社会学の歴史』Ⅰ・Ⅱであり、後半で取り上げるのは日本社会学会奨励賞受賞論文である。 各講とも、担当者ひとりが文献の内容について作成したレジュメに基づく報告をおこなったうえで、質問・感想・コメントを出し合う討論の時間を設け、その内容や派生する論点について理解を深めていく。履修者は事前学習として、各講で取り上げる文献を読み、討論で取り上げる質問・感想・コメントを考えておくことが求められる。また毎週の事後学習として、授業で学んだこと、意見・質問・感想、討論への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。 具体的な授業の進め方や取り上げる文献の選定、報告担当の分担については、第 1 週で説明する。 このほか、自身が関心を持つ社会課題に関連する社会学の文献ひとつについて、内容紹介とその活用可能性を検討する最終レポート課題を課す。						
教科書・参考書						
【教科書】 ● 奥村隆, 2014, 『社会学の歴史Ⅰ—社会という謎の系譜』有斐閣. ● 奥村隆, 2023, 『社会学の歴史Ⅱ—他者への想像力のために』有斐閣. 【参考書】 ● アンソニー・ギデンズ／フィリップ・サットン, 2021=2025, 『社会学 第九版 上』而立書房. ● アンソニー・ギデンズ／フィリップ・サットン, 2021=2025, 『社会学 第九版 下』而立書房. ● 長谷川公一ほか, 2019, 『社会学 新版』有斐閣. ● 田中正人編, 2019, 『社会学用語図鑑』プレジデント社.						
評価方法						
● コメントペーパーの内容 30% ● ディスカッションへの貢献 30% ● 最終レポート課題の内容 40%						
その他の重要事項						
● 担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第 1 週の授業で説明する。 ● 日本社会学会奨励賞受賞論文の一覧は次の URL から確認することができる。 https://jss-sociology.org/news/jimukyoku/board/20100215post_120/						
2025 年度以前の科目との読み替え						
—						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	—	—	—	—

授業名称	経営学基礎理論			科目区分	基礎科目
授業テーマ	人を動かす組織の科学			科目コード	SDPA1103L
担当教員	中川 哲	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	木 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、これまで経営学を専門的に学んでこなかった受講者が経営学の基本原則と理論について理解し、現代のビジネス環境で活用するための知識とスキルを身に付けることにある。

授業では、経営戦略、組織とリーダーシップ、マーケティング、人的資源管理、財務・会計を含む経営の流れや企業文化など、経営の各分野にわたる重要なトピックを網羅する。受講者は、事例を中心としたディスカッションを通じて、理論と実務の結びつきを学ぶ。また、経営倫理と社会的責任についても学び、倫理的かつ社会的に責任ある経営者とのコミュニケーションプロトコルの確立を目指す。将来経営者やビジネスリーダーを目指す受講者、また、経営戦略に基づいた社内外のコミュニケーションを行う広報リーダーにとって、そのキャリアを形成する上で不可欠な基礎知識を提供する。

到達目標

- ① 履修者が経営学の基本原則と理論を理解し、それらを実際のビジネスシナリオに応用する能力を身に付ける。
- ② 履修者が戦略的思考、効果的な問題解決能力、そして批判的分析スキルを習得し、多様なビジネス環境での意思決定に役立てる能力を身に付ける。
- ③ 履修者が経営倫理と社会的責任に関する深い理解を持ち、倫理的かつ責任あるリーダーシップを発揮する基盤を築く。

授業計画			授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション (本授業の目的・到達点・授業の進め方、経営学の必要性と全体像把握)	事前	シラバスの精読 (1h) 到達目標についての自己設定 (2h)	
対面有		事後	リフレクション (2h)	
第 2 週	(第 2・3 講) 経営戦略：企業経営の根幹となる経営戦略について、企業理念 (ミッション、ビジョン、バリュー)、戦略策定のためのフレームワーク (SWOT、3C 分析など) の理解	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備 (4h)	
対面有		事後	リフレクション (2h)	
第 3 週	(第 4・5 講) マーケティング：企業の成長を支えるマーケティングについて、マーケットリサーチ、4P 分析や 5Force 分析、STP 分析を通じたマーケティング戦略策定についての理解	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備 (4h)	
対面有		事後	リフレクション (2h)	
第 4 週	(第 6・7 講) 組織とリーダーシップ、システムとしてのインセンティブとモチベーションマネジメント：企業戦略に沿った組織の形態、目標に向けてメンバーを導くリーダーの取り組みについての理解、また、人事システム・組織文化といった人を効果的に動かす仕組みの理解	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備 (4h)	
対面有		事後	リフレクション (2h)	
第 5 週	(第 8・9 講) 経営管理：取締役会や決算報告、株主総会の役割	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備 (4h)	

対面有	と各種の経営管理、企業資源計画（ERP）についての理解	事後	リフレクション（2h）			
第 6 週	（第 10・11 講）企業文化と理念：企業文化と理念の定義、構築、そして、ビジネスへの影響についての理解	事前	本週の内容に関する学習（2h） 発表準備（4h）			
対面有		事後	リフレクション（2h）			
第 7 週	（第 12・13 講）企業倫理とコンプライアンス、企業の社会的責任（CSR）：企業倫理とコンプライアンスの定義や重要性、問題発生時のビジネスへの影響についての理解、また、企業の社会的責任（CSR）についての理解	事前	本週の内容に関する学習（2h） 発表準備（4h）			
対面有		事後	リフレクション（2h）			
第 8 週	（第 14・15 講）課題の発表と全体ディスカッション・講評～授業総括	事前	発表準備（5h）			
対面有		事後	リフレクション（2h）			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は授業範囲の内容を各自が事前学習することが求められる。また、第 2－7 週の授業では、受講者が持ち回りで授業範囲について発表を行い、全参加者でディスカッションを行う。また、各自、授業についてのリフレクションを行い、授業終了後に提出する。 第 8 週の授業では、第 7 週までに学んだ内容を自身が所属する組織や自身の担当業務に重ね合わせて課題設定と考察を行い、まとめ発表を行うものとする。 なお、各回の講義内容については、受講者の既有知識や社会の情勢変化、ゲスト講師の招聘に対応して変更することがある。						
教科書・参考書						
教科書は特に指定しない。 参考書：伊丹敬之、加護野忠男（2022）『ゼミナール経営学入門 第 4 版』，日本経済新聞社。 幸田達郎（2023）『MBA テキスト経営学入門』,勁草書房。						
評価方法						
● 第 2 週～7 週の授業での発表資料準備とその資料を用いた発表（25%） ● 第 2 週～7 週の授業でのディスカッションへ参加や発言内容などの貢献度（25%） ● 第 2 週～7 週の授業終了後のリフレクション（25%） ● 第 8 週の授業での発表内容（25%）						
その他の重要事項						
● 毎回の授業で、次回の授業範囲と発表担当者を伝達するので、各自予習し、発表担当者は発表準備をすること。 ● 本授業の各回講義を欠席する場合は、Teams 等を通じて事前に連絡すること。 ● 担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
—						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	—	—	—	—

授業名称	政治学基礎理論			科目区分	基礎科目
授業テーマ	「正しさ」をめぐる思考実験			科目コード	SDPA1105L
担当教員	下平 拓哉	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	金 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が現代の政治と政治分析に関する基礎的知識を身につけ、現在の日本社会やグローバル社会が直面する政治上の問題について考察できるようになることにある。本授業では、政治体制や政治思想、権力論、生政治といったテーマについて理論と実践の両面から学ぶことで、履修者は理想とする社会や組織のグランドデザインを構想し、実装するための前提となる基本を得ることができる。授業は講義とそれに基づく議論により進行する。

到達目標

- ① 履修者が現代の政治と政治分析に関する基礎的知識を理解することができる。
- ② 履修者が政治体制や権力論といった具体的な政治テーマについて考究し、現実の政治現象を解明するための視座を身につけることができる。
- ③ 履修者が日本を含めた現在の世界がどのような問題を抱え、どのように立ち向かっていくのかを多角的に考究し、自分なりの一貫した判断ができる軸を形成することができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 政治学とはなにか イントロダクション、職業としての政治、現代政治を捉える	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)
対面有	ための視座と方法等について概観する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h)
第 2 週	(第 2 講／第 3 講) 政治学の発達と基礎概念 政治とは何か、よい政治とは何か、プラトンとアリストテレス、ホッブス問題、権力と生政治、公共性等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 3 週	(第 4 講／第 5 講) 政治体制と政治変動 国家とは何か、政治体制・政治変動、民主主義・全体主義・権威主義、福祉国家、比較政治等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 4 週	(第 6 講／第 7 講) 政治制度と政策 政治的代表とは何か、コンヴィヴィアリティ、制度論、執政制度 (議院内閣制等)、官僚制、政策科学等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第 5 週	(第 8 講／第 9 講) 政治思想の系譜 善とは何か、理想主義と現実主義、国益、国力、マキャベリ、ロック、ルソー、近代日本政治思想史 (吉田松陰、福沢諭吉、中江兆民、平塚らいてう、田中角栄等) 等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第 6 週	(第 10 講／第 11 講) 現代政治の諸問題 愛とは何か、啓蒙、理性、フェミニズム、多文化主義、エコロジー、正しい戦争、シティズンシップ等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)

第7週	(第12講／第13講) 政治の省察	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)			
対面有	幸福とは何か、政治を根本的に問い直すためには、国制研究、宗教、統治、ヒューマニズム、文明等について考究する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)			
第8週	(第14講／第15講) 総括討論	事前	総括討論に向けた資料作成 (10h)			
対面有	「現代政治」にかかわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。 ※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。						
教科書・参考書						
教科書は指定しない。以下、参考文献を列記する。 ● Andrew Heywood (2019) <i>Politics</i> 5th ed., Red Globe Press. ● Matthew Laing (2020) <i>Political Leadership: An Introduction 1st ed.</i>, Red Globe Press. ● イヴァン・イリイチ (2015) 『コンヴィヴィアリティのための道具』, 筑摩書房。 ● バーナード・クリック (2003) 『現代政治学入門』, 講談社。 ● マックス・ヴェーバー (1980) 『職業としての政治』, 岩波書店。 ● 岡崎晴輝・木村俊道編 (2008) 『はじめて学ぶ政治学』, ミネルヴァ書房。 ● 加茂利男他 (2012) 『現代政治学』, 有斐閣。 ● 川出良枝・谷口将紀編 (2022) 『政治学 第2版』, 東京大学出版会。 ● 小林章夫 (2000) 『コーヒー・ハウス：18世紀ロンドン、都市の生活史』, 講談社。 ● 西田幾多郎 (1979) 『善の研究』, 岩波書店。 ● 矢部貞治 (1977) 『政治学入門』, 講談社。						
評価方法						
以下の観点ごとに評価し、100点満点になるよう換算する。 60点を超えるものに単位を付与する。 1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 2. 最終授業回での発表ならびにディスカッション (65%)						
その他の重要事項						
オフィスアワーの予約方法：Microsoft Teams チャット機能で連絡（相談内容については問わない）						
2025年度以前の科目との読み替え						
● 政治的リーダーシップ（基礎科目・SDPA1105L）						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	－	－	－	－

授業名称	社会構想と法			科目区分	基礎科目
授業テーマ	未来のためのルールメイキング			科目コード	SDPA1110L
担当教員	橋本 純次	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	木 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が法学の基礎的知識と思考法（リーガル・マインド）を修得するとともに、社会のルールとしての「法」に通奏する理論や価値観を理解することで、社会をデザインするための基礎的能力を身につけることにある。

そのために本授業では、国民が公権力を制御するための「憲法」と、公権力が国民を統制するための「法律」の違いを適切に認識しながら（とりわけ公法を中心に）法的知識を修得する。また、条文と事案を往還しながら「合理的な結論」に至るための思考法を獲得することを目的として、具体的な判例を基礎とした学びを展開する。なお、現代社会の実相をみれば法の理想や規範がそれだけでは必ずしも十分に機能しえないことは明らかである。本授業では「公権力による人権侵害と規範の逸脱が常態化した現代社会において、それでもなお『法の支配』を貫徹するためにどのような日常的な取り組みが求められるか」という論点にも言及する。

本授業は法学の初学者による履修を歓迎する。

到達目標

- ① 履修者が法学の基礎的知識と思考法を身につける。
- ② 履修者が判例を収集し、読み解くための能力を身につける。
- ③ 履修者が任意の分野における法的課題を解決するための道筋を立てられるようになる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) インTRODakションー法学とはなにか／法教育では なにが扱われ、なにが扱われないのか	事前	シラバスの精読 (1h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された映像の視聴 (2h)
第 2 週	(第 2・3 講) 国内法の全体構造と法的思考法の基礎	事前	指定された文献の精読 (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の復習 (2h)
第 3 週	(第 4・5 講) 憲法入門：「法の支配」と「人権」を中心に	事前	指定された文献の精読 (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の復習 (2h)
第 4 週	(第 6・7 講) 発表①：憲法判例を読み解く	事前	発表準備 (判例の精読) (6h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の復習 (2h)
第 5 週	(第 8・9 講) 行政法入門：行政法理の基礎／行政法規の読み方	事前	指定された文献の精読 (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の復習 (2h)
第 6 週	(第 10・11 講) 発表②：行政法判例を読み解く	事前	発表準備 (判例の精読) (6h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の復習 (2h)

第7週	(第12・13講) 法学以外の視点から法制度のあり方を考えるための思想と技術	事前	指定された文献の精読 (3h)			
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の復習 (2h)			
第8週	(第14・15講) 「法の支配」をめぐるコミュニケーションのあり方	事前	指定された文献の精読 (3h)			
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の復習 (2h) 最終レポート課題の提出 (8h)			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行する。また、一部の授業回において履修者は事前に憲法（第4週）および行政法（第6週）に関する判例を精読し、内容を発表する（扱う判例は初回授業で指定する）。当該授業回の事前学習として、自身が発表しないものも含めて判決文を読み、事前にコメントを考えておくことを求める。このほか「自身が関心を持つ社会課題に関連する法的問題をどのように解決すべきか」という点について記述する最終レポート課題を課す。						
教科書・参考書						
教科書は用いない。 参考書等として						
● e-GOV 法令検索 (https://laws.e-gov.go.jp/) ● 裁判所ウェブサイト「裁判例検索」 (https://www.courts.go.jp/hanrei/search1/index.html) ● 吉田利宏 (2022) 『元法制局キャリアが教える 法律を読む技術・学ぶ技術 [改訂第4版]』，ダイヤモンド社. ● 松井茂記ほか (2025) 『はじめての法律学 H と J の物語』，有斐閣アルマ. ● 伊藤正己 (2006) 『憲法入門 [第4版補訂版]』，有斐閣双書. ● 深澤龍一郎ほか (2018) 『公共政策を学ぶための行政法入門』，法律文化社. ● 齋藤健一郎ほか編 (2025) 『図録 行政法』，弘文堂.						
評価方法						
● コメントペーパーの内容 30% ● 第4週・第6週での発表 30% ● 最終レポート課題の内容 40%						
その他の重要事項						
● 担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。						
2025年度以前の科目との読み替え						
● 新設・基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	－	－	－	－

授業名称	現代社会論			科目区分	基礎科目
授業テーマ	“いま”を読み解く社会地図			科目コード	SDPA1104L
担当教員	大谷 晃	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	金 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、現代社会における教育や人材育成、コミュニケーションの位置づけを明らかにするために、社会学の主要な概念と方法をもちいて現代社会の分析をおこなうことである。

現代社会はどのような社会なのか。どのようにすれば現代社会を分析的にとらえることができるのだろうか。現代社会について理解を深めることは、私たちが生きる社会についての複眼的な視座を身につけ、解像度を高めていくことにつながる。そしてそれは、履修者各自が関心を有する社会課題や経営課題についての社会的な位置づけを明らかにする一助となる。

本授業では、グローバル化・階層と資源の分配・社会関係の変容をめぐる議論等を中心に、現代社会を論じる社会学の議論を検討することで、履修者各自が現代社会を論じる視座を身につけることをめざす。

到達目標

- ① 履修者が、現代社会を分析するための主要な概念や発想法を理解し、説明することができる。
- ② 履修者が、現代社会を分析する議論について、みずから関心をもつ社会課題や経営課題に関連づけて説明することができる。
- ③ 履修者が、現代社会を分析する議論について、分析視角、知見、課題を正しく読解することができる。

授業計画			授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 現代社会をとらえるための視座と方法① ——イントロダクション	事前	シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h)	
対面有		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、予習・復習スケジュールの割当検討 (1h)	
第 2 週	(第 2・3 講) 現代社会をとらえるための視座と方法② ——現代社会をめぐる理論と社会学の調査方法	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2 h)	
対面有		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2 h)	
第 3 週	(第 4・5 講) 地域・都市社会とコミュニティの変容 ——地域開発、住民組織、ネットワーク、まちづくり、バーチャル・コミュニティ	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2 h)	
対面有		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)	
第 4 週	(第 6・7 講) 少子高齢化の進展と福祉国家 ——家族の戦後体制、少子化対策、資源の分配、ボランティア・NPO	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)	
対面有		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)	
第 5 週	(第 8・9 講) グローバル化と移動 ——マクドナルド化・空間の再編、観光のまなざし、世界都市仮説	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)	
対面有		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、課題発表文献の選択 (2h)	

第 6 週	(第 10・11 講) 知識・情報とメディア、階層 ——文化資本、知識社会、格差社会	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
対面有		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、課題発表文献の精読 (6h)
第 7 週	(第 12・13 講) 政治不信と民主主義 ——政治意識、政治参加、新しい社会運動、 分極化、アイデンティティ、熟議	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
対面有		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第 8 週	(第 14・15 講) 現代社会論を読む——課題発表と討論	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、課題発表準備 (12h)
対面有		事後	コメントペーパー (発表へのリアクション含む) 記入 (3h)、授業内容の復習 (2h)
授業の進め方と方法			
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は担当教員による社会学理論や方法の講義に加え、履修者によるディスカッションを取り入れる形で進める。本授業は、第 2 週目以降、2 講連続で実施する。 第 2 週から第 7 週の授業は概ね、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義 (話題提供)、ディスカッション (演習課題) で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーにはフィードバックを行い、次週の授業冒頭のふりかえりの際にいくつかを紹介する。 第 8 週については、各履修者の関心に近い現代社会についての論文を取り上げ、その分析視角・知見・課題等を発表し、討論をおこなうかたちで進行する。			
教科書・参考書			
【教科書】 指定しない 【参考書】 以下の文献を参照。また、それ以外にも初回および毎回の授業で参考書・参考資料を提示する。 ● 本田由紀編 (2015)『現代社会論』有斐閣。 ● 長谷川公一ほか (2019)『社会学 新版』有斐閣。 ● アンソニー・ギデンズ, 松尾精文・成富正信訳 (2006=2009)『社会学 第五版』而立書房。 ● アルベルト・メルッチ, 新原道信・長谷川啓介・鈴木鉄忠訳 (1996=2008)『プレイング・セルフ——惑星社会における人間と意味』ハーベスト社。			
評価方法			
● コメントペーパーの内容 30% ● ディスカッションへの貢献 30% ● 第 8 週の課題発表の内容 40%			
その他の重要事項			
担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第 1 週の授業で説明する。 * 担当教員の連絡先: 大谷晃 (akira.otani@sentankyo.ac.jp)			
2025 年度以前の科目との読み替え			

—						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	—	—	—	—

授業名称	地政学と国際秩序			科目区分	基礎科目
授業テーマ	地図で読み解く世界戦略			科目コード	SDPA1105L
担当教員	下平 拓哉	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	月 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、これまで国内外で多様な論者により議論が深められてきた地政学と国際秩序に関する基本的概念とその関連知識を網羅的に把握するとともに、地政学と国際秩序をめぐる論点がどこにあるかの確に捉えるための視点を修得することにある。国際関係には常に地政学的要素が関係する。冷戦の終焉とグローバル化の進展は、地理の終焉をもたらすという期待があったが、ロシアのウクライナ侵攻や米中対立の顕在化は、新しい地政学の時代の到来を印象づけた。その地政学とはより実践的な知の積み重ねによるものの見方、考え方である。本授業では、伝統的地政学理論とともに、新しい日本の地政学的問題と新しい国際秩序といったテーマを中心に考察し、履修者は理想とする社会や組織のグランドデザインを構想し、実装するための前提となる基本を得ることができる。授業は講義とそれに基づく議論により進行する。

到達目標

- ① 履修者が地政学と国際秩序に係る基本的概念、そして均衡・協調・共同体といった地政学と国際秩序における重要な諸概念の現代的意義を理解することができる。
- ② 履修者がそうした概念を、現代世界で生起している諸問題との関連で考究し、それら諸問題の解決策を探る基礎的な能力を身につけることができる。
- ③ 履修者が地政学と国際秩序に係る名著のエッセンスを理解し、その示唆を現代の具体的事例に照らして解釈し、自分なりの一貫した判断ができる軸を形成することができる。

授業計画			授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 地政学とはなにか イントロダクション、地球儀の見方、地図の読み方、地政学的直観力、未来地政学 2030 等について概観する。	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h)	
第 2 週	(第 2 講／第 3 講) 地政学の射程 蘇る地政学、ランドパワーとシーパワー、グランドストラテジー、教養としての地政学等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)	
第 3 週	(第 4 講／第 5 講) 新たなグレートゲーム 大国間競争の地政学、インド太平洋と一帯一路、地政学と地経学、グローバル・ガバナンス等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)	
第 4 週	(第 6 講／第 7 講) 新しい日本の地政学的問題① 海洋国家日本の構想等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)	
第 5 週	(第 8 講／第 9 講) 新しい日本の地政学的問題② クオリティ国家、日本学等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)	

第6週	(第10講／第11講) 新しい国際秩序の模索① 帝国とマルチチュード、均衡・協調・共同体、帝国論、国際	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)
対面有	秩序のグローバル化、太平洋の世紀等について考究する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)
第7週	(第12講／第13講) 新しい国際秩序の模索② アジア主義、脱亜論、大東合邦論、東洋の理想、大東亜新秩	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)
対面有	序、小日本主義等について考究する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)
第8週	(第14講／第15講) 総括討論 「地政学と国際秩序」にかかわる様々な議論について、履修	事前	総括討論に向けた資料作成 (10h)
対面有	者の問題関心から報告する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。

※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。

教科書・参考書

教科書は指定しない。以下、参考文献を列記する。

- アントニオ・ネグリ、マイケル・ハート (2005) 『マルチチュード』, 日本放送出版会。
- クラウス・ドッズ (2021) 『新しい国境 新しい地政学』, 東洋経済新報社。
- ヘンリー・キッシンジャー (2016) 『国際秩序』, 日本経済新聞社。
- マイケル・J・グリーン (2023) 『安倍晋三と日本の大戦略: 21世紀の利益線構想』, 日本経済新聞出版。
- 北岡伸一・細谷雄一編 (2020) 『新しい地政学』, 東洋経済新報社。
- 河野収 (1981) 『地政学入門』, 原書房。
- 曾村保信 (1984) 『地政学入門』, 中央公論新社。
- 出口治明 (2021) 『教養としての「地政学」入門』, 日経 BP。
- 日本再建イニシアティブ (2017) 『現代日本の地政学』, 中央公論新社。
- 細谷雄一 (2012) 『国際秩序』, 中央公論新社。

評価方法

以下の観点ごとに評価し、100点満点になるよう換算する。

60点を超えるものに単位を付与する。

1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%)
2. 最終授業回での発表ならびにディスカッション (65%)

その他の重要事項

オフィスアワーの予約方法: Microsoft Teams チャット機能で連絡 (相談内容については問わない)

2025年度以前の科目との読み替え

- 国際社会学 (専門基礎科目・SDPB1204L)

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	—	—	—	—

授業名称	クリエイティブ・シンキング			科目区分	基礎科目
授業テーマ	アイデアを生み出す「思考の型」			科目コード	SDPA1112S
担当教員	渡邊 信彦	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	金 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

概要：

本講義では、自分に一番フィットしたアイデア発想法を身につけることを目的として、多くのアイデア発想を演習で学びます。その後、ビジネスモデルの構築までを実際のケースを使ってグループワークまたは個別作業にて作成します。また、各講義毎に講義 2 コマ分を 1 セットとしアイデアのヒントとなる外部講師やケーススタディを学び視野を広げて、ワークショップに入っていただきます。

ねらい：

各人が課題設定からアイデア発想までのプロセスを創れるようになることを狙いとしています。

キーワード：

アイデア発想 クリエイティブ思考 発着想

到達目標

- ① 解くべき課題を的確に捉えられるようになる
- ② 発散と収束の思考プロセスを理解し、使いこなせるようになる
- ③ アイデアをビジネスモデルに繋げられるようになる

授業計画			授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション	事前	－	
対面有		事後	－	
第 2 週	(第 2・3 講) 講義＝ 課題を明確にする 多視点でみる 演習＝ アイデア発想演習 (キーワード発想法他)	事前	－	
対面有		事後	振り返り (7.5h)	
第 3 週	(第 4・5 講) 講義＝ アイデアの量産とアイデアを個人で管理する 演習＝ アイデア発想演習 (マンダラート他)	事前	カラーバス準備 (7.5h)	
対面有		事後	振り返り実践 (7.5h)	
第 4 週	(第 6・7 講) 講義＝ ブレイクスルーの発見から創造 演習＝ アイデア発想演習 (SCAMPER 他)	事前	－	
対面有		事後	振り返り実践 (7.5h)	
第 5 週	(第 8・9 講) 講義＝ ブレイクスルーの発見から創造 演習＝ アイデア発想演習 (5W1H 法他)	事前	－	
対面有		事後	チームテーマ関連調査 (7.5h)	
第 6 週	(第 10・11 講)	事前	－	

対面有	講義＝ アイデアからサービスへ 演習＝ サービスモデルの構築グループワーク	事後	サービスモデル作成（7.5h）			
第7週	（第12・13講）	事前	－			
対面有	講義＝ サービスからビジネスへ 演習＝ サービスモデルの構築グループワーク	事後	ビジネスモデル作成（7.5h）			
第8週	（第14・15講）	事前	グループ発表資料作成（7.5h）			
対面有	成果発表会及び講師の事業ピッチ紹介	事後	－			
授業の進め方と方法						
座学、グループワーク、ゲスト講師によるプレゼンによって、各課題や論点について共有、検討をしていく。 各講義毎に講義2コマ分を1セットする。(1) 1コマ目講義、(2) 2コマ目演習						
教科書・参考書						
随時紹介 講義資料は終了後配布						
評価方法						
● 平常点（授業／討論参加点） 50% ● 個人のフレームワークの習熟度 30% ● 発表資料及びプレゼンテーション 20% による総合評価を行う。						
その他の重要事項						
● 日中は事業があるため早朝中心に相談可能 ただしメールで事前相談のこと ● 本授業は事業構想大学院大学事業構想研究科とのコードシェア科目として開講される						
2025年度以前の科目との読み替え						
● 新設・基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	－	○	－	－	－

授業名称	公共哲学			科目区分	専門基礎科目
授業テーマ	「みんな」の幸せって何だろう？			科目コード	SDPB1202L
担当教員	下平 拓哉	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	金 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択
授業の目的					
本授業の目的は、履修者が国内外で多様な論者により議論が深められてきた公共哲学に関する知識を網羅的に身につけるとともに、公共哲学をめぐる論点がどこにあるかの確に捉えるための視点を修得することにある。本授業では、公共性・正義・モラル・多文化共生・他者といったテーマを中心に解説し、履修者が理想とする社会や組織のグランドデザインを構想し、実装するための学術的かつ実践的基礎となる思想とツールを提供する。授業は講義とそれに基づく議論により進行する。					
到達目標					
① 履修者が公共性、正義といった公共哲学における基本的概念、そして国家、共同体、個人、市場といった公共哲学における重要な諸概念の現代的意義を理解することができる。 ② 履修者がそうした概念を、現代世界で生起している諸問題との関連で考究し、そうした諸問題の解決策を探る基礎的な能力を身につけることができる。 ③ 履修者が公権力に係る近現代の名著のエッセンスを理解し、その示唆を現代の具体的事例に照らして分析し、任意の政策分野において提言することができる。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 公共哲学とはなにか			事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)
対面有	イントロダクション、職業としての学問、善き統治と悪しき統治、ドゥールズ、ベラー、カント、アリストテレス、公共哲学を捉えるための視座と方法等について概観する。			事後	コメントペーパーの提出 (1h)
第 2 週	(第 2 講／第 3 講) 公共哲学の潮流①：市民主義の公共哲学			事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有	公共性とは何か、ハーバーマスとアーレント等について考究する。			事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 3 週	(第 4 講／第 5 講) 公共哲学の潮流②：リベラリズムと共同体主義 (コミュニタリアニズム) の公共哲学			事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有	プロフェッショナリズムとは何か、リップマン、ロールズ、ノージック、サンデル等について考究する。			事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 4 週	(第 6 講／第 7 講) 公共哲学の潮流③：モラルサイエンスの公共哲学 (健全な懐疑主義)			事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有	モラルサイエンスとは何か、ヒュームの「人間本姓論」、公私二元論の克服、純粹主義等について考究する。			事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第 5 週	(第 8 講／第 9 講) 公共哲学の基本問題①：他者			事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有	遊びとは何か、他者、囚人のジレンマ、ジレンマの克服、利他主義、EA か e/acc か等について考究する。			事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)

第 6 週	(第 10 講／第 11 講) 公共哲学の基本問題②：上からの民主主義、下からの民主主義	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)			
対面有	民主主義の危機、シュンペーターとダール、ニューミュニシパリズム、プロジェクト中心民主主義等について考究する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)			
第 7 週	(第 12 講／第 13 講) 公共哲学の基本問題③：上からの市場主義、下からの市場主義	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)			
対面有	資本主義の危機、ゆたかな社会、不平等 (格差) の再検討、人間と市場、共同体等について考究する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)			
第 8 週	(第 14 講／第 15 講) 総括討論	事前	総括討論に向けた資料作成 (10h)			
対面有	「公共哲学」にかかわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90 分×2 コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。 ※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。						
教科書・参考書						
教科書は指定しない。以下、参考文献を列記する。 ● ウォルター・リップマン (2023)『公共哲学』、勁草書房。 ● ジョン・K・ガルブレイス (2006)『ゆたかな社会』、岩波書店。 ● ピーター・シンガー (2013)『私たちはどう生きるべきか』、筑摩書房。 ● マックス・ウェーバー (1980)『職業としての学問』、岩波書店。 ● ロバート・N・ベラー (1991)『心の習慣』、みすず書房。 ● 桂木隆夫 (2005)『公共哲学とはなんだろう』、勁草書房。 ● 山脇直司 (2008)『グローカル公共哲学』、東京大学出版会。						
評価方法						
以下の観点ごとに評価し、100 点満点になるよう換算する。60 点を超えるものに単位を付与する。 1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 2. 最終授業回での発表ならびにディスカッション (65%)						
その他の重要事項						
オフィスアワーの予約方法：Microsoft Teams チャット機能で連絡 (相談内容については問わない)						
2025 年度以前の科目との読み替え						
—						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	—	—	—	—

授業名称	政策過程論			科目区分	専門基礎科目
授業テーマ	政策は“いかにして”決まるか			科目コード	SDPB1201L
担当教員	下平 拓哉	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	月 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択
授業の目的					
本授業の目的は、履修者が政策過程論に関する基礎的な知識とフレームワークを修得するとともに、それらを用いた政策分析を通じて、特定の公共政策が生まれてから評価されるまでの一連の流れを経験的に学修することにある。本授業では、社会問題が政策課題として認識される過程を社会学的に検討したのち、政策立案・政策決定・政策実施・政策評価それぞれの具体的なプロセスについて、社会学や組織論といった隣接分野の知見に言及しつつ解説し、履修者が理想とする社会や組織のグランドデザインを構想し、実装するための学術的かつ実践的基礎となる思想とツールを提供する。授業は講義とそれに基づく議論により進行する。					
到達目標					
① 履修者が政策過程論に関する基礎的な知識とフレームワークを身につけ、政策過程論の概念について理解することができる。 ② 履修者が政策分析し、政策立案・政策決定・政策実施・政策評価それぞれの具体的なプロセスに係る基礎的な能力を身につけることができる。 ③ 履修者が政策過程論に係る名著のエッセンスを理解し、任意の政策分野において提言することができる。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 政策過程論とはなにか イントロダクション、決定の本質、政策過程の視座と方法等 について概観する。			事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)
対面有				事後	コメントペーパーの提出 (1h)
第 2 週	(第 2 講／第 3 講) 政治過程の理論と方法 政策科学の登場、政治家、政党、官僚、利益団体などの政治 アクターの相互作用、権力、社会関係資本等について考究する。			事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有				事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 3 週	(第 4 講／第 5 講) 政策過程モデル ラスウェルの政策過程段階モデル、マーチのゴミ缶モデル、 キングダンの政策の窓モデル等について考究する。			事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有				事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 4 週	(第 6 講／第 7 講) 政策分析とアジェンダ設定 政策分析の 8 ステップとアジェンダ設定理論等について考究 する。			事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有				事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第 5 週	(第 8 講／第 9 講) 政策の決定・実施・評価 政策決定と合理性、利益、制度、アイデアの関係、政策の実 施とアクターの関係、そして政策評価の手法とその政治的側面 等について考究する。			事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有				事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第 6 週	(第 10 講／第 11 講) 社会生活における政策過程			事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)

対面有	ゆたかな社会とは何か、社会的共通資本、政治過程の変容と規範の多様性等を踏まえた、これからの福祉、環境、教育等のあり方について考究する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)
第7週	(第12講／第13講) 政策と経営 政策実現への資源管理、政策の経営 (経営モデル)、社会の経営 (協働モデル) 等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)
第8週	(第14講／第15講) 総括討論 「政策過程論」にかかわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。	事前	総括討論に向けた資料作成 (10h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。
※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。

教科書・参考書

教科書は指定しない。以下、参考文献を列記する。

- Christopher M. Weible (2023) *Theories of The Policy Process* 5th ed., Routledge.
- アンソニー・ギデンス (1999) 『第三の道：効率と公正の新たな同盟』, 日本経済新聞出版。
- スチュアート・ブランド (2009) 『地球の論点：現実的な環境主義者のマニフェスト』, 英知出版。
- ユージン・バーダック (2012) 『政策立案の技法：問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ』, 東洋経済新報社。
- 伊藤光利他 (2000) 『政治過程論』, 有斐閣。
- 大嶽秀夫 (1990) 『政策過程』, 東京大学出版会。
- 草野厚 (1997) 『政策過程分析入門』, 東京大学出版会。
- 渋谷栄一、守谷淳 (2010) 『現代語訳 論語と算盤』, 筑摩書房。
- 山本清 (2022) 『これからの政策と経営：危機の時代を希望の未来へ』, 公人の友社。

評価方法

以下の観点ごとに評価し、100点満点になるよう換算する。
60点を超えるものに単位を付与する。

1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%)
2. 最終授業回での発表ならびにディスカッション (65%)

その他の重要事項

オフィスアワーの予約方法：Microsoft Teams チャット機能で連絡 (相談内容については問わない)

2025年度以前の科目との読み替え

—						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	—	—	—	—

授業名称	行政学			科目区分	専門基礎科目
授業テーマ	「お役所」の仕組みと可能性			科目コード	SDPB2208L
担当教員	北島 純	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	火 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が、行政府の構造・制度の仕組み、行政組織の実態（官僚制）、政策の形成・遂行過程等の視座から、「行政」を総合的に分析する視座を身につけ、「行政国家化」された現代社会におけるグランドデザインを構想するための基本的知識を習得することにある。本授業では、行政学の基本的テキストを教科書として使用し、かつ、行政法・政治学等の関連分野で構築されてきた理論的枠組みを参照しながらも、できる限り実際のケースを用いることで、行政の諸相を多面的かつ重層的に理解していく。国家公務員倫理法や政治倫理条例等の倫理規程や、市民・企業からの働きかけ（ロビイング・アドボカシー等）、政府・自治体による広報等についても学んでいく。

到達目標

- ① 履修者が、行政学の基本的知識を習得できるようになる。
- ② 履修者が、習得した行政学の基本的知識をもとに、自ら（または自らの属する組織）に関わる行政学的課題を客観的に分析・評価し、その解決方法を構想できるようになる。

授業計画			授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) ガイダンス：行政学とは何か	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業における質問事項の検討 (1h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 2 週	(第 2 講) 政府の構成・中央政府と地方政府	事前	授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h)	
OL のみ	(第 3 講) 行政学の成立と展開	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 3 週	(第 4 講) ガバナンス論	事前	授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h)	
OL のみ	(第 5 講) 国会の議院内閣制と地方議会の二元代表制	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 4 週	(第 6 講) 行政組織の構造・政治家との関係	事前	授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h)	
OL のみ	(第 7 講) 公務員制度・行政官の倫理	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 5 週	(第 8 講) 国と自治体の制度改革	事前	授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h)	
OL のみ	(第 9 講) 公共政策論・ルールメイキング	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 6 週	(第 10 講) 法律・条例の形成過程・執行・争訟	事前	授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h)	
OL のみ	(第 11 講) 予算の編成と執行	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 7 週	(第 12 講) 政策の実施・エビデンスに基づく評価	事前	授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h)	
OL のみ	(第 13 講) 自治体広報・公聴・公文書の書き方	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 8 週	(第 14 講) 企業による行政へのロビイング	事前	授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h)	

対面有	(第 15 講) グローバル行政・地方自治体の海外事務所	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h) 最終レポート課題 (16h)			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行する。 また履修者は、学んだ内容に対する評論・意見・疑問・感想等について A4「1 枚」程度のペーパー（コメントペーパー）を毎回の授業後に提出すること。						
教科書・参考書						
教科書：伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔（2022）『はじめての行政学〔新版〕』，有斐閣 参考書：西尾勝（2001）『行政学〔新版〕』，有斐閣 大谷基道（2019）『東京事務所の政治学-都道府県からみた中央地方関係』，勁草書房 原田峻（2020）『ロビイングの政治社会学—NPO 法制定・改正をめぐる政策過程と社会運動』，有斐閣 日本経済新聞社政治・外交グループ（2022）『Reading Japanese Politics in Data-データで読む日本政治』，日本経済新聞出版 日本経済新聞社政治・外交グループ（2022）『永田町政策マップ』，日本経済新聞出版 ユージン・バーダック/エリック・M・パタシュニック（2023）『政策立案の技法【第 2 版】』，東洋経済新報社 斎藤文男（2022）『市民がつくる政治倫理条例』，公人の友社						
評価方法						
① 毎回の授業での議論への参加とコメントペーパーの提出 ② 最終レポート課題 以上、①（50%）、②（50%）の総合評価により判定する。						
その他の重要事項						
担当教員のオフィスアワーおよび予約方法については、初回の授業で説明する。 本授業は第 1 週と第 8 週をハイフレックス、第 2 週から第 7 週を原則としてオンラインで実施する。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● 新設・専門基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	—	—	—	—

授業名称	財政学			科目区分	専門基礎科目
授業テーマ	税金の“賢い”使い方を考える			科目コード	SDPB2209L
担当教員	中村 玲子	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	月 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が財政を理解するうえで必要な基礎的知識と考え方を身につけるとともに、社会や地域社会において生じている、あるいは生じうる課題を財政の視点から可視化し、その背景にある制度・負担・効果・トレードオフを整理した上で、自らの考えを説得力をもって説明できる力を体系的に習得することにある。本授業では、財政学の基本的な枠組みを学んだ上で、教育、地方創生、などの具体的テーマを題材に、政策と財政の関係について多角的に考察することで、知識の習得にとどまらず、財政の観点からも整合性のある構想力の向上を図る。授業は講義とそれに基づく討論により進行し、政策担当者による講義も取り入れながら、政策形成・実装の現場感覚に触れる機会とする。最終回では、任意のテーマを財政の観点から考察するプレゼンテーションを行い、履修者が本授業で得た学びを言語化し、財政を踏まえて他者に伝えるコミュニケーション能力を磨く場とする。

到達目標

- ① 履修者が、財政の視点から社会や地域の課題を可視化できるようにする。
- ② 履修者が、社会や地域の課題に対して、財政の視点から自らの考えを他者に対して説得力をもって説明できるようにする。
- ③ ①および②を通じて、望ましい社会や地域社会の在り方について、財政の観点からも整合性のある構想力を身につける。

授業計画			授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション	事前	シラバスの精読と質問事項の検討 (3h)	
対面有	授業の全体像の説明、授業に関連する質疑応答	事後	コメントペーパー記入と授業内容の復習 (3h)	
第 2 週	基本的枠組み その 1	事前	参考文献の精読 (4h)	
対面有	(第 2 講) 公共財、政府の役割、財政の役割 (第 3 講) 予算	事後	コメントペーパー記入と授業内容の復習 (3h)	
第 3 週	基本的枠組み その 2	事前	参考文献の精読 (4h)	
対面有	(第 4 講) 税 (第 5 講) 公債	事後	コメントペーパー記入と授業内容の復習 (3h)	
第 4 週	基本的枠組み その 3	事前	参考文献の精読 (4h)	
対面有	(第 6 講) 地方財政と財政調整 (第 7 講) 地方交付税と国庫補助金	事後	コメントペーパー記入と授業内容の復習 (3h)	
第 5 週	政策と財政 その 1	事前	参考文献の精読 (4h)	
対面有	(第 8 講) 教育と財政 (第 9 講) 実務家による講義と質疑応答 (1)	事後	コメントペーパー記入と授業内容の復習 (3h)	

第 6 週	政策と財政　その 2	事前	授業資料の精読と質問事項の検討（3h）			
対面有	（第 10・11 講）政策担当者による講義と質疑応答（2）、（3）	事後	コメントペーパー記入(1h) と課題の進捗報告作成と提出（2h）			
第 7 週	政策と財政　その 3	事前	授業資料の精読（4h）			
対面有	（第 12 講）地方創生と財政 （第 13 講）民主主義と財政	事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習（3h）			
第 8 週	（第 14・15 講）受講者によるプレゼンテーションとまとめ	事前	課題レポート作成とプレゼンテーションの準備（12h）			
対面有	履修者による課題に対するプレゼンテーションと質疑応答、講評	事後	コメントペーパー記入（1h）			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は担当教員による講義に加え、履修者によるディスカッションを取り入れる形で進める。本授業は、第 2 週目以降、1 講毎に実施する。 第 2 週から第 7 週の授業は概ね、教員が用意するスライドに沿った講義とディスカッションで構成される。ディスカッションは、担当教員が指定するテーマについてグループで検討して全体発表をする方式をとる。毎週、授業で学んだこと、意見・質問・感想、などを記すコメントペーパーの提出を求める。第 8 週は履修者が取り組んだ課題の発表とそれに関する質疑応答を行う。課題については初回の授業で要求される内容などについて説明する。学期の途中で 1 回、課題の進捗状況についての簡単な報告を求める。実務家による講義については初回の授業で説明する。						
教科書・参考書						
教科書　指定しない						
参考図書						
●　神野直彦（2021）財政学〔第 3 版〕，有斐閣. ●　渡邊和紀（2024）図説　日本の財政　令和 6 年度版、財経詳報社. ●　総務省（2025）　地方財政白書　令和 7 年版，日経印刷.						
評価方法						
コメントペーパーの提出　20%、ディスカッションへの貢献 30%、 第 8 週に提出する課題レポート内容、課題のプレゼンテーションと質疑への対応　を総合的に 50%						
その他の重要事項						
オフィスアワーや担当教員との面談の予約方法などは初回の授業で説明する。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
●　新設・専門基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	－	－	－	－

授業名称	公共コミュニケーション			科目区分	専門基礎科目
授業テーマ	信頼を築く「対話」のデザイン			科目コード	SDPB2210S
担当教員	橋本 純次・ 山口 健太郎	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	月 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択
授業の目的					
本授業の目的は、公共性が高く社会的に重要な事柄に取り組んでいるのにもかかわらず関心を持たれづらい、場合によってはマイナスの印象を抱かれている分野におけるコミュニケーション（公共コミュニケーション）のあり方を構想するために必要な思想と技術を網羅的に修得することにある。こうした発想は公共セクターはもとより、民間企業においても採用可能なものである。 そのために本授業では、公共政策・社会学・公共哲学・政治学・組織論といった隣接領域の知見を横断的に参照することで、実現可能性・有効性が担保された公共分野におけるコミュニケーションとはいかなるものか実践的に学ぶことを目指す。また本授業では、履修者が自らの関心に応じて選択した具体的な公共コミュニケーション上の課題に関する調査を行い、解決策を検討する個人発表に取り組む。 公共領域において蓄積されてきた思想と技術を修得することは、民間企業に勤める者が行政と連携して事業に取り組む際に、ひいては市民生活を送るうえでも役立つものであり、また公共政策における課題解決のプロセスは他業種・他分野においても応用可能なものであることから、本授業は法学・政治学・公共政策学の初学者による履修を歓迎する。					
到達目標					
① 履修者が、公共コミュニケーションの前提となる基礎的な理論や視点について説明できるようになる。 ② 履修者が、具体的な公共コミュニケーションのあり方について考える能力を身につける。 ③ 履修者が、公共コミュニケーションの実現可能性を高めるための技法を実践的に身につける。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション： 公共コミュニケーションとはなにか			事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (1h)
対面有				事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第 2 週	(第 2・3 講) 「公共性」の歴史的展開と「公共の福祉」			事前	授業資料の確認 (1.5h) 指定された文献の精読 (3h)
対面有				事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第 3 週	(第 4・5 講) 公共政策はどのように展開されるか： 政策過程論の基礎			事前	授業資料の確認 (1.5h) 指定された文献の精読 (3h)
対面有				事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第 4 週	(第 6・7 講) 公共コミュニケーションの技法			事前	授業資料の確認 (1.5h) 指定された文献の精読 (3h)
対面有				事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第 5 週	(第 8・9 講) 政策調査の技法と実践：議会議事録，行政文書の調査法とオーラルヒストリーを中心に			事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (2h)
対面有				事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)

第 6 週	(第 10・11 講) 人口減少・少子高齢社会における公共コミュニケーション	事前	授業資料の確認 (1.5h) 指定された文献の精読 (2h)			
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)			
第 7 週	(第 12・13 講) ケーススタディ：公共コミュニケーションのデザイン	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (5h)			
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)			
第 8 週	(第 14・15 講) 最終発表：具体的な「公共コミュニケーション」における問題点と改善策の指摘	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (5h)			
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションにより進行する。第 4 週については実践形式で政策調査の方法論を修得する。また、公共政策に関する理解を深めるため、履修者は以下の課題について、調査および発表資料の作成を行う。 第 8 週：受講者個人の選択したテーマにおける「公共コミュニケーション」のあり方について、① 概要を説明し、② 課題を発見し、③ 解決策を提言する（個人発表）。						
教科書・参考書						
教科書は指定しない。 参考書：秋吉貴雄ほか（2020）『公共政策学の基礎 [第 3 版]』，有斐閣ブックス。 ジョエル・ベスト（2020）『社会問題とは何か：なぜ、どのように生じ、なくなるのか？』，筑摩選書。 山本哲三（2017）『公共政策のフロンティア』，成文堂。						
評価方法						
① 毎回の授業での議論への貢献とコメントペーパーの提出 ② 個人プレゼンテーションでの発表 以上、①（40%）、②（60%）の総合評価により判定する。 ※個人プレゼンテーションに出席できない場合は、別日で調整する。						
その他の重要事項						
担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回授業で説明する。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● 新設・専門基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	－	○	○	－	－	－

授業名称	企業理念・経営哲学			科目区分	専門基礎科目
授業テーマ	「志」で動かす組織の力			科目コード	SDPB1211L
担当教員	広木 隆	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	木 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が企業理念と経営哲学についての包括的な理解を得るとともに、それらの理解を通じて複眼的な見地から現代社会を分析するための知識を身につけることにある。「企業」とは何かを語らずに、その「理念」を語ることはできない。同様に、「経営」とは何かを知らずして、その「哲学」を議論しても無意味であろう。それゆえ、本授業では「企業」とは何か、「経営」とは何かという原点に立ち返って講義を始める。そうしたベーシックな議論に加えて、最新の時事問題にもフォーカスしながら授業を進めていく。当分野における第一人者を招くなど外部講師による講演も行う。企業理念・経営哲学をすべてのステークホルダーに伝え、共有し、さらに共感を得るために有効な「コミュニケーション・デザイン」とは何か。この問いの答えを得ることがコミュニケーション・デザイン研究科で本講義を学ぶ意義であり、ゴールである。本授業の担当教員は40年近く上場企業の企業価値についての調査・研究・分析を行ってきた。その知見を活かしてこのゴールに履修生を導いていく。

到達目標

- ① 履修者が企業理念や経営哲学について適切な捉え方を理解できるようになる。
- ② 履修者が自ら所属する組織のすべてのステークホルダーに対して企業理念や経営哲学についての的確に語り相互理解を得られるようになる。

授業計画		授業外の学習	
第1週	(第1講) ガイダンス： 本授業のアウトラインと特徴 出発点と到達点のイメージ	事前	シラバスの精読 (1h) 授業での質問事項の検討 (1h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第2週	(第2講) 大きな舞台装置としての資本主義	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h)
対面有	(第3講) 「企業」とは何か	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第3週	(第4講) 企業の社会的責任 – フリードマン・ドクトリン	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h)
対面有	(第5講) CSR と CSV	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第4週	(第6講) パーパス経営：パーパスが求められる時代背景 パーパス、ビジョン、ミッション、バリュー	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h)
対面有	(第7講) ケーススタディ・前半の総括	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第5週	(第8講) 理念/哲学をいかに語り、伝えるか	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h)
対面有	(第9講) ストーリーとナラティブ	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第6週	(第10講) (第11講)	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h)
対面有	「私のパーパス」発表	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)

第7週	(第12講) 外部講師による講演 企業経営者から理念・哲学について聞く	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h)			
対面有	(第13講) 外部講師の講演についての考察と議論	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)			
第8週	(第14講) 理想と現実、課題、チャレンジ	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h)			
対面有	(第15講) 総合議論～総括	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h) 最終レポート課題 (16.5h)			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行する。また履修者は、学んだ内容が自らの実務とどう関係するか、どのように役立つ可能性があるか等についてコメントペーパーに記入し、毎回の授業終了後に提出する。状況に応じてグループワーク等を行い、指示された内容について議論し発表を行う。講義の終盤では「私のパーパス」（自分が所属する組織のパーパス、自分がそこで働く意義など）を各自が発表する。						
教科書・参考書						
教科書は指定しない。毎回オリジナルのレジメを配布する。 参考書： アダム・スミス著、高哲男訳（2013）『道徳感情論』，講談社学術文庫。 ユベール・ジョリー著、樋口武志訳（2022）『THE HEART OF BUSINESS「人とパーパス」を本気で大切にする新時代のリーダーシップ』，英治出版。 アレックス・エドマンズ著、川口大輔，霜山元，長曾崇志訳（2023）『GROW THE PIE パーパスと利益の二項対立を超えて、持続可能な経済を実現する』，株式会社ヒューマンバリュー。						
評価方法						
① 毎回の授業での議論への参加とコメントペーパーの提出 ② 「私のパーパス」についての発表 ③ 最終レポート課題 以上、①（30%）、②（30%）、③（40%）の総合評価により判定する。						
その他の重要事項						
授業実施方法の詳細（対面/OLのみ）については院生と相談のうえ決定する。						
2025年度以前の科目との読み替え						
● 新設・専門基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	－	○	○	－	－	－

授業名称	組織論			科目区分	専門基礎科目
授業テーマ	組織はなぜ存在し、どのように進化するのか？			科目コード	SDPB1212L
担当教員	田原 祐子	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	月 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が組織の構成要素や構造的課題、組織と人材・社会との関係性について理解を深め、組織デザインや組織マネジメントに関する実践的な考察力を身につけることにある。

「組織は人材の集合体」であり、人材を扱う担当者は組織の本質やジレンマを俯瞰して捉える視点が求められる中、組織の持続的な成長を促すためには、「どのような組織デザインが望ましいのか」「理念や社内外のステークホルダーとの関係性をどのように設計すべきか」「そもそも組織は何のために存在しているのか」といった本質的な問いに応えることが必要となっている。

本授業では、社会全体が大きな変化を迎えている不確実性の時代における組織のあり方について、ガバナンスや組織理念、組織と社会・人材の関係性といったテーマを中心に、さまざまな事例および関連する理論・知見を参照しつつ検討していく。

到達目標

- ① 履修者が、組織の可能性と課題を分析する基本的な視点を獲得する。
- ② 履修者が、組織と社会の関係性を、人材・組織・社会という視点で体系的に考察することができる。
- ③ 履修者が、組織を設計する際、重視すべき点について、自らの考えを述べることができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) ガイダンス：組織論の枠組み	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (0.5h)
OL のみ		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 2 週	(第 2 講) (第 3 講) 「人材」視点からの考察	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
OL のみ		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 3 週	(第 4 講) 人材の集合体「集団」視点からの考察 (第 5 講) グループ・ダイナミクス、リーダーシップ、役割分化の理解	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
OL のみ		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 4 週	(第 6 講) 「組織」視点からの考察 (第 7 講) 組織デザイン・組織の形態・組織文化と、組織戦略	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
OL のみ		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 5 週	(第 8 講) 「組織変革」視点からの考察 (第 9 講) チェンジマネジメント・コンフリクトマネジメントと、心理的安全性	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
OL のみ		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 6 週	(第 10 講) 「人的資源・人的資本」視点からの考察 (第 11 講) エンパワーメント・アカウンタビリティと、DE&I	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
OL のみ		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)

第7週	(第12講)「ガバナンス」視点からの考察	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)			
OLのみ	(第13講) 組織のアーキテクチャーとガバナンスとマネジメント、および、発表計画	事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h) 最終発表の計画立案 (5h)			
第8週	(第14講) (第15講) 発表・プレゼンテーション・ 総合ディスカッション	事前	最終発表の準備 (2h)			
OLのみ	これまで学修した内容を活用し、履修者が所属する組織等を題材とした組織課題の解決、および、「理想的な組織」実現のためのアプローチ、講評～総合ディスカッション	事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (1h) 最終発表フィードバックの復習 (1h) 最終レポート課題 (4h)			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッション、グループワークを中心に進行する。 また、履修者は、学んだ内容が自らの実務とどう関係し、どのように役立つ可能性があるか、といった事柄についてミニットペーパーに記入し、毎回の授業後の課題として提出する。						
教科書・参考書						
教科書は指定しない。参考書は下記の通り。 ● 田尾雅夫（編著）,2010,『よくわかる組織論』ミネルヴァ書房。 その他、授業中に適宜参考図書を紹介する。						
評価方法						
① ミニットペーパーの提出 (15%)：毎回の授業後、履修者の意見と、そう考える理由を記す。 ② ディスカッション・グループワークへの貢献度 (25%) ③ 最終プレゼンテーション (40%) ④ 最終レポート課題 (800 字) (20%)						
その他の重要事項						
● 遅刻や欠席をする場合は、学内の LMS（学習管理システム）またはメール等を通じて事前に連絡すること。 ● 授業にかんする質問は、適宜チャット等で受付け、履修者全員が共有できるよう可能な限り授業中に回答する。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● 新設・専門基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	－	－	－	－

授業名称	事業構想のためのファイナンス			科目区分	専門基礎科目
授業テーマ	お金で語れますか？ あなたの構想計画			科目コード	SDPB1213L
担当教員	結城 秀彦	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	金 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

=概要=

着発想、構想案の立案、フィールドリサーチの後に、構想する事業を事業構想計画に落とし込み、さらに実行するためには、必要となる経営資源（ヒト・モノ他）を具体的に識別し、その入手に必要な資金の調達と事業への投下、事業の実行による回収を検討しなければならない。

そのため、本講義では、事業構想計画の立案及び資金の調達・投下・回収という資金サイクルを念頭に置きながら、以下についての知見を提供する。

- ファイナンスの観点からの「事業構想計画」作成の意義及びその一部としての資金収支計画の立案
- 資金収支計画を基礎とした資金調達能力の評価としての「企業価値」「将来キャッシュ・フローによる事業の評価」
- 資金融通者との折衝による資金調達のための「信用」の形成、「資金調達形態（負債・資本）」「借入契約」「株価の形成」等の理解

なお、事業構想計画は、通常、それを将来において実行することを想定して立案する。したがい、本講義では、上記の知見の中には、事業構想計画の立案までに必要なもののみならず、関係者とのコミュニケーションや事業の実行に係るものも含めて解説する。

また、資金の貸手（金融機関等）ではなく、資金調達者・事業構想実行者である起業家、すなわち受講生の観点から、ファイナンスの基礎知識を提供する。

=ねらい=

本講義は、事業構想を事業構想計画に落とし込むのに必要な基本的な考え方を資金の調達・事業への投下・資金の回収の側面から修得することをねらいとしている。

=キーワード=

「事業構想計画」、「経営資源」、「資金サイクル（資金の調達・投下・回収）」、「収支計画」、「信用」、「企業価値」、「将来キャッシュフロー」、「資金調達形態（負債・資本等）」

到達目標

- ① 資金調達を行うための基本的な知識を学び、事業構想を実現するために最適なファイナンスの形を模索し、複数案検討できる。
- ② 事業としてどのように投資して回収するか、事業構想計画・資金計画として具体的に説明できる。

授業計画		授業外の学習	
第1週	(第1講)【オリエンテーション】 ＜事業構想におけるファイナンスの位置付け、資金サイクルを念頭に置いた事業構想計画・資金構想計画の立案の必要性、貸借対照表における資金の運用と調達の読み解き等、事業構想の	事前	・予習は任意とし、特に求めない。 ・各回の講義の冒頭に、前回講義の復習のための時間を設ける。
対面有		事後	各回、小論レポート（アンケート）の提出を求め、気付いたこと、想定外だったこと、印象深かったこと、学問としての事業構想論における講義内容の位置付け等についての報告を求

	ためのファイナンスを概観する。＞		める。(3h)
第2週	(第2・3講)【事業構想計画・資金収支と信用】 ＜ファイナンス論における事業構想計画・資金収支の位置付けを再確認し、事業構想計画・資金収支と信用（資金調達の前提となる「信用」の概念を学ぶ。＞	事前	同上
対面有		事後	同上（3h）
第3週	(第4・5講) 【事業構想計画・資金収支の立案・企業価値と資金調達能力】 ＜事業構想計画・資金収支の立案における事業プロセスの識別、事業継続のための採算の確保について学ぶ。さらに、ファイナンス論における資金構想計画と企業価値との関係を学ぶ。＞	事前	同上
対面有		事後	同上（3h）
第4週	(第6・7講)【企業価値の測定による資金調達能力の評価】 ＜資金調達能力の評価の基礎となる企業価値、永続価値、資本コスト率(金利)の構造、企業価値の不確実性、内部収益率の諸概念について学ぶ。＞	事前	同上
対面有		事後	同上（3h）
第5週	(第8・9講)【他人資本と自己資本、負債による資金調達】 ＜負債と資本それぞれによる資金調達を概観する。また、次回にかけて、負債による資金調達の論点を検討するとともに、返済(回収)リスク及び担保について学ぶ。＞	事前	同上
対面有		事後	同上（3h）
第6週	(第10・11講)【借入契約の実務、資本による資金調達】 ＜金融機関からの借り入れ実務に関して、銀行取引約定書、金銭消費貸借契約等に即して学ぶ。また、株式による資金調達の特徴である払込資本、資金回収手段と株式流通、資本政策について学ぶ。＞	事前	同上
対面有		事後	同上（3h）
第7週	(第12・13講)【企業価値と時価総額、株価算定】 ＜株価 x 株式数=資金調達額の関係を踏まえ、企業価値と時価総額、有利発行、株価の算定方式について学ぶ。＞	事前	同上
対面有		事後	同上。期末レポートの作成を含む。(21h)
第8週	(第14・15講)【その他の資金調達の手法、講義の総まとめ】 ＜クラウドファンディングや各種補助金等、その他の資金調達の手法の概要を学ぶ。また、各回の講義を振り返り、学んだ事項の総まとめを行う。＞	事前	同上
対面有		事後	同上（21h）
授業の進め方と方法			
● 講義は座講を主体とするが、問題提起と討論を加味してインタラクティブに行う。 ● 予習は任意とし、特に求めない。 ● 各回の講義の冒頭に、前回講義の復習のための時間を設ける。 ● 本年は、ファイナンスに関する基本的知識の他、事業構想（論）の中でのファイナンス（論）の位置づけについても考察を行う。			

● 各回の講義内容の復習と整理に役立つように、各回、小論レポート（アンケート）の提出を求め、気付いたこと、想定外だったこと、印象深かったこと、事業構想サイクルにおける講義内容の位置付け等の報告を求める。 ● 講義の実際の進捗に応じて、授業計画に記載した各回の講義内容の時間配分に濃淡が生じる場合がある。 ● 本授業は事業構想大学院大学事業構想研究科とのコードシェア科目として開催される巡回講義であり、原則として東京でのライブ開催・福岡でのリモート講義として実施する。福岡でのライブ開催については、本年4月以降の福岡校の受講人数及び受講形態を勘案して、回数・日時等を決定する。 ● 2回目以降は隔週1日2回（2コマ）の講義となる。 ● 何らかの事情により休講が生じる場合には、補講（8月）にて対応する。						
教科書・参考書						
講義にあたって、教科書は使用せず、各回スライド及び資料を配布する。参考書については、講義第1回において示す他、講義の進捗に合わせて伝達する。参考書として、例えば、稲盛和夫「稲盛和夫の実学—経営と会計」（日経ビジネス人文庫）がある。						
評価方法						
● 各回、小論レポート（アンケート）の提出を求め、気付いたこと、想定外だったこと、印象深かったこと、学問としての事業構想論における講義内容の位置付け等についての報告を求める。 ● 全講義終了後、レポート（期末レポート）を提出していただく。期末レポート課題については、講義第12回以降に通知し、早期着手を促す。 ● 評価は、小論レポート25%、期末レポート75%の割合で評価を行う。						
その他の重要事項						
● オフィスアワーは、非常勤のため、不定。面談等必要な場合には、eメール（h.yuki@mpd.ac.jp）宛に事前に予約していただきたい。						
2025年度以前の科目との読み替え						
● 新設・専門基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	—	—	—	—

授業名称	マーケティング論			科目区分	専門基礎科目
授業テーマ	「価値」を伝え、市場を創る			科目コード	SDPB2214L
担当教員	佐藤 達郎	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	水 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、マーケティング論の基礎に当たる諸理論を学びながら、マーケティング論の考え方・物の見方を身につけることにある。マーケティング論の中核的価値は、時代に応じて開発される様々な理論 / 技術以上に、考え方・物事への態度・物の見方・視点の置き方だと考えている。15 回の授業を通じて、諸理論に言及しながらも、何よりもこうした“マーケティング・センス”“マーケティング感覚”を履修者の皆さんにはお伝えして行きたい。

到達目標

- ① 履修者が、マーケティング論の代表的な理論を説明できるようになる。
- ② 履修者が、ビジネスの具体的な事例や事象について、マーケティング論を用いて分析できるようになる。
- ③ 履修者が、自身の分野の課題について、マーケティング論を活用してプランニングできるようになる。

授業計画

授業計画			授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) ガイダンス (マーケティング論とは何か? この講義の狙いと概要について)	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問項目の検討 (0.5h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 2 週	(第 2・3 講) マーケティング論の歴史的展開・その概略	事前	本週の内容に関する学習 (2h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 3 週	(第 4・5 講) マーケティング論の基礎の基礎・4P 理論とマーケティングミックス	事前	本週の内容に関する学習 (2h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 4 週	(第 6・7 講) ターゲット市場の選定と STP 理論	事前	本週の内容に関する学習 (2h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 5 週	(第 8・9 講) 製品ライフサイクル理論について	事前	本週の内容に関する学習 (2h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 6 週	(第 10・11 講) 市場地位別のマーケティング戦略	事前	本週の内容に関する学習 (2h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 7 週	(第 12・13 講) マーケティング論とクリエイティビティ ～過去事例を参照しながら～	事前	本週の内容に関する学習 (2h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 8 週	(第 14・15 講) 総括 / マーケティング論を自身の課題に どう活かすか?	事前	本週の内容に関する学習 (8h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h) 最終レポート課題 (15h)	

授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、講義とディスカッションを中心に進行する。具体的には、ベーシックな理論を担当教員から履修者に紹介する偶数回と、その理論に関連する各自の経験や考察を元にディスカッションする奇数回という構成で進める予定である。						
教科書・参考書						
教科書は特に指定しない。下記の参考図書の他にも、担当教員がその都度、資料や参考図書を提示する場合がある。 ● 沼上幹（2023）『わかりやすい マーケティング戦略（第3版）』，有斐閣アルマ。						
評価方法						
① 毎回の授業でのディスカッションへの参加とコメントペーパーの提出 ② 最終レポート課題 以上、①（50%）と②（50%）の総合評価により判定する。						
その他の重要事項						
担当教員のオフィスアワーについては、初回の授業で説明する。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● 新設・専門基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	—	○	○	—	—	—

授業名称	パブリック・リレーションズ			科目区分	専門基礎科目
授業テーマ	社会とつながる「関係づくり」			科目コード	SDPB2215L
担当教員	二木 真	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	土 B (1・2 限)
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、企業の経営戦略におけるコミュニケーションの役割と重要性を理解し、ステークホルダー（利害関係者）との良好な関係を築き、レピュテーション（評判）を向上させるための広報戦略構築について学修することにある。

商品の機能的価値や価格だけでモノが売れる時代は終焉を迎え、顧客はその企業への信頼や愛着といったエンゲージの強さを重視する傾向が強まっている。また、従来型の企業発信による広告プロモーションに加え、メディアやインフルエンサー等による第三者発信や信頼する人からのクチコミなどの情報が消費行動を促すきっかけとなっている。企業経営においては、いかに環境変化に対応し、広報・宣伝・CSR など社内のコミュニケーション機能を融合させ、発信力を高めることが出来るかが課題となっている。同時に、コミュニケーション部門に対しては、従来の「話題づくり」の発信に加え、マネジメント視点での「価値づくり」の発信が求められている。

本授業では、企業が直面するコミュニケーション課題について、講師と履修者各々の知識・経験・視点を共有し、共に「気づき、学び、考える」機会を提供したい。また、先行研究（論文）の学習、企業の具体的実践事例（ケーススタディ）、自治体のコミュニケーション戦略（地域活性・観光等）等についてディスカッションやゲストスピーカーとのセッションなどを通じた多面的な指導を行う。

到達目標

- ① 履修者が、パブリック・リレーションズ概念と企業経営における使命（ミッション）を理解する。
- ② 履修者が、企業価値向上を目的とする戦略思考のコミュニケーション手法について構想できる。
- ③ 履修者が、企業の経営戦略に基づく、基本的なコミュニケーション戦略の策定能力を身につける。

授業計画			授業外の学習	
第1週	(第1講) オリエンテーション		事前	シラバスの精読 (0.5h) 参考文献の概観 (0.5h)
対面有	ポストコロナにおけるコミュニケーションの変化		事後	コメントペーパーの提出 (1h)
第2週	(第2・3講) パブリック・リレーションズとは何か		事前	参考文献の精読 (2h)
対面有	パブリック・リレーションズとコーポレート・コミュニケーションのミッションを考える		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の復習・参考論文精読 (2h)
第3週	(第4・5講) 戦略的コミュニケーション		事前	参考文献の精読 (2h)
対面有	戦略的とは何か、企業理念・ビジョンとコミュニケーションについて考える		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の復習・参考論文精読 (2h)
第4週	(第6・7講) インターナル・コミュニケーション		事前	参考文献の精読 (2h)
対面有	ブランドパーパスと社員のエンゲージメントの関係		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の復習・参考論文精読 (2h)

第5週	(第8・9講) ブランド・コミュニケーション ブランドとレピュテーションの関係を考える	事前	参考文献の精読 (2h)			
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) セッション・授業内容の復習 (3h)			
第6週	(第10・11講) シティ・プロモーション 自治体広報・PR のあり方と地域コミュニケーションを考える	事前	参考文献の精読 (2h) 中間レポート作成 (10h)			
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) セッション・授業内容の復習 (3h)			
第7週	(第12・13講) 話題づくりから価値づくりの広報へ 経営戦略に基づく、これからの広報・PR のあり方	事前	参考文献の精読 (2h)			
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の復習・参考論文精読 (2h)			
第8週	(第14・15講) プレゼンテーション発表とまとめ 履修者によるプレゼンテーションと講評、授業の総括	事前	プレゼン資料作成 (10h)			
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総復習及び参考論文精読 (5h)			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッション、プレゼンテーション等による参加型の構成とする。また、実践的な理解を深めるため、適宜、企業や自治体（コミュニケーション領域）の最前線で活躍するキーマンをゲストに迎え、履修者とのセッションを実施する。						
教科書・参考書						
教科書は使用しない。参考書は以下の通り。その他、適宜講義にて紹介する。 ● 社会情報大学院大学編 (2016)『広報コミュニケーション基礎』, 宣伝会議. ● 企業広報戦略研究所編 (2020)『新・戦略思考の広報マネジメント』, 日経 BP. ● ポール・A・アージェンティ (2019)『コーポレート・コミュニケーション』, 東急エージェンシー.						
評価方法						
● 講義中のディスカッションでの発言内容などの貢献度・ミニットペーパーの内容 (50%) ● 期中レポート課題 (20%) ● 期末プレゼンテーション課題 (30%) 以上の総合評価。						
その他の重要事項						
● 初回の授業（ガイダンス）で、講義の進め方・ゲストスピーカー・評価方法等について説明する。 ● 講義内でチャット機能等を活用し、履修者との Q&A を積極的に実施する。 ● 各回の講義を欠席する場合は、Teams 等を通じて事前に連絡することが望ましい。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● 新設・専門基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	—	○	○	—	—	—

授業名称	市民社会論			科目区分	専門基礎科目
授業テーマ	社会を動かす「第三の力」			科目コード	SDPB1216L
担当教員	富井 久義	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

現代社会において「社会をよくする」ための活動は、個人の自発性に基づくボランティアから、事業性を備えたソーシャル・ビジネス、さらには国家や市場に対する異議申し立てとしての社会運動まで、多岐にわたる。本授業の目的は、このような市民社会をめぐる多様な主体の活動原理とその現代的な特徴を、社会学的な観点から検討することにある。

具体的には、前半では市民社会と事業との関係に着目しつつその現代的な特徴や課題を読み解くことに焦点をあてる。後半では、社会運動論の諸理論を援用しながら、社会変革をめぐる具体的な方法論を検討し、履修者自身が社会の新たなありかたを構想するための理論的基盤を構築することをめざす。

到達目標

- ① 市民社会にかかわる基本的な概念を理解し、説明することができる。
- ② 「事業をつうじた社会課題解決」の有効性と課題を批判的に考察することができる。
- ③ みずから手がける社会構想を展開するための具体策を、社会運動論の知見を援用しつつ提案することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 市民社会とはなにか (イントロダクション) ——市民、非営利セクター、アソシエーション	事前	シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h)
対面有		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、予習・復習スケジュールの割当検討 (4h)
第 2 週	(第 2・3 講) 市民社会をめぐる活動の拡がり ——NPO、ボランティア、寄付、社会運動	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
対面有		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 3 週	(第 4・5 講) NPO・ボランティアと事業 ——事業型 NPO、ソーシャル・アントレプレナーシップ、 ソーシャル・イノベーション	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
対面有		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 4 週	(第 6・7 講) 企業活動と市民社会 ——企業市民、企業の社会的責任、CSV、ESG 投資	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
対面有		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 5 週	(第 8・9 講) NPO・ボランティアのビジネスライク化と 新自由主義——ビジネスライク化、新自由主義	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
対面有		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 6 週	(第 10・11 講) 社会運動の発想法	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)

対面有	——資源動員論、政治的機会構造論、フレーミング分析	事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習（3h）
第7週	（第12・13講）社会運動の意義と意味 ——戦略的政治／予示的政治、経験運動論	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（3h）
対面有		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習（3h）
第8週	（第14・15講）社会を変えるには（課題発表と討論）	事前	フィードバックコメントの確認、課題発表準備（14h）
対面有		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、発表者へのフィードバックシートの記入（5h）

授業の進め方と方法

本授業は、第2週目以降2講連続で実施し、第2週から第7週の授業は概ね、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義（話題提供）、ディスカッション（演習課題）で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。

第8週では、みずから手がける社会構想を展開するための具体策を、社会運動論の知見を援用しつつ提案する発表を各履修者に求め、相互に討論するかたちで進行する。

教科書・参考書

【教科書】指定しない

【参考書】

- 坂本治也編，2017，『市民社会論——理論と実証の最前線』法律文化社。
- 澤村明ほか，2025，『はじめてのNPO論』有斐閣。
- 三谷はるよ，2016，『ボランティアを生みだすもの——利他の計量社会学』有斐閣。
- 富永京子，2025，『なぜ社会は変わるのか——はじめての社会運動論』講談社。

評価方法

- コメントペーパーの内容 30%
- ディスカッションへの貢献 30%
- 第8週の課題発表の内容 40%

その他の重要事項

- 担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。

2025年度以前の科目との読み替え

- 新設・専門基礎科目として履修可

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	—	—	—	—

授業名称	産業社会学			科目区分	専門基礎科目
授業テーマ	「働く」ことの過去・現在・未来			科目コード	SDPB1203L
担当教員	富井 久義	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	土 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、現代社会の産業構造の変化と、その変化への企業や労働者の対応を、産業・労働社会学と関連する理論に基づいて明らかにすることをつうじて、履修者が取り組む社会課題や経営課題が産業社会においてどのような位置づけを有するのかを検討することにある。

現代社会において求められる社会構想のありかたを考え、対象となる人びとの行動変容を効果的にうながすためには、人びとの活躍の場となる産業社会のありかたを理解することや、産業社会を生きる人びとの置かれる状況や主観的意味世界を理解することが大きなヒントとなる。

そこで本授業では、産業や労働に関連する多様なテーマについて、産業・労働社会学と関連する理論的視座から分析を加えることで、現代の産業社会についての理解を深めることをめざす。

到達目標

- ① 現代の産業社会の主要な特徴を理解し、説明することができる。
- ② みずから手がける社会構想の位置づけを、産業・労働社会学の概念をもちいて説明することができる。
- ③ みずから手がける社会構想にかんする取り組みについて、その意義を、企業・労働者・社会それぞれの立場から説明することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 産業社会学とはなにか (イントロダクション) ——産業社会学、労働社会学	事前	シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h)
対面有		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、予習・復習スケジュールの割当検討 (4h)
第 2 週	(第 2・3 講) 産業構造の変化と社会変動論 ——産業構造の変動、社会変動論、脱産業社会論	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
対面有		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 3 週	(第 4・5 講) 技術革新と仕事・職場の変化 ——技術革新、疎外された労働、ブルシット・ジョブ	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
対面有		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 4 週	(第 6・7 講) 雇用・処遇システム ——職業分類、ジョブ型雇用、日本型雇用システム	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
対面有		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 5 週	(第 8・9 講) 雇用の流動化と働きかたの多様化 ——雇用の柔軟性、非典型雇用、多様な働きかた	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
対面有		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 6 週	(第 10・11 講) 労働力移動と離職・転職・失業 ——労働力移動、離職・転職・失業、雇用のミスマッチ	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
対面有		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 7 週	(第 12・13 講) 能力開発とキャリア	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)

対面有	——新規学卒採用、職業能力開発、キャリア	事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習（3h）			
第 8 週	（第 14・15 講）労使関係と企業コミュニティ ——労使関係、労働組合、企業コミュニティ	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（3h）			
対面有		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、最終レポート課題への取り組み（16h）			
授業の進め方と方法						
本授業は、第 2 週以降 2 講連続で実施し、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義（話題提供）、ディスカッション（演習課題）で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。 このほか、自身の研究課題について産業社会学の観点から考察することを求める最終レポート課題を課す。						
教科書・参考書						
【教科書】 指定しない						
【参考書】						
● 松永伸太郎・園田薫・中川宗人編，2022，『21 世紀の産業・労働社会学』ナカニシヤ出版。 ● 小川慎一ほか，2015，『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』有斐閣。 ● 佐藤博樹・佐藤厚編，2012，『仕事の社会学——変貌する働き方 改訂版』有斐閣。 ● 上林千恵子編，2012，『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房。						
評価方法						
● コメントペーパーの内容 30% ● ディスカッションへの貢献 30% ● 最終レポート課題の内容 40%						
その他の重要事項						
● 担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第 1 週の授業で説明する。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
—						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	—	—	—	—

授業名称	地域社会論			科目区分	専門基礎科目
授業テーマ	“つながり”で動かす「まちづくり」入門			科目コード	SDPB1206L
担当教員	中村 玲子	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	月 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が地域社会を理解するうえで必要な知識を身につけるとともに、国内外の地域社会において現在生じている、あるいは生じうる課題を構造化し、改善策を提言するための視点と技術を体系的に習得することにある。本授業では、地方創生やソーシャル・イノベーションなど地域社会の課題の解決に向けた国内外の様々なアプローチについて多角的に考察することで、知識だけでなく広い視野と柔軟な思考に裏打ちされた構想力の向上を図る。授業は講義とそれに基づく討論により進行する。最終回では履修者が地域社会の直面する任意の課題について、それまでの授業の内容を踏まえて解決策をプレゼンテーションすることで、履修者の構想を効果的に伝える力を磨く場とする。

到達目標

- ① 履修者が地域社会の課題と地域社会を支える制度等について自らの言葉で説明できるようになる。
- ② 履修者が地域社会の課題を解決する様々な取り組みに対して建設的かつ批判的に検討できるようになる。
- ③ ①と②を通じて履修者が地域課題の解決に資する自らの考えを説得力を持って説明できるようになる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション	事前	シラバスの精読と質問事項の検討 (3h)
対面有	授業の全体像の説明、授業に関連する質疑応答	事後	コメントペーパー記入と授業内容の復習 (3h)
第 2 週	地域社会の現状と課題	事前	参考文献の精読 (4h)
対面有	(第 2 講) 地域社会の概観と地域社会の課題 (第 3 講) 人口減少と地域社会	事後	コメントペーパー記入と授業内容の復習 (3h)
第 3 週	地域社会の課題と公共の役割	事前	参考文献の精読 (4h)
対面有	(第 4 講) 外国人と地域社会 (第 5 講) 地域社会を支える枠組み	事後	コメントペーパー記入と授業内容の復習 (3h)
第 4 週	地域社会の課題解決に資する政策 その 1	事前	参考文献の精読 (4h)
対面有	(第 6 講) 財政、地方財政 (第 7 講) 地方創生： 背景・政策の変遷・交付金と活用事例	事後	コメントペーパー記入と授業内容の復習 (3h)
第 5 週	地域社会の課題解決に資する政策 その 2	事前	参考文献の精読 (4h)
対面有	(第 8 講) 地域社会の DX: 意義と課題、支援策と事例 (第 9 講) 地域力の創造 実務家による講義と質疑応答	事後	コメントペーパー記入と授業内容の復習 (3h)
第 6 週	(第 10・11 講) 活力ある多様な地域社会の実現に向けて尽力する実務家による講義と質疑応答	事前	授業資料の精読と質問事項の検討 (3h)
対面有		事後	コメントペーパー記入 (1h) と課題の進捗報告作成と提出 (2h)
第 7 週	海外発のアプローチを地域社会の課題解決に生かす	事前	授業資料の精読 (4h)

対面有	(第12講) 自治体 SDGs、成果連動型民間委託契約方式 (PFS: Pay for Success)、ソーシャル・インパクトボンド (SIB)、と活用事例 (第13講) 海外と日本のソーシャル・イノベーション	事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)			
第8週	(第14・15講) 受講者によるプレゼンテーションとまとめ	事前	課題レポート作成とプレゼンテーションの準備 (12h)			
対面有	履修者による課題に対するプレゼンテーションと質疑応答、講評	事後	コメントペーパー記入 (1h)			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は担当教員による講義に加え、履修者によるディスカッションを取り入れる形で進める。本授業は、第2週目以降、1講毎に実施する。 第2週から第7週の授業は概ね、教員が用意するスライドに沿った講義とディスカッションで構成される。ディスカッションは、担当教員が指定するテーマについてグループで検討して全体発表をする方法又は自由討議の方式をとる。毎週、授業で学んだこと、意見・質問・感想、などを記すコメントペーパーの提出を求める。第8週は履修者が取り組んだ課題の発表とそれに関する質疑応答を行う。課題については初回の授業で要求される内容などについて説明する。学期の途中で1回、課題の進捗状況についての簡単な報告を求める。実務家による講義については初回の授業で説明する。						
教科書・参考書						
教科書 指定しない						
参考図書						
● 日本経済新聞社地域報道センター (2024)『新データで読む地域再生 人が集まる県・市町村はどこが違うのか』, 日経 BP 日本経済新聞出版. ● 神野直彦 (2021)『財政学〔第3版〕』, 有斐閣. ● 村上周三ほか (2019)『SDGs の実践 ~自治体・地域活性化編』, 事業構想大学院大学 出版部. ● ジェフ・マルガン (著), 青尾 謙 (翻訳) (2022)『ソーシャル・イノベーション:「社会を変える」力を見つけるには』, ミネルヴァ書房. ● SSIR Japan (2023)『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー 日本版 05——コミュニティの声を聞く』, SSIR Japan. ● 田代 洋久 (2022)『文化力による地域の価値創出 地域ベースのイノベーション理論と展開』, 水曜社. 以上の他、授業の中で適宜紹介する。						
評価方法						
コメントペーパーの提出 20%、ディスカッションへの貢献 30%、 第8週に提出する課題レポート内容、課題のプレゼンテーションと質疑への対応 を総合的に 50%						
その他の重要事項						
オフィスアワーや担当教員との面談の予約方法などは初回の授業で説明する。						
2025年度以前の科目との読み替え						
—						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥

	○	○	—	—	—	—
--	---	---	---	---	---	---

授業名称	生涯学習の理論と発展			科目区分	専門基礎科目
授業テーマ	人生 100 年時代の「学び」を創る			科目コード	SDPB2217L
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	火 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、我が国における生涯学習及び社会教育の本質について理解を深めることである。そのために本授業では、生涯学習ならびに社会教育にかかわる理念・政策・制度及び理論のみならず、それらを取りまく社会や指導者の問題について探究する。

これまでの生涯学習や社会教育に関する研究から、いかに現代社会に求められる生涯学習・社会教育へのイノベーションを起こすことができるのかを履修者とともに検討していきたい。

本授業は、「社会教育主事講習等規程（昭和二六年文部省令第一二号）」にある「生涯学習概論」の授業に相当以上の科目である。

到達目標

- ① 履修者がこれまでの生涯学習研究ならびに社会教育研究の知見を踏まえて、生涯学習・社会教育の定義や社会における位置づけを生涯学習論等の基本理論から説明することができる。
- ② 履修者が生涯学習・社会教育を先導する指導者としての役割を理解し、実践することができる。
- ③ 履修者が社会構造の変化に伴い、適切な生涯学習・社会教育を構想し自身の考えを述べることができる。

授業計画

授業計画			授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) イントロダクション 学習のなかの生涯学習・社会教育の布置	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h)	
第 2 週	(第 2 講) 生涯学習論	事前	事前配布資料を読む (3h)	
対面有	(第 3 講) 社会教育論	事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)	
第 3 週	(第 4 講) 社会教育の系譜	事前	事前配布資料を読む (3h)	
対面有	(第 5 講) 社会教育・社会教育をとりまく法令と制度	事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)	
第 4 週	(第 6 講) 生涯学習・社会教育の指導者は誰か	事前	事前配布資料を読む (3h)	
対面有	(第 7 講) 社会教育主事・社会教育士とは何か	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 最終課題に向けた資料探索 (1h)	
第 5 週	(第 8 講) 社会教育学と生涯学習・社会教育の理論	事前	事前配布資料を読む (3h)	
対面有	(第 9 講) 生涯学習・社会教育の学習計画立案論	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 最終課題に向けた資料探索 (1h)	
第 6 週	(第 10 講) リカレント教育・リスクリング・学び直し	事前	事前配布資料を読む (3h) 最終課題に向けた資料探索 (2h)	
対面有	(第 11 講) 職業教育	事後	最終課題に向けた資料作成 (2h) コメントペーパーの提出 (1h)	
第 7 週	(第 12 講) 社会変動と生涯学習・社会教育	事前	事前配布資料を読む (3h) 最終課題に向けた資料作成 (3h)	
対面有	(第 13 講) 生涯学習社会論・学習社会論	事後	最終課題に向けた資料作成 (3h)	

			コメントペーパーの提出（1h）			
第 8 週	（第 14 講）生涯学習社会の展開 （第 15 講）生涯学習の課題とイノベーション	事前	最終課題に向けた資料作成（10h）			
対面有		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90 分×2 コマ連続で実施する。 また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。 ※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。						
教科書・参考書						
教科書は指定しない。 以下に、参考書を列挙する。 ● 生涯学習・社会教育行政研究会 編集（2023）『令和 6 年度版 生涯学習・社会教育行政必携』第一法規。 ● 市川昭午・潮木守一 編者（1979）『教育学講座 21 学習社会への道』学習研究社。 ● ガート・ビースタ（2014）『民主主義を学習する——教育・生涯学習・シティズンシップ』勁草書房。 ● 出相泰裕 編著（2023）『学び直しとリカレント教育』ミネルヴァ書房。 ● 香川正弘・鈴木眞理・永井健夫 編（2016）『よくわかる生涯学習 改訂版』ミネルヴァ書房。 ● 赤尾勝己 編（2004）『生涯学習理論を学ぶ人のために』世界思想社。						
評価方法						
以下の観点ごとに評価し、100 点満点になるように換算する。60 点を超えるものに単位を付与する。 ① 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」（35%） 本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。 ② 最終課題（65%） 本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。						
その他の重要事項						
本授業科目は、「社会教育士養成講座」科目である。 【詳細のシラバスや参考情報】 ● 基本的には、本学の LMS（Microsoft Teams）に掲載するので参照すること。 ● 授業担当者の Web サイトに、授業科目などに関する情報を掲載する。 【コンタクトならびにオフィスアワー】 ● メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡すること。[@r.kawayama] ● 授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成するので、そちらから予約を取ること。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● 新設・専門基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	○	○	－	－	－	－

授業名称	生涯学習支援論			科目区分	専門基礎科目
授業テーマ	人の「学びたい」を支える技術			科目コード	SDPB1218L
担当教員	大谷 晃	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	火 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図ることである。そのため本授業では、学習者を取りまく社会環境の理解や学習者の特性を分析——とりわけ、社会人並びに高齢者に関する支援を検討する——、また学習内容や学習環境の改善についても探究する。

生涯学習は、一般には人々が生涯に行うあらゆる学習という意味で用いられることから、教育基本法第3条に定められている「自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現」に資する支援とは何かを本授業では検討する。

本授業は、「社会教育主事講習等規程（昭和二六年文部省令第一二号）」にある「生涯学習支援論」の授業に相当以上の科目である。

到達目標

- ① 履修者が生涯学習支援の定義や生涯学習の種類など、生涯学習支援に関する基本的知識について説明することができる。
- ② 履修者が生涯学習支援のための有効な学習プログラムの計画、あるいは学習環境改善の計画を作成することができる。
- ③ 履修者が生涯学習支援の現状を分析し、課題解決策について具体的に述べることができる。

授業計画		授業外の学習	
第1週	(第1講) イントロダクション	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h)
第2週	(第2講) 学習者理解 1——生涯発達論	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有	(第3講) 学習者理解 2——学習ニーズ論	事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第3週	(第4講) 青少年・家庭教育論 1——青少年の学習支援	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有	(第5講) 青少年・家庭教育論 2——青少年の特性	事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第4週	(第6講) 成人学習論 1——学習支援者の教育学	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有	(第7講) 成人学習論 2——成人の特性	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 最終課題に向けた資料探索 (1h)
第5週	(第8講) 教育老年学 1——教育老年学とは／教育老年学理論	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有	(第9講) 教育老年学 2——高齢社会の学習	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 最終課題に向けた資料探索 (1h)
第6週	(第10講) 学習内容編成論 1——学習内容編成と学習課題	事前	事前配布資料を読む (3h) 最終課題に向けた資料探索 (2h)

対面有	(第 11 講) 学習内容編成論 2——学習プログラム開発論	事後	最終課題に向けた資料作成 (2h) コメントペーパーの提出 (1h)			
第 7 週	(第 12 講) ファシリテーション論 1——学習環境の整備	事前	事前配布資料を読む (3h) 最終課題に向けた資料作成 (3h)			
対面有	(第 13 講) ファシリテーション論 2——学習支援の技法	事後	最終課題に向けた資料作成 (3h) コメントペーパーの提出 (1h)			
第 8 週	(第 14 講) 暗黙知・身体知の言語化・体系化	事前	最終課題に向けた資料作成 (10h)			
対面有	(第 15 講) 学習資源の活用と学習環境の形成	事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義方途グループワーク法並びにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90 分×2 コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。 ※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。						
教科書・参考書						
教科書は指定しない。 以下、参考書を列記する。 ● 生涯学習・社会教育行政研究会 編集 (2023)『令和 6 年度版 生涯学習・社会教育行政必携』第一法規。 ● 堀薫夫 (2022)『教育老年学』放送大学教育振興会。 ● 渡邊洋子 (2002)『生涯学習時代の成人教育学——学習者支援へのアドボカシー』明石書店。 ● 清國祐二 (2020)『生涯学習支援論』ぎょうせい。 ● 香川正弘・鈴木眞理・永井健夫 編 (2016)『よくわかる生涯学習 改訂版』ミネルヴァ書房。						
評価方法						
以下の観点ごとに評価し、100 点満点になるように換算する。60 点を超えるものに単位を付与する。 ① 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。 ② 最終課題 (65%) 本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。						
その他の重要事項						
本授業科目は、「社会教育士養成講座」科目である。 【詳細のシラバスや参考情報】 ● 基本的には、本学の LMS (Microsoft Teams) に掲載するので参照すること。 ● 授業担当者の Web サイトに、授業科目などに関する情報を掲載する。 【コンタクトならびにオフィスアワー】 ● メール (akira.otani@sentankyo.ac.jp) または、Microsoft Teams のチャット機能で連絡すること。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● 新設・専門基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	—	○	○	—	—	—

授業名称	社会教育経営論			科目区分	専門基礎科目
授業テーマ	「学びの場」のつくり方、育て方			科目コード	SDPB1219L
担当教員	荒木 貴之	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	木 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択
授業の目的					
本授業の目的は、多様な主体と連携・協働を図りながら、自治体やさまざまなコミュニティにおける学びを基盤とした自律的・持続的な活動の促進に資する社会教育の専門性を有する社会教育人材として、社会教育事業を構想し、実現するための知識及び技能の習得を図る。 本授業は、「社会教育主事講習等規程（昭和二六年文部省令第一二号）」にある「社会教育経営論」の授業に相当以上の科目である。					
到達目標					
① 履修者が、さまざまなコミュニティにおける、学びを基盤とした自律的・持続的な活動の促進に資するための専門性を高めることができる。 ② 履修者が、学びを基盤とした社会教育活動をオーガナイズするための専門性を高めることができる。 ③ 履修者が、社会教育事業を構想し、実現することができる。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 社会教育経営論の目的と視点 社会教育経営論の目的と視点について解説する。			事前	社会関係資本に関するリサーチワーク (3h)
対面有				事後	人的資本主義に関する検討と相互レビュー (2h)
第 2 週	(第 2 講) 社会教育経営論の理論 1 (第 3 講) 社会教育経営論の理論 2 社会教育経営論をめぐる社会教育の理論的動向を解説する。			事前	脱学校論に関するリサーチワーク (3h)
対面有				事後	社会教育と学校教育との相違に関する検討と相互レビュー (2h)
第 3 週	(第 4 講) 社会教育行政と地域活性化 1 (第 5 講) 社会教育行政と地域活性化 2 社会教育行政と地域づくり、市民協働・住民自治について解説する。			事前	成人学習理論 (アンドラゴジー) に関するリサーチワーク (3h)
対面有				事後	市民協働・住民自治に関する検討と相互レビュー (2h)
第 4 週	(第 6 講) 社会教育行政の経営戦略 1 (第 7 講) 社会教育行政の経営戦略 2 社会教育行政の経営戦略と、社会教育計画の構造について解説する。			事前	自らが居住する自治体の社会教育行政に関するリサーチワーク (3h)
対面有				事後	社会教育計画に関する検討と相互レビュー (2h)
第 5 週	(第 8 講) 学習課題の把握と広報戦略 1 (第 9 講) 学習課題の把握と広報戦略 2 地域課題の分析と把握、学習課題把握のための調査法とその活用について解説する。			事前	自らが所属するコミュニティの学習課題に関するリサーチワーク (3h)
対面有				事後	社会教育の調査法の活用と相互レビュー (2h)
第 6 週	(第 10 講) 学習課題の把握と広報戦略 3			事前	自らが居住する自治体が行う、社会教育の広報に関するリサーチワーク (3h)

対面有	（第 11 講）社会教育における地域人材の育成 社会教育行政における地域広報戦略と、人材の育成・活動支援について解説する。	事後	地域人材の育成・活動支援に関する検討と相互レビュー（2h）			
第 7 週	（第 12 講）学習成果の評価と活用 （第 13 講）社会教育を推進するネットワークの形成	事前	社会教育による学習成果に関するリサーチワーク（3h）			
対面有	学習成果の評価と活用、連携・協働の推進とネットワークの活性化について解説する。	事後	ステークホルダーのイコールパートナー精神に基づくコミュニティ構築に関する検討と相互レビュー（2h）			
第 8 週	（第 14 講）社会教育施設の経営戦略 （第 15 講）社会教育主事及び社会教育士の役割	事前	社会教育施設の現状把握と課題把握に関するリサーチワーク（3h）			
対面有	社会教育施設の経営・ネットワーク、社会教育主事・社会教育士等の社会教育人材の役割について解説する。	事後	社会教育計画の策定（7h）			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、ワークショップやグループ討議など、アクティブ・ラーニングの手法を用いた参加型による学習を適宜行う。また、モデル自治体を設定し、自治体関係者を招いたゲスト講義を行い、より社会実装性の高い構想の提案を目指す。事前学習及び事後学習として、クローズドな SNS を用いた学習者コミュニティによる意見交換や情報共有を行う。						
教科書・参考書						
教科書：浅井経子（2020）『社会教育経営論』，ぎょうせい 参考書：生涯学習・社会教育行政研究会（2023）『生涯学習・社会教育行政必携（令和 6 年版）』，第一法規、イヴァン・イリッチ（1977）『脱学校の社会』，東京創元社						
評価方法						
● 課題、SNS での学習参画、リアクションペーパー、アンケート等（60%） ● レポート「社会教育経営計画の策定」（40%）						
その他の重要事項						
● 本授業科目は、「社会教育士養成講座」科目である。 ● オフィスアワーの予約方法：電子メールにて希望日時を調整し、研究相談を実施する。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● 新設・専門基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	－	○	○	－	－	－

授業名称	政策構想論			科目区分	専門科目
授業テーマ	社会を変える「政策」のデザイン			科目コード	SDPC1301L
担当教員	松江 英夫	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択
授業の目的					
本授業の目的は、社会構想を実現するための政策立案に求められる構想力を見つけることにある。 そのためには、既存の政策手段ありきではなく、上位概念である自らの社会像の構想に基づいてアジェンダを設定し、その解決に向けて必要な政策アイデアを立案するアプローチが重要である。さらに、社会課題の解決に資する政策の構想においては、政府・行政主体の公共政策のみならず、社会全体を構成するトライセクター（パブリック、プライベート、ソーシャルセクター）の関係性を理解し、相互の影響や効果を見極める鳥瞰的な視座が求められる。本講義では、担当教授による政府委員や経済団体など多分野での実務経験に基づく最前線のトピックを基にした講義やグループ討議、ゲスト講師による実践的な知見提供、履修者を交えた双方向でのディスカッションを通して、自らの属するセクターのみならず他セクターの知見を学び、構想実現に向けた有効な政策を立案し、トライセクター・リーダーシップを発揮できる人材育成を目指す。					
到達目標					
① 履修者が、社会構想という鳥瞰的なビジョン構築から多様な政策アイデアを立案できるようになる。 ② 履修者が、社会全体を動かすための行政・民間・社会という多様なアクター（トライセクター）を視野に入れ、相互理解と有機的に機能させる政策を提言できるようになる。 ③ 履修者が政策アイデアを社会実装に移すための実践的なアクションを描けるようになる。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）ガイダンス：政策構想論の体系と位置づけ、トライセクターアプローチの必要性			事前	特になし
対面有				事後	コメントペーパーの提出（1h） ディスカッションの復習（2h）
第 2 週	（第 2・3 講）将来の日本社会に求められる政策構想 「人口減少社会」を乗り越える新成長戦略～“脱自前”と“価値循環”の 2 つのコンセプトを解説し、政策アイデアの着想の理解を深める			事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1.5h）
対面有				事後	コメントペーパーの提出（1h） ディスカッションの復習（2h）
第 3 週	（第 4・5 講）「循環型社会」に関する政策構想 「価値循環」の発想に基づく成長戦略、経済・産業政策の在り方、脱炭素社会を見据えた GX と CE（サーキュラーエコノミー）に関する政策の最前線と今後の方向性の討議する			事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1.5h）
対面有				事後	コメントペーパーの提出（1h） ディスカッションの復習（2h）
第 4 週	（第 6・7 講）「社会的イノベーションの創出」に向けた課題と政策の可能性 社会課題解決を経済成長に結びつけるイノベーションの創出に向けて、企業のミクロな視点のみならず、国や産業レベルの政策としてどのような手立てが有効か、社会的なイノベーシ			事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1.5h）
対面有				事後	コメントペーパーの提出（1h） ディスカッションの復習（2h）

	ョンの政策構想を討議する。		
第5週	(第8・9講) ウェルビーイング (Wellbeing) 実現に向けた包摂的な社会の実装 内閣府や各省庁、地域自治体で検討される中心概念であるウェルビーイング (Wellbeing) を高めるための課題と政策アイデアについて討議を深める	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1.5h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第6週	(第10・11講) 日本経済における旬な重要トピックについて討議を深める 討議テーマ例: 社会保障制度改革、財政・金融政策、EBPM のあり方など	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1.5h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第7週	(第12・13講) ゲスト講師による政策構想の実践論 政策立案の当事者 (政治家／政府関係者) を招いての最前線のテーマの改題と方向性に関する討議 (ただし、ゲスト講師との調整により実施週のタイミングは前後する可能性あり)	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1.5h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第8週	(第14・15講) 「社会構想に基づく政策立案」に関する履修生によるプレゼンテーションを基に、双方向での討議によって政策アイデアへの理解を深めアクションの方向性を明確にする。	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1.5h) プレゼンテーションの準備 (7h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h) 最終レポート作成 (8h)
授業の進め方と方法			
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は担当教員による実践テーマに基づく講義、政策立案者のゲストによるインプットと履修生を交えた双方向やグループ討議などのディスカッションを中心に進行する。 また履修者は、学んだ内容が自らの実務とどう関係するか、どのように役立つ可能性があるか、といった事柄 についてコメントペーパーに記入し、毎回の授業の最後に提出する。			
教科書・参考書			
【教科書】なし 【参考書】 ● デロイトトーマツグループ (2025 年) 「ウェルビーイングのジレンマ・幸福と経済価値を両立させる新たなつながり」 (日経 BP 社: 共著・監修) ● デロイトトーマツグループ (2024 年) 「価値循環の成長戦略 人口減少下に個が輝く日本の未来図」 (日経 BP 社: 共著・監修) ● デロイトトーマツグループ (2023 年) 「価値循環が日本を動かす 人口減少を乗り越える新成長戦略」 (日経 BP 社: 共著・監修) ● 松江英夫 (2022 年) 「「脱・自前」の日本成長戦略」 (新潮社: 単著)			
評価方法			
① 毎回の授業での議論への参加とコメントペーパーの提出、及び最終講義でのプレゼンテーション (50%) ② 最終レポート課題 (50%)。以上、①、②の総合評価により判定する。			
その他の重要事項			
● 担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については授業で説明する。			

- 本授業は全てハイフレックスで実施する。(会場でのリアル出席は歓迎)

2025 年度以前の科目との読み替え

- 政策構想論／グランドデザイン構想論（専門科目・SDPC1301L）

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	－	○	○	－	○	－

授業名称	政策と戦略			科目区分	専門科目
授業テーマ	勝つための政策シミュレーション			科目コード	SDPC2312S
担当教員	下平 拓哉	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	土 B (1・2 限)
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、日本の内閣府が掲げる主要な政策について、コリン・グレイの戦略の 17 次元などを活用しつつ、その経緯と現状、課題について明らかにし、今後の論点と方向性についての確に捉えることにある。現代戦略論の大家コリン・グレイは、目的と政策と戦略の関係において、目的達成のための政策の変わりやすさとともに、戦略の普遍性を指摘し、広範囲に行き渡る互いに混ざり合った人間と政治などの戦略の 17 次元を主張している。本授業では、経済財政、科学技術・イノベーション、地方創生、防災、男女共同参画、暮らしといったテーマを中心に考察し、履修者が理想とする社会や組織のグランドデザインを構想し、実装、発展させるための手がかりを提供する。授業は講義とそれに基づく議論により進行する。

到達目標

- ① 履修者が目的、目標、国益、デザインといった政策と戦略における基本的概念、そして日本の内閣府が掲げる主要な政策の経緯と現状、課題について理解することができる。
- ② 履修者がそうした概念を、現代世界で生起している諸問題との関連で考究し、そうした諸問題の解決策を探る基礎的な能力を身につけることができる。
- ③ 履修者が政策と戦略に係る名著のエッセンスを理解し、その示唆を現代の具体的事例に照らして分析し、任意の政策分野において提言することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 戦略的思考とはなにか イントロダクション、拡大する戦略の地平、戦略の次元、大	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)
対面有	戦略、戦略の文法、戦略家の道具等について概観する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h)
第 2 週	(第 2 講/第 3 講) 日本の政策①：経済財政 経済財政諮問会議、経済・産業・雇用対策、経済社会システム等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 3 週	(第 4 講/第 5 講) 日本の政策②：科学技術・イノベーション 総合科学技術・イノベーション会議、知的財産・クールジャパン、AI 戦略等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 4 週	(第 6 講/第 7 講) 日本の政策③：地方創生 国家戦略特別区域諮問会議、地方創生 SDGs、いいかも地方暮らし等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第 5 週	(第 8 講/第 9 講) 日本の政策④：防災 中央防災会議、最近の主な自然災害対策、原子力防災等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)

第 6 週	(第 10 講／第 11 講) 日本の政策⑤：男女共同参画 第 5 次男女共同参画基本計画等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)			
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)			
第 7 週	(第 12 講／第 13 講) 日本の政策⑥：暮らし 高齢社会対策、障害者施策、交通安全対策、性的指向・ジェンダーアイデンティティ理解増進等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)			
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)			
第 8 週	(第 14 講／第 15 講) 総括討論 「政策と戦略」にかかわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。	事前	総括討論に向けた資料作成 (10h)			
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90 分×2 コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。 ※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。						
教科書・参考書						
教科書は指定しない。以下、参考文献を列記する。 ● Christian Bason (2014) <i>Design for Policy</i> , Routledge. ● Christian Bason (2017) <i>Leading Public Design: Discovering Human-Centred Governance</i> , Policy Press. ● Jens Martin Skibsted and Christian Bason (2022) <i>Expand: Stretching the Future by Design</i> , Matt Holt Books. ● アンドレ・シャミネー (2019) 『行政とデザインー公共セクターに変化をもたらすデザイン思考の使い方ー』, BNN。 ● コリン・グレイ (2015) 『現代の戦略』, 中央公論新社。 ● コリン・グレイ (2020) 『戦略の格言ー戦略家のための 40 の議論ー』, 芙蓉書房出版。 ● 安宅和人 (2025) 『「風の谷」という希望 残すに値する未来をつくる』, 英治出版。 ● 田中秀明編著 (2025) 『人口半減ショック 地域の新戦略』, 日本経済新聞出版。 ● 経済財政白書、防災白書、高齢社会白書、障害者白書、交通安全白書、男女共同参画白書、国民生活白書						
評価方法						
以下の観点ごとに評価し、100 点満点になるよう換算する。 60 点を超えるものに単位を付与する。 1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 2. 最終授業回での発表ならびにディスカッション (65%)						
その他の重要事項						
オフィスアワーの予約方法：Microsoft Teams チャット機能で連絡 (相談内容については問わない)						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● 新設・専門科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	－	○	－	○	－	－

授業名称	シティ・プロモーション			科目区分	専門科目
授業テーマ	選ばれる街の「ブランド戦略」			科目コード	SDPC2313S
担当教員	牧瀬 稔	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	土 A（1・2 限）
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択
授業の目的					
本授業の目的は、地方自治体が展開するシティ・プロモーションの背景を確認し、動向、意義、成果などを把握することにある。シティ・プロモーションは、地方創生の開始とともに活発化してきた。そのため地方創生も概観する。これらの現状を認識することにより、現代社会におかれている地方自治体の立ち位置を理解する。そうすることで、履修生自身が取り組む調査研究の洞察力や構想力等を深めていく。					
到達目標					
① 履修者がシティ・プロモーションの事例から現場志向を学び説明できるようになる（現場力・説明力）。 ② 履修者が地方自治体のシティ・プロモーションを比較することで考察を深められるようになる（考察力）。 ③ 履修者が実際の政策展開を知ること、分析や実現の能力を高められるようになる（分析力・実現力）。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）ガイダンス、シティ・プロモーションの現状認識			事前	シラバスの精読（0.5h） 授業での質問事項の検討（0.5h）
対面有				事後	授業の復習（3h）
第 2 週	（第 2 講）地方創生と人口減少			事前	授業資料の精読（2h） ディスカッション準備（1h）
OL のみ	（第 3 講）シティ・プロモーションの実例紹介・意見交換①			事後	授業内容の復習（2h） ディスカッション経緯の復習（1h）
第 3 週	（第 4 講）成功するシティ・プロモーション			事前	授業資料の精読（2h） ディスカッション準備（1h）
OL のみ	（第 5 講）シティ・プロモーションの実例紹介・意見交換②			事後	授業内容の復習（2h） ディスカッション経緯の復習（1h）
第 4 週	（第 6 講）失敗するシティ・プロモーション			事前	授業資料の精読（2h） ディスカッション準備（1h）
OL のみ	（第 7 講）シティ・プロモーションの実例紹介・意見交換③			事後	授業内容の復習（2h） ディスカッション経緯の復習（1h）
第 5 週	（第 8 講）ブランディングとシティ・プロモーション			事前	授業資料の精読（2h） ディスカッション準備（1h）
OL のみ	（第 9 講）履修生の政策提言案の発表（中間発表）			事後	授業内容の復習（2h） ディスカッション経緯の復習（1h）
第 6 週	（第 10 講）シティ・プロモーションの新潮流			事前	授業資料の精読（2h） ディスカッション準備（1h）
OL のみ	（第 11 講）シティ・プロモーションの実例紹介・意見交換④			事後	授業内容の復習（2h） ディスカッション経緯の復習（1h）
第 7 週	（第 12 講）シティ・プロモーションの可能性と展望			事前	授業資料の精読（2h） ディスカッション準備（1h）
OL のみ	（第 13 講）シティ・プロモーションの実例紹介・意見交換⑤			事後	授業内容の復習（2h） ディスカッション経緯の復習（1h）
第 8 週	（第 14 講）履修生の政策提言案の発表（最終発表）			事前	授業資料の精読（2h） ディスカッション準備（1h）
対面有	（第 15 講）本授業のまとめ			事後	授業内容の復習（2h） 本授業全体の復習（1h）
授業の進め方と方法					

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は最終的に地方自治体に対して履修生が政策提言を行う。昨年度は、焼津市（静岡県）をフィールドとし、市長からテーマ（課題）を提示していただき、最終回に履修生が直接、市長に対して政策提言を行った。

今回も自治体と連携して、政策提言を進める予定である（フィールド自治体は授業の初回で提示予定）。なお、履修生が提示した政策案が採用され、その後、アドバイザーとして関わったケースもある。

毎回の授業は、原則として講師による講義と意見交換（ディスカッション）の双方向性を基本とする。

また、実際にシティ・プロモーションに造詣の深い関係者をゲスト講師として招き、共同で講義を実施する。履修生は、フィールドとした自治体から提示されたテーマについて発表を行う（中間・最終）。履修生の発表に関しても、意見交換を行う。履修生には、実効性（社会実装性）のある政策案の提示を求めたい。

授業計画に記している内容は、順番に変更はある（どこかでゲスト講師を招致する）。ただし、授業計画に記している内容は実施する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。参考書は、下記のとおりである。

- 牧瀬稔著（2023）『牧瀬流 まちづくりすぐに使える成功への秘訣』,経済調査会.
- 牧瀬稔著（2022）『市町村議員のための地域創生ガイドブック』,中央文化社.
- 牧瀬稔著（2021）『地域づくりのヒント地域創生を進めるためのガイドブック』,社会情報大学院大学出版部.
- 牧瀬稔編（2018）『地域ブランドとシティプロモーション』,東京法令出版.
- 牧瀬稔著（2017）『地域創生を成功させた 20 の方法』,秀和システム.
- 牧瀬稔・板谷和也編（2008）『地域魅力を高める「地域ブランド」戦略』,東京法令出版.

評価方法

- ① 毎回の授業での意見交換の参加（30%）
- ② 中間的な政策提言資料（20%）
- ③ 最終的な政策提言資料（50%）

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。

本授業は第1週と第8週をハイフレックスとし、第2週から第7週をオンラインで実施する予定である（最終的には履修生と相談し決定する）。なお、ゲスト講師を招致する回は、ゲスト講師の希望によりハイフレックスになることがある（改めて授業でアナウンスする）。

2025年度以前の科目との読み替え

- 新設・専門科目として履修可

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	—	○	○	○	○	—

授業名称	地方自治制度論			科目区分	専門科目
授業テーマ	地方の自立が国を変える（地方分権と統治機構改革）			科目コード	SDPC2314L
担当教員	西田淳一	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	土 B（1・2 限）
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が国や社会の枠を形づくる政治・行政の基礎となる国と地方の関係を制度面から理解を深め、より広い視野で社会を構想する力（「全体知」と「実践力」）を高めることにある。

授業は、総合商社から公募で大阪市・府の区長、部長に転身した講師の民と官で実践したこと、退任後、大学院で公共政策や行政・地方自治を学び直したことをベースに、地方分権改革、副首都・大阪都構想、特別地方公共団体、地方議会・議員の現状、中央政府と地方行政のあり方、諸外国の統治機構の比較などを、実情に即した資料や文献により履修者との議論を交えながら講義を進める。講義終盤では、第2次安倍内閣で検討が止まった「道州制」事案につき、日本の中央集権体制をリメイクする観点から、「地方庁」創設の新たな構想を紹介し、戦後から綿々と続く地方自治制度の今後のあり方を履修者と共に考える。

到達目標

- ① 履修者が日本社会の枠組みとなる国・地方の統治制度に関する概括的な知識を習得することができる。
- ② 履修者が授業での質疑や議論、コメントペーパーを通して、地方自治制度の現状や課題の理解を踏まえて、適切に社会を構想する力を身につけることができる。
- ③ 履修者が①②を通して、社会を構想する能力（「全体知」と「実践力」）をより高めることができる。

授業計画		授業外の学習	
第1週	(1 講) ガイダンス	事前	シラバスの精読 (1h) 質問事項の検討 (1h)
対面有	・ 講師遍歴と授業の目的や狙い、進め方の紹介。 ・ シラバスの説明と質疑応答。	事後	受講検討&授業内容の確認 (2h)
第2週	(2 講・3 講) 「副首都」構想と「関西広域連合」	事前	授業資料の読み込み&確認 (2h) 質疑&討議の準備 (1.5h)
対面有	講師が関係した大阪府市の「副首都」構想や「都構想」、特別地方公共団体「関西広域連合」の誕生経緯や課題、地方分権（改革）の文脈の中での捉え方などを考える。	事後	コメントペーパーの提出 (2h) 資料&討議内容の復習 (2h)
第3週	(4 講・5 講) 地方分権改革の動きと政治家・著名人の提言	事前	授業資料の読み込み&確認 (2h) 質疑&討議の準備 (1.5h)
対面有	未完の地方分権改革について、これまでの経緯、概要を内閣府や総務省、元総理や有力政治家・著名人の資料や書籍をもとに紹介し改革の動きを追う。	事後	コメントペーパーの提出 (2h) 資料&討議内容の復習 (2h)
第4週	(6 講・7 講) 国と地方で異なる統治制度と諸外国の比較	事前	授業資料の読み込み&確認 (2h) 質疑&討議の準備 (1.5h)
対面有	国の「議員内閣制」と地方自治の「二代表制」による統治制度の相違と政党政治の影響を理解し、紹介する諸外国の統治機構とも比較し、我が国の国と地方の統治制度の課題を考える。	事後	コメントペーパーの提出 (2h) 資料&討議内容の復習 (2h)

第5週	(8講・9講)「地方議会と地方議員」、「住民自治と市民参加」	事前	授業資料の読み込み&確認 (2h) 質疑&討議の準備 (1.5h)			
対面有	「地方議会・地方議員」の現状と課題、「住民自治・市民参加」の代表である「自治会」「町内会」について、講師の大阪府市での経験や事例を紹介しながら検討を加える。	事後	コメントペーパーの提出 (2h) 資料&討議内容の復習 (2h)			
第6週	(第10講・第11講)大都市制度と指定都市市長会・政党の動き	事前	授業資料の読み込み&確認 (2h) 質疑&討議の準備 (1.5h)			
対面有	大都市制度(指定都市・特別区・中核市)の現状と課題を整理し、指定都市市長会「特別自治市」PTの現状及び国(政党)の動きを大阪「都構想」の動きと照らし合わせて考える。	事後	コメントペーパーの提出 (2h) 資料&討議内容の復習 (2h)			
第7週	(第12講・第13講)「道州制」と「地方庁」	事前	授業資料の読み込み&確認 (2h) 質疑&討議の準備 (1.5h)			
対面有	2014以降、国での検討が止まっている「道州制」の概要と課題を整理し今後のあり方を検討する。更に、多極分散型の統治機構を進める上での「地方庁」の設置目的や必要性を考える。	事後	コメントペーパーの提出 (2h) 資料&討議内容の復習 (2h)			
第8週	(第14講・第15講)授業の振り返りと論点整理	事前	授業資料の読み込み&確認 (2h) 質疑&討議の準備 (1.5h)			
対面有	授業全体を振り返りながら重要な論点や課題を、社会構想に必要な「全体知」「実践力」の視点から整理し議論する。	事後	コメントペーパーの提出 (2h) 資料&討議内容の復習 (2h) 最終レポート課題の提出 (3.5h)			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッション、毎回提出するコメントペーパーへの講師コメントを中心に授業を進める。講義の中で、外部講師をゲストに招き討議することもある。						
教科書・参考書						
【教科書】指定しない。 【参考書】講義の補完、参考として一部を紹介。授業の中でも、適宜、参考文献を紹介する。 ● 金子仁洋(2007年)『地方再興』,ダイヤモンド社。 ● 西尾勝(2013年)『自治・分権再考』,ぎょうせい。 ● 今井照(2017年)『地方自治講義』,筑摩書房。 ● 曾我謙悟(2019年)『日本の地方政府』,中央公論新社。						
評価方法						
① 到達授業での討議への参加とコメントペーパーの提出による評価 (40%)。 ② 最終レポート課題の提出による評価 (60%)。 ③ ①+②の総合評価により最終判定する。						
その他の重要事項						
① 担当教員との授業外での質問などは、原則、チャットを通しておこなう。 ② ハイフレックス授業。但し、対面参加の履修者がいない場合はオンライン・オンデマンドでの授業。						
2025年度以前の科目との読み替え						
● 総合政策概論(基礎科目・SDPA1106L)						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	—	○	○	—	—	—

授業名称	グローバル・リスク・ガバナンス			科目区分	専門科目
授業テーマ	グローバル化に対応する			科目コード	SDPC2307L
担当教員	下平 拓哉	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	火 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者がグローバル・リスクのトレンドと本質を読み解き、より良いガバナンスと経済成長、市民的自由を達成するためのグランドデザイン能力を身につけることにある。世界をどう見るか。現在の世界、日本では、民族、宗教、経済、文化、ライフスタイルなどをめぐって非寛容な分断が進み、「何がブラックスワン」なのかを見通す力が求められている。本授業では、グローバル、リージョナル、ローカルな領域のリスクを分析評価判断するための知識や理論について考察し、履修者が理想とする社会や組織のグランドデザインを構想し、実装、発展させるための手がかりを提供する。授業は講義とそれに基づく議論により進行する。

到達目標

- ① 履修者が安全保障学に関する理論的な分析枠組みとフレームワークを身につけ、新しい安全保障の概念について理解することができる。
- ② 履修者が日本および国境を超えて広がる社会問題や社会現象について、学際的なアプローチを用いて読み解き、それらの関係性とトレンドについて説明することができる。
- ③ 履修者が現代国際社会における重要なグローバル・リスクとガバナンスのあり方について考究し、国際社会の平和と安定に向けての提言ができる。

授業計画		授業外の学習	
第1週	(第1講) グローバル・リスク・ガバナンスとはなにか イントロダクション、安全保障を捉えるための視座と方法等 について概観する。	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h)
第2週	(第2講/第3講) 想像の共同体とグローバリズムの功罪 国民国家の誕生と国家の危機、国益、ブロック化とグローバル化、ポストコロニアリズム等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第3週	(第4講/第5講) 新たな安全保障概念 リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズム (社会構成主義)、人間の安全保障、女性・平和・安全保障 (WPS) 等 について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第4週	(第6講/第7講) グローバルリスクとトップリスク 世界経済フォーラム、ユーラシアグループ、pwc、PHP 等の シンクタンクレポートについて考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第5週	(第8講/第9講) 国境を超える義務 トウキディデスの罠、米中対立、平和と紛争の諸理論、平和 への課題、倫理、人権、配分的正義等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)

第6週	(第10講／第11講) 非伝統的安全保障 テロリズム、大量破壊兵器の拡散、人道支援／災害救援活動、 グローバル・コモンズ等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)
第7週	(第12講／第13講) 世界秩序への道 新たなリスクとチャンス、リベラル国際秩序への挑戦、新しい地政学、接続性等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)
第8週	(第14講／第15講) 総括討論 「グローバル・リスク・ガバナンス」にかかわる様々な議論 について、履修者の問題関心から報告する。	事前	総括討論に向けた資料作成 (10h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。
※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。

教科書・参考書

教科書は指定しない。以下、参考文献を列記する。

- Alan Collins (2022) *Contemporary Security Studies* 6th ed., Oxford University Press.
- Sj Beard et. al (2023) *The Era of Global Risk: An Introduction to Existential Risk Studies*, Open Book Publishers.
- アダム・オラー他 (2023) 『国家安全保障戦略入門』, 並木書房。
- アンソニー・ギデンス (1999) 『第三の道：効率と公正の新たな同盟』, 日本経済新聞出版。
- エリノア・オストロム (2022) 『コモンズのガバナンス：人びとの協働と制度の進化』, 晃陽書房。
- ジャン・フランソワ・リオタール (1989) 『ポストモダンの条件：知・社会・言語ゲーム』, 水声社。
- ジョセフ・S・ナイ・ジュニア他 (2017) 『国際紛争-理論と歴史 原書第10版』, 有斐閣。
- スタンリー・ホフマン (1985) 『国境を超える義務：節度ある国際政治を求めて』, 三省堂。
- トーマス・フリードマン (2000) 『レクサスとオリーブの木：グローバリゼーションの正体』, 草思社。
- ベネディクト・アンダーソン (1997) 『想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』, NTT出版。
- 高橋哲哉・山影進編 (2008) 『人間の安全保障』, 東京大学出版会。

評価方法

以下の観点ごとに評価し、100点満点になるよう換算する。60点を超えるものに単位を付与する。

1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%)
2. 最終授業回での発表ならびにディスカッション (65%)

その他の重要事項

オフィスアワーの予約方法：Microsoft Teams チャット機能で連絡（相談内容については問わない）

2025年度以前の科目との読み替え

- グローバル・リスク・ガバナンス／国際安全保障論（専門科目・SDPC2307L）

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	—	○	○	—	—	—

授業名称	エコノミック・ステイトクラフト			科目区分	専門科目
授業テーマ	経済という「武器」と外交			科目コード	SDPC2316L
担当教員	下平 拓哉	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	土 A (1・2 限)
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、これまで国内外で多様な論者により活発な議論がなされているエコノミック・ステイトクラフト (Economic Statecraft: ES) に係る基本的概念とその関連知識を網羅的に把握するとともに、ES をめぐる論点がどこにあるかの確に捉えるための視点を修得することにある。国家戦略や国家安全保障を考える際に、経済的な側面を考慮に含める重要性が近年急速に高まってきている。それは、経済安全保障や地経学、ES というような様々な概念で議論されている。特に近年の中国は、様々な国や地域に対して、強力な経済力を活かしてその影響力を行使する ES の展開が顕著である。本授業では、ES を進める各国事情とその主な技法を中心に考察し、履修者が理想とする社会や組織のグランドデザインを構想し、実装、発展させるための手がかりを提供する。授業は講義とそれに基づく議論により進行する。

到達目標

- ① 履修者が ES に係る基本的概念とその現代的意義を理解することができる。
- ② 履修者がそうした概念を、現代世界で生起している諸問題との関連で考究し、そうした諸問題の解決策を探る基礎的な能力を身につけることができる。
- ③ 履修者が ES に係る名著のエッセンスを理解し、その示唆を現代の具体的事例に照らして分析し、任意の政策分野において提言することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) エコノミック・ステイトクラフト(ES)とはなにか イントロダクション、経済安全保障、地経学、ES、国力の道具、ルール形成等について概観する。	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h)
第 2 週	(第 2 講／第 3 講) ES の各国事情①：アメリカ 国家経済会議、国防権限法、米国輸出規則、輸出管理改革法、対米外国投資委員会、新興技術等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 3 週	(第 4 講／第 5 講) ES の各国事情②：中国 超限定戦、軍民融合、「一帯一路」、アジアインフラ開発銀行、レアアース資源外交、恵台政策等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 4 週	(第 6 講／第 7 講) ES の各国事情③：日本の経済安全保障 国家安全保障戦略、新国際秩序創造戦略本部、経済安全保障推進法等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第 5 週	(第 8 講／第 9 講) ES の技法①：貿易、対外援助、規範 供給効果と影響力効果、戦略物資、クノールの貿易制裁事例、対外援助の効果と評価、合法性等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)

第 6 週	(第 10 講／第 11 講) ES の技法②：サイバー、エネルギー、医療・健康	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)			
対面有	クリティカル・インフラストラクチャー、エネルギー基本計画、感染症と CBRN 等について考究する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)			
第 7 週	(第 12 講／第 13 講) 21 世紀の ES：新しい経済秩序へ脅威国との通商、経済的関与、ガーゼのカーテン、ガバナンスとビジネス等について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)			
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)			
第 8 週	(第 14 講／第 15 講) 総括討論	事前	総括討論に向けた資料作成 (10h)			
対面有	「ES」にかかわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90 分×2 コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。 ※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。						
教科書・参考書						
教科書は指定しない。以下、参考文献を列記する。 ● Vinod K. Aggarwal ed. (2025), <i>The Oxford Handbook of Geoeconomics and Economic Statecraft</i>, Oxford University Press. ● Vinod K. Aggarwal and Margaret Kenney (2024), <i>Great Power Competition and Middle Power Strategies: Economic Statecraft in the Asia-Pacific Region (The Political Economy of the Asia Pacific)</i>, Springer. ● デヴィッド・A・ボールドウィン (2023) 『エコノミック・ステイトクラフト』, 産経新聞出版。 ● 國分俊史 (2020) 『エコノミック・ステイトクラフト 経済安全保障の戦い』, 日本経済新聞出版。 ● 国際文化会館地経学研究所編 (2024) 『経済安全保障とは何か』, 東洋経済新報社。 ● 船橋洋一 (2020) 『地経学と何か』, 文藝春秋。						
評価方法						
以下の観点ごとに評価し、100 点満点になるよう換算する。 60 点を超えるものに単位を付与する。 1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 2. 最終授業回での発表ならびにディスカッション (65%)						
その他の重要事項						
オフィスアワーの予約方法：Microsoft Teams チャット機能で連絡 (相談内容については問わない)						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● 新設・専門科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	－	○	○	－	－	－

授業名称	ソーシャル・イノベーション			科目区分	専門科目
授業テーマ	社会を変えるアイデアの起こし方			科目コード	SDPC2308S
担当教員	池邊 このみ	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択
授業の目的					
本授業の目的は社会課題解決のためのまちづくりの基礎知識を得ることにある。かつて都市計画は、人口増を想定してつくられた。都市計画は、人口増のシミュレーションをもとに都市の拡大を想定してつくられていた。しかし、現在では、各地で人口減が進み、中心市街地でさえ、シャッター街となり、郊外住宅地は空き家、空き地が増加している。また、各地で若年層の社会減が問題となっている。本論ではコミュニティの再生を可能とする持続可能な都市について考えることを目的とする。					
到達目標					
① 履修者がソーシャル・イノベーションの定義と、従来の社会貢献（CSR・寄付）との違いを理解する。 ② 履修者が、経済産業省がソーシャル・ビジネスに対して掲げる 3 つの定義「社会問題を解決するものであること」「利益を上げる事業であること」「新たなビジネスモデルであること」を理解して、現代社会における社会起業構想の重要性を認識できるようになること。 ③ 履修者が具体の社会問題や社会的資源を活用し、新たなソーシャルビジネスの構想を提案できることを目指す。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) なぜ今、ソーシャル・イノベーションか？ 2026 年における社会課題の俯瞰。 「コレクティブ・インパクト」の概念 組織の枠を超えた連携の必要性。			事前	2026 年度の社会課題の抽出 (4h)
対面有				事後	コメントペーパー (2h)
第 2 週	(第 2 講) 制度と評価：インパクト投資と SROI (社会的投資収益率) 事例： SIIF (日本社会投資財団) による国内インパクト投資の現状。「良いこと」を数値化し、資金を呼び込む制度。 (第 3 講) CSR と SDGs、ESG 投資等の動向			事前	ソーシャル・イノベーションと投資に関する調査 (4h)
OL のみ				事後	コメントペーパー (2h)
第 3 週	(第 4 講) 環境×経済：サーキュラーエコノミーの社会実装 ゴミという概念を消すビジネスモデルと、地域の回収拠点制度。 (第 5 講) 食×テック：フードロス価値を変える 消費者の購買行動を変容させるプラットフォーム戦略。			事前	環境とソーシャル・イノベーションに関する調査 (4h)
OL のみ				事後	コメントペーパー (2h)
第 4 週	(第 6 講) 現代社会における社会課題とその解決方策			事前	社会課題の抽出と対象地の抽出 (4h)

対面有	(グループディスカッション・発表) (第7講) 地域で求められるソーシャル・ビジネスとその課題 (グループディスカッション・発表)	事後	地域で求められるソーシャル・ビジネスの課題抽出 (6h)
第5週	(第8講) ソーシャル・ビジネスに必要とされる支援・連携(現状) (第9講) ソーシャル・ビジネスの推進のための支援策	事前	自分で取り組むソーシャル・ビジネスの選定 (4h)
OLのみ		事後	自分の考えるソーシャル・ビジネス(ラフスケッチ 発表に使用した資料) (6h)
第6週	(第10講) 第9講で発表したソーシャル・ビジネスを提案できる対象地域を選び、選択理由や地域特性、課題などをまとめる(選定後、各自選択理由を含め発表)	事前	自分の考えるソーシャル・ビジネス(完成させる 発表に使用した資料) (6h)
OLのみ	(第11講) ソーシャル・ビジネスを企業として成立させるために求められる人材やその人材育成、立ち位置、地方自治体や企業との関係性を考える	事後	ソーシャル・ビジネスを提案する候補地域についての発表ペーパー提出(PDF、PPT等、PPTの場合には配布資料にしてPDFにして提出のこと) (6h)
第7週	(第12講) 対象地域におけるソーシャル・ビジネスの検討 ソーシャル・ビジネスのオリジナリティや、スキーム、持続可能性等についての検討 (各自時間内に検討) (第13講) 上記について、各自発表し、他の履修者や教員を含めたディスカッションによって、内容を深める	事前	×
OLのみ		事後	ソーシャル・ビジネスについての発表資料をコメントペーパーとして提出 (2h)
第8週	(第14講) 対象地域の課題分析、解決策、目標像、成果指標、各種のステイクホルダーとのかかわり、予算などを踏まえたソーシャル・ビジネス構想の発表(各自) (第15講) ディスカッションと取りまとめ	事前	最終成果(PPTにて、前日0時まで提出。当日、口頭発表をすることまでを最終成果内容として、評価する) (6h)
対面有		事後	最終成果(発表後の修正 詩最終提出資料とする) (2h)

授業の進め方と方法

授業は、原則、教員が用意した教材による講義と、各自が自身の提案を実現したいと思う地方自治体を選択し、そこを調査研究フィールドとして進める。ソーシャル・ビジネスについては、まだ日本における国などからの支援も少なく国際的にも遅れをとっている。しかしながらいわゆる社会起業家が成長していることも確かである。教員、履修者を含めたディスカッションを行うことで、既存の事例や自身の経験だけに頼らずに独自性や先進性のある新たなソーシャル・ビジネスの構想をできる限り授業時間内で検討できるよう配慮している。

上記では、グループや各自での発表を授業内で想定しているが、人数に応じて調整を行う。

教科書・参考書

【教科書】 指定しない

【参考書】

- 『ムハマド・ユヌス自伝—貧困のない世界をめざす銀行家』(ムハマド・ユヌス著 1998 早川書房)
- 『ソーシャル・ビジネス革命—世界の課題を解決する新たな経済システム』(ムハマド・ユヌス著 2010 早川書房)

● 『ソーシャルデザイン—社会をつくるグッドアイデア集』(グリーンズ編 2012 朝日出版社) ● 『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー (SSIR) 日本版』(SSIR Japan 編 2022–2023 英治出版)						
評価方法						
評価は、各回のコメントペーパー40%、最終レポート 60%で最終評価を行う。 ● コメントペーパーは三段階評価 (60 点、80 点、95 点) とする。欠席した場合には、事前連絡がある場合のみ、講義後、講義資料をみてコメントペーパーを提出すれば、上記点数に加え、出席扱いとする。 ● 最終レポートは、最終日の口頭発表を合わせて、提案内容と政策のオリジナリティ等で評価する。						
その他の重要事項						
● オフィスアワーの予約方法 teams で連絡をし、日程調整可。 ● 授業実施方法 初回は、対面とするが、人数が少ない場合はリモートを基本とし、発表時など対面回を設ける。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● 社会起業構想論 (専門科目・SDPC1308S)						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	—	○	○	—	○	—

授業名称	都市計画論			科目区分	専門科目
授業テーマ	持続可能な都市の計画とコミュニティの再生			科目コード	SDPC2317L
担当教員	池邊 このみ	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	月 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択
授業の目的					
本授業の目的は社会課題解決のためのまちづくりの基礎知識を得ることにある。かつて都市計画は、人口増を想定してつくられた。都市計画は、人口増のシミュレーションをもとに都市の拡大を想定してつくられていた。しかし、現在では、各地で人口減が進み、中心市街地でさえ、シャッター街となり、郊外住宅地は空き家、空き地が増加している。また、各地で若年層の社会減が問題となっている。本論ではコミュニティの再生を可能とする持続可能な都市について考えることを目的とする。					
到達目標					
① 履修者が都市計画の基本概念・制度を理解する。 ② 履修者が日本および海外の都市・地域づくり事例を読み解き、違いや日本が向かうべき方向性を考える。 ③ 履修者が地方自治体の立場で、課題発見と計画立案の視点を身につける。 ④ 履修者がハード・ソフト両面から地域活性化に関する政策立案ができるようになる。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 第 1 回 都市計画とまちづくりの基礎概念			事前	キーワード検索 (2h)
対面有	基礎知識：都市計画とは何か／まちづくりとの違い／日本の都市計画の特徴			事後	コメントペーパー作成 (2h)
第 2 週	(第 2 講) 日本の都市計画制度の全体像			事前	法的キーワード検索 (2h)
OL のみ	基礎知識：都市計画法・建築基準法・関連法制度 事例：用途地域指定による市街地形成（地方都市の例）			事後	コメントペーパー作成 (2h)
第 3 週	第 3 回 人口減少社会と都市計画			事前	都市の社会課題調査 (4h)
OL のみ	基礎知識：少子高齢化・人口減少の影響／コンパクトシティ 第 4 回 土地利用計画とゾーニング 基礎知識：用途地域、地区計画、土地利用調整 社会課題：郊外型商業施設と中心市街地衰退			事後	自身の良く知っている地方を題材に社会課題を記述 (4h)
第 4 週	第 5 回 中心市街地活性化の理論と実践			事前	エリアマネジメントの予習 (4h)
OL のみ	内容：中心市街地活性化基本計画／エリアマネジメント 第 6 回 地域経済とまちづくり ：産業振興、雇用創出、観光政策を目的としたまちづくり			事後	地域経済とまちづくりについての事例調査 (4h)
第 5 週	第 7 回 住民参加と合意形成 住民参加型まちづくり			事前	ワークショップなどの参加経験など (2h)

OLのみ	ワークショップ、パブリックコメント、協働 第8回 空き家・空き地対策 空き家問題の現状／利活用施策（空き家バンク・リノベーション）	事後	空き地・空き家に関する政府施策の調査（4h）
第6週	第10回 防災・減災と都市計画 内容：ハザードマップ、立地適正化計画、防災都市づくり 第11回 パブリックスペースの活用－公道や広場をオープン	事前	震災と防災都市づくりに関する調査（4h）
OLのみ	カフェや広場として使いこなす「プレイスメイキング」 ：歩行者中心の街づくり－ウォークアブルシティ、モビリティ（LRT・自動運転）と街の融合。	事後	パブリックスペースの活用事例の調査（4h）
第7週	第12回 都市デザインと景観形成 ：景観法、景観条例、歴史的街並み保全	事前	PPPとPFIに関する調査（4h）
OLのみ	第13回 官民連携（PPP・PFI）とまちづくり ：官民連携の仕組み、民間活力導入	事後	景観法や景観条例に関するまちづくりの調査（4h）
第8週	第14回 地域資源を活かした地方創生 ：地域ブランド、関係人口、移住定住政策、地方創生	事前	対象地の地域資源の調査（4h）
OLのみ	第15回 総合演習：コミュニティの再生のためのまちづくり ：課題整理、施策立案、発表・講評	事後	授業の中で作成する発表資料を取りまとめて提出（10h）
授業の進め方と方法			
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、都市計画の基礎と、まちづくりや地域課題の解決に資する事例などを中心に講義を展開する。			
教科書・参考書			
【教科書】指定しない 【参考書】 『都市計画・まちづくりの基礎研究—人口減少・非成長時代における課題と可能性』著者：川崎興太 花伝社 2023年 『東京の自治体まちづくりⅡ』編著：上山肇 公人の友社 2024年 『コミュニティデザインの現代史—まちづくりの仕事を巡る往復書簡』著者：饗庭伸・山崎亮 学芸出版社 2024年 『事例に学ぶ地域づくり』編者：澤俊晴・西村武司 大学教育出版 2021年			
評価方法			
評価は、各回のコメントペーパー40%、最終レポート 60%で最終評価を行う。 - コメントペーパーは三段階評価（60点、80点、95点）とする。欠席した場合には、事前連絡がある場合のみ、講義後、講義資料をみてコメントペーパーを提出すれば、上記点数に加え、出席扱いとする。 - 最終レポートは、最終日の口頭発表を合わせて、提案内容と政策のオリジナリティ等で評価する。			
その他の重要事項			
オフィスアワーの予約方法 teams で連絡をし、日程調整可。			

- 授業実施方法 初回は、対面とするが、人数が少ない場合はリモートを基本とし、発表時など対面回を設ける。

2025 年度以前の科目との読み替え

- 都市社会学（専門基礎科目・SDPB1205L）

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	—	○	○	—	—	—

授業名称	地域イノベーション論			科目区分	専門科目
授業テーマ	デジタル・トランスフォーメーションとローカル資源の再構築			科目コード	SDPC2311L
担当教員	池邊 このみ	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	木 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択
授業の目的					
本授業では、人口減少や産業衰退に直面する地域が、いかにして新しい価値（イノベーション）を創出し、持続可能な社会を構築するかを学びます。日本国内および海外の最新事例を参考にして、制度設計、産官学連携、スタートアップ支援の実態等を理解し、政策提案に活かせるようにします。					
到達目標					
① 履修者が地域が抱える社会課題を構造的に理解できる。 ② 履修者が地域資源を活用したイノベーションの考え方を理解する。 ③ 履修者が官民・市民・大学等の連携による実践事例を説明できる。 ④ 履修者が自ら地域課題を設定し、解決アイデアを提案できる。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	第 1 講 地域イノベーションとは何か 「地域課題」と「イノベーション」の定義 ・シュンペーターのイノベーション論と地域開発。 ・「集積の経済」と「地域イノベーション・システム (RIS)」の概念。			事前	キーワードの検索 (2h)
対面有				事後	コミットペーパー作成 (2h)
第 2 週	第 2 講 制度とエコシステム：スタートアップ・エコシステム 拠点都市 行政による制度支援（実証実験サポート、特区制度）の仕組み。 第 3 講 デジタル×地域：スマートシティの最前線 事例：福島県会津若松市「スマートシティ会津若松」 デジタル庁の「デジタル田園都市国家構想」を活用したデータ連携基盤（都市 OS）の活用事例			事前	エコシステム検索 (2h) デジタル田園構想検索 (2h)
OL のみ				事後	今後の地域イノベーションの構想ラフスケッチ (4h)
第 3 週	第 4 講：伝統産業の再定義：D2C とグローバル展開 事例：福井県鯖江市の眼鏡産業、新潟県三条市 伝統工芸がクリエイティブ産業へと変貌を遂げるプロセス。 第 5 講：農業イノベーション：アグリテックと 6 次産業化 スマート農業と 1 粒 1000 円のライチ。稼ぐ地域商社の仕組み。			事前	伝統産業のイノベーション事例調査 (4h)
OL のみ				事後	農業と地域イノベーション対象地を決めて構想を描く (4h)

第4週	第6講：観光と文化資源の活用：アルベルゴ・ディフューズ 事例：岡山県矢掛町、香川県小豆島 地域全体をホテルに見立てるイタリア発の分散型ホテルモデルと日本での展開	事前	文化の地域イノベーション事例調査（4h）
OLのみ	第7回：エネルギーと循環型社会：グリーン・イノベーション 未利用木材を活用したエネルギー自給と、地域内経済循環の制度設計。	事後	循環型社会と地域イノベーション事例調査（4h）
第5週	第8講：大学の役割：知の拠点としての産学連携 事例：信州大学、九州大学 大学が中心となった新産業創出と、リサーチパークの役割。	事前	地域イノベーションにおける大学の役割（4h）
OLのみ	第9講：海外事例1：欧州の先端的地域政策 老朽化した工業地帯を知識型産業地区へ転換した都市計画。	事後	海外事例と国内事例の相違（4h）
第6週	第10講：海外事例2：北欧のウェルビーイング・イノベーション 住民参加型の「リビングラボ」による公共サービスの革新。	事前	海外事例に学ぶ（4h）
OLのみ	第11講：デンマークの風力発電産業、フィンランドのモバイル通信。製造業の再興と第3のイタリア	事後	何が日本の地域イノベーションの阻害要因か（4h）
第7週	第12講：地域金融と投資の役割 ・地銀や信用金庫による事業承継支援とハンズオン支援。 ・クラウドファンディングと地域通貨の活用。	事前	地域イノベーションと金融（4h）
OLのみ	第13講：地域プロデューサーの役割とキャリアパス ・地域を繋ぐ「関係人口」と「中間支援組織」の重要性。	事後	地域プロデューサーの役割（4h）
第8週	第14講：地域課題の抽出（グループワーク） 第15講：イノベーション案の策定1：課題解決のデザイン	事前	地域イノベーションを対象地を決めて構想する（4h）
対面有	2：実現可能性の検証 発表会（ディスカッション）	事後	地域イノベーションを対象地を決めて構想する（4h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義と履修者が調査した地域イノベーションの仕組みについてディスカッションしながら、進めていく。最終的には、自身で地域イノベーションのスキームを具体の対象地で構築する。

教科書・参考書

【教科書】 指定しない

【参考書】

- 『イノベーション創発による地域経済の発展—中間支援組織による地域内外の産業連関—』 2024 年晃洋書房（編著：岩松義秀）
- 『FUKUOKA GROWTH 2024』 2024 年（著：福岡アジア都市研究所）
- 『大学発バイオベンチャー成功の条件：「鶴岡の奇蹟」と地域 Eco-system』 2014 年（編著：大滝義博・西

澤昭夫) 創成社 ● 『地方を救う 官民共創ビジネス 地域発イノベーションの実践術』2025 年（編著：EY ストラテジー・アンド・コンサルティング/日経コンストラクション）日経 BP 社						
評価方法						
評価は、各回のコメントペーパー40%、最終レポート 60%で最終評価を行う。 ● コメントペーパーは三段階評価（60 点、80 点、95 点）とする。欠席した場合には、事前連絡がある場合のみ、講義後、講義資料をみてコメントペーパーを提出すれば、上記点数に加え、出席扱いとする。 ● 最終レポートは、最終日の口頭発表を合わせて、提案内容と政策のオリジナリティ等で評価する。						
その他の重要事項						
● オフィスアワーの予約方法 teams で連絡をし、日程調整可。 ● 授業実施方法 初回は、対面とするが、人数が少ない場合はリモートを基本とし、発表時など対面回を設ける。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
—						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	—	○	○	—	—	—

授業名称	環境と社会			科目区分	専門科目
授業テーマ	里山に学ぶ持続可能な未来			科目コード	SDPC2318L
担当教員	富井 久義	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	火 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択
授業の目的					
現代社会において、環境と社会のかかわりは多面的な観点で注目を集めている。たとえば「里山」についていえば、人間の管理にもとづく二次的自然という物理的環境を保全するという関心のみならず、里山的な環境におけるビジネスの展開という関心も寄せられている。 本授業の目的は、このような多面的な関心を集める里山を手がかりに、環境と人びとがどのように相互作用を果たしてきたのかを、環境社会学的な観点から検討することにある。里山に関連する諸トピックを取り上げて環境社会学の発想法と諸取り組みを紹介したうえで、里山における社会構想の展開可能性を検討することをめざす。					
到達目標					
① 環境社会学にかんする基本的な概念を理解し、説明することができる。 ② 里山をめぐる諸取り組みの可能性と課題を批判的に考察することができる。 ③ 里山に関連する社会構想を展開するための具体策を、環境社会学の知見を援用しつつ提案することができる。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 里山にみる環境と社会 (イントロダクション) ——二次的自然、イメージとしての里山、環境社会学			事前	シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h)
対面有				事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、予習・復習スケジュールの割当検討 (4h)
第 2 週	(第 2・3 講) 里山と地域 ——生活環境主義、マイナー・サブシステム、コモンズ			事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
対面有				事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 3 週	(第 4・5 講) 里山と生物 ——野生生物、ドメスティケーション、半栽培			事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
対面有				事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 4 週	(第 6・7 講) 里山と開発 ——自然保護、被害構造論、受益圏－受苦圏			事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
対面有				事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 5 週	(第 8・9 講) 里山とエネルギー ——バイオマス、小水力発電、コミュニティパワー			事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
対面有				事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 6 週	(第 10・11 講) 里山と食・農 ——有機農業、認証制度、農的な暮らし			事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
対面有				事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)
第 7 週	(第 12・13 講) 里山における社会構想の可能性① ——まちづくり、ツーリズム、ボランティア／NPO			事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h)
対面有				事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h)

第 8 週	(第 14・15 講) 里山における社会構想の可能性② ——課題発表と討論	事前	フィードバックコメントの確認、課題発表準備 (14h)				
対面有		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、発表者へのフィードバックシートの記入 (5h)				
授業の進め方と方法							
本授業は、第 2 週以降 2 講連続で実施し、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義（話題提供）、ディスカッション（演習課題）で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。 第 8 週では、里山に関連する社会構想を展開するための具体策を、環境社会学の知見を援用しつつ提案する発表を各履修者に求め、相互に討論するかたちで進行する。							
教科書・参考書							
【教科書】 指定しない 【参考書】 ● 環境社会学会，2023，『環境社会学事典』丸善出版。 ● 藤川賢ほか編，2023–2025，『シリーズ環境社会学講座』1–6，新泉社。							
評価方法							
● コメントペーパーの内容 30% ● ディスカッションへの貢献 30% ● 最終レポート課題の内容 40%							
その他の重要事項							
● 担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第 1 週の授業で説明する。							
2025 年度以前の科目との読み替え							
● 新設・専門科目として履修可							
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥	
	－	○	○	－	－	－	

授業名称	コミュニティの理論と実践			科目区分	専門科目
授業テーマ	“つながり” のデザイン学			科目コード	SDPC2319L
担当教員	大谷 晃	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	金 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、現代社会におけるコミュニティをめぐる諸問題を捉えるための概念と、調査研究やコミュニティデザインの方法への理解を深めることである。

私たちは、コミュニティという言葉を実日常的に用いている。また、社会学をはじめとする社会科学の領域でも、複数の系譜がコミュニティを研究課題としてきた。現代の日本社会においても、地域集団などの従来のコミュニティの再生、あるいはオルタナティブな形が模索されている。一方で、コミュニティという言葉はきわめて多義的であり、論者によって語義が異なる代表的な概念であり、しばしば混乱が生じている。

本授業では、第1に、コミュニティという概念がどのような現実を念頭に、どのように論じられてきたのか、都市社会学や地域社会学を中心に学術理論の解説を行う。複数の系譜の理論を体系的に学ぶことで、複眼的な分析視角を身につけることをめざす。第2に、履修者各自が関心を有する社会課題や実務課題を念頭に置いた議論を行う。具体的なコミュニティの諸問題を捉え、新たな形をデザインするための方法を身につけることをめざす。

到達目標

- ① 履修者が、現代におけるコミュニティの諸問題を捉えるための主要な概念や方法を理解し、説明することができる。
- ② 履修者が、現代におけるコミュニティの諸問題について、みずから関心をもつ社会課題や実務課題に関連づけて説明することができる。
- ③ 履修者が、現代におけるコミュニティを分析した社会学的研究について、分析視角、知見、課題を正しく読解することができる。

授業計画			授業外の学習	
第1週	(第1講) オリエンテーション		事前	シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h)
対面有	——コミュニティとは何か?		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、予習・復習スケジュールの割当検討 (1h)
第2週	(第2講・第3講) 近代化とコミュニティ		事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
対面有	——農村コミュニティ、ゲマインシャフトとゲゼルシャフト、コミュニティとアソシエーション		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第3週	(第4講・第5講) 都市化とコミュニティ		事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
対面有	——初期シカゴ学派、ネットワーク論、下位文化理論		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第4週	(第6講・第7講) 国家とコミュニティ		事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
対面有	——新都市社会学、象徴的コミュニティ、空間論的展開とスケール問題		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)

第5週	(第8講・第9講) モビリティとコミュニティ ——移動論的転回、ヴァーチャルコミュニティ	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
対面有		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、課題発表文献の選択 (2h)
第6週	(第10講・第11講) コミュニティとアクションリサーチ ——コミュニティをともにつくる調査実践の設計	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
対面有		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、課題発表文献の精読 (6h)
第7週	(第12講・第13講) 現代コミュニティの再編 ——東京都立川市の団地自治会を事例に	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
対面有		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第8週	(第14講・第15講) 現代コミュニティを考える ——最終課題の発表	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、課題発表準備 (12h)
対面有		事後	コメントペーパー (発表へのリアクション含む) 記入 (3h)、授業内容の復習 (2h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は担当教員によるコミュニティ論や方法の講義に加え、履修者によるディスカッションを取り入れる形で進める。本授業は、第2週目以降、2講連続で実施する。

第2週から第7週の授業は概ね、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義（話題提供）、ディスカッション（演習課題）で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーにはフィードバックを行い、次週の授業冒頭にいくつかを取り上げ、紹介する。

第8週については、教員が用意する課題論文の候補から、各履修者の関心に近い論文を取り上げ、その分析視角・知見・課題と、自身の研究テーマ・関心に引き寄せて発表と議論を行う。

教科書・参考書

【教科書】指定しない

【参考書】以下の文献を参照。また、それ以外にも初回および毎回の授業で参考書・参考資料を提示する。

- ジェラード・デランティ（2006）『コミュニティ』NTT出版。
- 森岡清志（2012）『都市社会学セクションII都市空間と都市コミュニティ』日本評論社。
- 野沢慎司編（2021）『リーディングス ネットワーク論 家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房。
- 奥田道大（1983）『都市コミュニティの理論』東京大学出版会。
- 玉野和志・三本松政之編（2006）『地域社会学講座 第3巻 地域社会の政策とガバナンス』東信堂。
- 祐成保志・武田俊輔編（2023）『コミュニティの社会学』有斐閣。

評価方法

- コメントペーパーの内容 30%
- ディスカッションへの貢献 30%
- 第8週の課題発表の内容 40%

その他の重要事項

- 担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第 1 週の授業で説明する。

* 担当教員の連絡先：大谷晃（akira.otani@sentankyo.ac.jp）

2025 年度以前の科目との読み替え

- 新設・専門科目として履修可

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	—	○	○	—	—	—

授業名称	デジタル社会論			科目区分	専門科目
授業テーマ	AI時代の「人間と社会」を問う			科目コード	SDPC2304L
担当教員	後藤 心平	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択
授業の目的					
本授業の目的は、インターネットや AI が浸透した現代社会における情報の流通構造を理解し、デジタル空間における情報の「質」を見極めるための高度なリテラシーを習得することである。マスメディアとデジタルメディアの情報の作られ方・広がり方の違いを比較しながら、組織人、市民としてデジタル社会と健全に向き合うための倫理と実践力を養う。					
到達目標					
① 履修者がデジタル特有の情報環境の構造的問題を説明できる。 ② 履修者が生成 AI やフェイクニュースがもたらす社会的リスクを理解し、情報のファクトチェックを実践できる。 ③ 履修者がデジタル・シチズンシップの概念に基づき、自組織等におけるデジタル活用のガイドラインを策定できる。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション：マスメディアからソーシャルメディアへ			事前	シラバスの精読 (0.5h) 自身の 1 日の「スクリーンタイム」と「主に見ているアプリ」の記録・分析 (0.5h)
対面有	本授業の全体像を把握する。情報のゲートキーパーが、専門職である「編集者」から「アルゴリズム」と「個人の拡散」へ移行したことによる社会的変化について、自身の体験に基づき考察する。			事後	コメントペーパー提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第 2 週	(第 2・3 講) アテンション・エコノミーと設計・構造			事前	指定図書の担当箇所を精読し、内容を発表できるよう準備 (3h)
対面有	「関心」の貨幣化と行動変容を促すプラットフォームの設計思想について理解した上で、特定のアプリやサービスの UI/UX を分析し、ユーザー没入の仕掛けを議論する。			事後	コメントペーパー提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第 3 週	(第 4・5 講) 情報の分断：エコーチェンバーとフィルターバブル			事前	インターネットで発信されている自身とは異なる意見を意識的に閲覧し、内容に対する違和感を発表できるよう準備 (3h)
対面有	「心地よい情報」の選別がもたらす社会的分断と、確証バイアスの強化について理解した上で、自分とは異なる意見を持つ人々との対話が成立しにくくなる構造的要因を発表する。			事後	コメントペーパー提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第 4 週	(第 6・7 講) 偽情報・誤情報のメカニズム			事前	過去に騙された、あるいは信じそうになったネット情報の事例を収集し発表できるよう準備 (3h)
対面有	フェイクニュースの種類と拡散の心理的メカニズムについて、報道現場の裏取り取材との対比から学び、実際に拡散されたフェイクニュースを用い、なぜ多くの人が信じたのか検証する。			事後	コメントペーパー提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)

第 5 週	(第 8・9 講) 生成 AI と「真実」の変容 生成 AI 技術がメディア環境に与える影響と、著作権・倫理的	事前	生成 AI を使って文章とスライドを作成し、その過程での気づきをまとめる (3h)
対面有	問題について理解した上で、「AI が書いた文章」や「AI が生成した画像」を見抜くことができるかテストを行い、AI 時代における「真正性」の担保について議論する。	事後	コメントペーパー提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第 6 週	(第 10・11 講) デジタル・シチズンシップとウェルビーイング 「デジタル・シチズンシップ教育」の潮流を理解した上で、	事前	海外や先進的な自治体のデジタル・シチズンシップ教育事例を調べて発表できるよう準備 (3h)
対面有	自身や所属組織がインターネットでトラブルに巻き込まれた際の「デジタル上の行動規範」を検討する。	事後	コメントペーパー提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第 7 週	(第 12・13 講) メディア・リテラシーの実践と普及 社会人や組織人に求められるメディア・リテラシーを実務に	事前	自身がターゲットとする層に向けたメディア・リテラシー啓発(育成でも可)プログラムの案を発表できるよう準備 (3h)
対面有	どう活かすかを理解した上で、職場や家庭、地域社会においてメディア・リテラシーを高めるためのワークショップや研修プログラムを構想し、発表する。	事後	コメントペーパー提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第 8 週	(第 14・15 講) まとめ：デジタル社会を生き抜く羅針盤 学んだことを踏まえ、自組織や社会に向けて、健全なデジタ	事前	「デジタル社会への提言」を発表できるよう準備 (3h)
対面有	ル空間を構築するための提言を発表し、最終レポート課題のベースとする。	事後	コメントペーパー提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h) 最終レポート作成 (15h)
授業の進め方と方法			
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は第 1 週を除く全ての回で「講義（知識入力）」と「演習・ディスカッション（実践出力）」をセットで行う。教員の実務経験（報道機関による取材・編集・発信）と、現代のデジタル技術（AI・アルゴリズムによる編集・発信）を比較することで、技術の進化を相対化して捉える視点を重視する。			
教科書・参考書			
教科書は指定しない。 参考書：宇田川敦史（2025）『アルゴリズム・AI を疑う 誰がブラックボックスをつくるのか』,集英社新書。 ハル・アベルソンほか（2021）『教養としてのデジタル講義 今こそ知っておくべき『デジタル社会』の基礎知識』,日経 BP.			
評価方法			
① 授業中のディスカッションへの貢献 (20%) ※発表者としての貢献も含む ② コメントペーパー (30%) ③ 最終レポート (50%)			
その他の重要事項			
● オフィスアワーと、その予約方法については、初回の授業で説明する。 ● 遅刻や欠席をする場合は、メール等を通じて事前に連絡すること。			
2025 年度以前の科目との読み替え			
—			

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	—	○	—	—	—	—

授業名称	アカデミック・リサーチ			科目区分	社会構想実践科目
授業テーマ	知的生産のための「作法」			科目コード	SDPF1501L
担当教員	オムニバス	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	火 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が社会構想大学院大学の専門職学位課程において、修士論文相当の最終成果物を作成するにあたり必要となるアカデミック・スキルズを身につけることにある。社会人学生が大学院において効率的に実りある学びを得るためには、これまでに蓄積された学術知にアクセスし、それらを読み解き、自ら新たな知を生み出し、他者に伝達するための一連の能力を高い水準で有することが必要不可欠である。

本授業ではまず「研究」や「調査」とはいかなる営みか整理し、それらを支える思考法を学び、そのうえで文献調査の技法や、アカデミックコンテンツを読み・書き・伝える能力を身につけていく。併せて、適切な倫理性を備えた研究計画を立案するための基礎的な考え方を習得する。

到達目標

- ① 履修者が「研究」や「調査」といった概念や、その前提となる思考法・倫理について説明できるようになる。
- ② 履修者が書籍や論文といった学術的リソースを利活用できるようになる。
- ③ 履修者がアカデミックなコンテンツを読み・書き・伝える能力を身につける。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講／橋本純次) 研究とはなにか、調査とはなにか： オリエンテーション	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (1h)
OL のみ		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第 2 週	(第 2・3 講／橋本純次) 論理的思考とデザイン思考： 高度専門職業人の基礎となる世界の捉え方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h)
OL のみ		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第 3 週	(第 4・5 講／齋藤崇徳) 文献調査の技法： 学術情報を体系的に検索する方法	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h)
OL のみ		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第 4 週	(第 6・7 講／齋藤崇徳) クリティカル・リーディングの基礎と 実践：文献レビューのための読書法	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (5h)
OL のみ		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第 5 週	(第 8・9 講／大谷晃) アカデミック・ライティングの基礎	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h)
OL のみ		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第 6 週	(第 10・11 講／全教員) アカデミック・ライティング演習： パラグラフ・ライティングの実践	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (6h)
OL のみ		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第 7 週	(第 12・13 講／橋本純次) アカデミック・プレゼンテーション の基礎と実践：研究内容を伝えるコミュニケーション	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (5h)
OL のみ		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)

第 8 週	(第 14・15 講／富井久義) 研究計画と研究倫理： 調査依頼状にあらわれるリサーチ・デザインと調査倫理	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h)				
OL のみ		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内課題のブラッシュアップ (2h)				
授業の進め方と方法							
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行する。併せて、アカデミックな方法論を履修者全体に内在化する観点から、いくつかのテーマでは課題へのフィードバックを全体で共有しながら授業を進める。							
教科書・参考書							
参考書として以下 3 点を挙げる。履修者の状況に応じていずれかを手元に置くことが望ましい。 ● 戸田山和久 (2022)『最新版 論文の教室』, NHK 出版. ● 鹿島茂 (2003)『勝つための論文の書き方』, 文藝春秋. ● ウェイン・ブース (2018)『リサーチの技法』, ソシム.							
評価方法							
① 毎回の授業でのディスカッションへの貢献とコメントペーパーの提出 ② 各回で課せられる課題の提出 ③ 最終課題の提出 以上, ① (40%), ② (30%), ③ (30%) の総合評価により判定する。							
その他の重要事項							
論文等, アカデミックな文章の執筆経験がない学生のほか, そうした技術を改めて習得したいと考える学生に履修を推奨する。各教員のオフィスアワーおよび予約の方法については初回の授業で説明する。 本授業はすべての回をオンラインで実施する。							
2025 年度以前の科目との読み替え							
● 実践研究法 I (基礎科目・SDPA1107L)							
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥	
	－	○	－	○	－	－	

授業名称	質的データ分析			科目区分	社会構想実践科目
授業テーマ	言葉から“本質”を掴む技術			科目コード	SDPF1502S
担当教員	橋本 純次	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	金 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者に質的研究（一般的に数値化が難しい情報を収集・分析する研究）の理論的基盤と、具体的なデータ収集・分析の方法を実践的に修得する機会を提供することにある。併せて、質的研究を用いて執筆された先行研究を精読し、それらに基づく議論を行うなかで、研究目的と研究方法の対応関係を適切に整理するために必要な知見を提供する。本授業ではデータ収集の方法としてインタビュー・ライフヒストリー・エスノグラフィー・参加型アクションリサーチを、データ分析の方法として KJ 法・SCAT・M-GTA を主に扱うが、これら以外の質的研究方法に関する相談も随時受け付ける。

本授業は、質的研究による研究成果報告書・専門職学位論文・社会構想報告書を執筆したいと考える院生のほか、今後のキャリア・さらなる学びのために質的研究について網羅的に学びたいと考えるすべての院生による履修を歓迎する。

到達目標

- ① 履修者が、質的研究を用いることが効果的な場面について説明できるようになる。
- ② 履修者が、質的データを収集・分析するための具体的な方法について説明できるようになる。
- ③ 履修者が、質的調査を設計できるようになる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 質的データ分析とはなにか／どのような場面で効果を発揮するのか	事前	シラバスの精読 (1h) 授業での質問事項の検討 (1h)
OL のみ		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第 2 週	(第 2・3 講) 質的研究の理論と実践： 客観性・ポジショナリティ・倫理的課題	事前	授業資料の確認 (1h)
OL のみ		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第 3 週	(第 4・5 講) 質的データの収集方法 (1)： インタビュー調査の理論と実践	事前	授業資料の確認 (1h)
OL のみ		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第 4 週	(第 6・7 講) 質的データの収集方法 (2)：ライフヒストリー・ エスノグラフィー・参加型アクションリサーチ	事前	授業資料の確認 (1h)
OL のみ		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第 5 週	(第 8・9 講) 質的データの分析方法 (1)： オープン・コーディングと KJ 法の実践を中心に	事前	授業資料の確認 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
OL のみ		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
第 6 週	(第 10・11 講) 質的データの分析方法 (2)：SCAT と修正版 グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践を中心に	事前	授業資料の確認 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
OL のみ		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h) 最終課題の作成 (2h)
第 7 週	(第 12・13 講) 質的研究による研究論文を読む：	事前	授業資料の確認 (1h) 指定された文献の精読 (6h)

OLのみ	目的と方法の対応関係を中心に	事後	コメントペーパーの提出（1h） ディスカッションの復習（2h） 最終課題の作成（3h）			
第8週	（第14・15講）質的研究のデザイン：研究の目的・データの 収集方法・データの分析方法を対応させるために	事前	授業資料の確認（1h）			
OLのみ		事後	コメントペーパーの提出（1h） 最終課題の完成（12h）			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションおよび調査・分析の疑似体験を中心に進行する。また、一部の授業回では質的研究に係る論文を精読し、どのような研究において質的研究が用いられるか実践的に学ぶ機会を提供する。						
教科書・参考書						
教科書は指定しない。 参考書：武田丈（2015）『参加型アクションリサーチ（CBPR）の理論と実践：社会変革のための研究方法論』，世界思想社。 ウド・クカーツ（2018）『質的テキスト分析法：基本原理・分析技法・ソフトウェア』，新曜社。 プシュカラ・プラサド（2018）『質的研究のための理論入門：ポスト実証主義の諸系譜』，ナカニシヤ出版。 サトウタツヤほか（2019）『質的研究法マッピング 特徴をつかみ、活用するために』，新曜社。 ジョン・W・クレスウェルほか（2022）『質的研究をはじめのための30の基礎スキル：おさえておきたい実践の手引き』，新曜社。						
評価方法						
① 毎回の授業での議論への貢献とミニットペーパーの提出 ② 最終課題の提出 以上、①（40%）、②（60%）の総合評価により判定する。 ※個人プレゼンテーションに出席できない場合は、別日で調整する。						
その他の重要事項						
本授業では授業時間内に具体的なデータ分析の作業を行うことから、出席にあたってはタブレットやスマートフォンではなく、wordとexcelのインストールされたPCを用意すること。 担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。						
2025年度以前の科目との読み替え						
● 実践研究法Ⅱ（基礎科目・SDPA1108S）						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	－	○	－	○	－	－

授業名称	データ・サイエンス			科目区分	社会構想探究科目
授業テーマ	数字から社会の「物語」を読む			科目コード	SDPF1503S
担当教員	オムニバス	実施方法	2 単位	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	火 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、これまで統計やプログラミングに触れた経験がない、具体的には、データ取得や調査分析の経験がなく、数学・統計学の知識が十分ではない、かつプログラミング未経験の受講者を対象に、データサイエンスと AI を「理解し、使い、説明できる」ための基礎力を体系的に身につけることある。

授業では、数字や数式への苦手意識があっても、データに基づく意思決定や改善提案を行うための共通言語と実践感覚の獲得を目指す。

到達目標

- ① 履修者がデータ収集（調査設計）から加工、記述・可視化による状況把握、生成 AI を用いたデータ分析用 Python コードの作成・実行、推測統計に基づく根拠ある解釈、倫理的配慮、さらに AI（分類・回帰・自然言語）の基本的な考え方と実装の入口までの知識を獲得する。
- ② 履修者がデータに基づく意思決定や改善提案を行うための共通言語と実践感覚を獲得する。
- ③ 履修者が量的調査・研究を行う上で、最低限必要となる知識を獲得する。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション (本授業の目的・到達点・授業の進め方、量的調査・研究の全体像把握)	事前	シラバスの精読 (1h) 到達目標についての自己設定 (1h)
対面有		事後	リフレクション (2h)
第 2 週	(第 2・3 講) データの取得と調査法 (非構造化・半構造化・構造化インタビュー, アンケート) ならびに統計 (記述と推測) の概要理解	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備 (4h)
対面有		事後	リフレクション (2h)
第 3 週	(第 4・5 講) AI・プログラミング基礎Ⅰ: AI の基礎概念 (人工知能・機械学習・深層学習の違い), Python 環境の確認と基本文法の演習, データの読み込み・整形・可視化	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備 (4h)
対面有		事後	リフレクション (2h)
第 4 週	(第 6・7 講) AI・プログラミング基礎Ⅱ: 機械学習モデルの基礎 (分類と回帰の違い), 簡単な分類モデルの実装演習 (Titanic 生存予測), AI 活用の可能性と課題	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備 (4h)
対面有		事後	リフレクション (2h)
第 5 週	(第 8・9 講) データ・AI 活用の留意事項: データ・AI を扱う上での注意点, 守るべき事項	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備 (4h)
対面有		事後	リフレクション (2h)
第 6 週	(第 10・11 講) データリテラシーⅠ: データの取り扱いと加工, 計算手順の確認による再現可能性	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備 (4h)
対面有		事後	リフレクション (2h)
第 7 週	(第 12・13 講) データリテラシーⅡ:	事前	本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備 (4h)

対面有	表やグラフによる可視化と要約，研究デザイン理解	事後	リフレクション（2h）			
第 8 週	（第 14・15 講）データリテラシーⅢ： 推測統計の理解（比較と関係）	事前	本週の内容に関する学習（2h） 発表準備（4h）			
対面有		事後	リフレクション（2h）			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は授業範囲の内容を各自が事前学習することが求められる。また、第 2－8 週の授業では、受講者が持ち回りで授業範囲について発表を行い、全参加者でディスカッションを行う。また、各自、授業についてのリフレクションを行い、授業終了後に提出する。 なお、各回の講義内容については、受講者の既有知識や社会の情勢変化に対応して変更することがある。						
教科書・参考書						
【教科書】特に指定しない。 【参考書】 ● 白井裕浩（2017）『統計嫌いのための心理統計の本』，創元社. ● 栗原伸一・丸山敦史（2017）『統計学図鑑』，オーム社.						
評価方法						
● 第 2 週～8 週の授業での発表資料準備とその資料を用いた発表（30％） ● 第 2 週～8 週の授業でのディスカッションへ参加や発言内容などの貢献度（30％） ● 第 2 週～8 週の授業終了後のリフレクション（40％）						
その他の重要事項						
● 毎回の授業で、次回の授業範囲と発表担当者を伝達するので、各自予習し、発表担当者は発表準備をすること。 ● 本授業の各回講義を欠席する場合は、Teams 等を通じて事前に連絡すること。 ● 担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● 新設・基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	－	○	－	○	－	－

授業名称	マーケティング・リサーチ			科目区分	社会構想実践科目
授業テーマ	“顧客の声”を科学する			科目コード	SDPF2504S
担当教員	佐藤 達郎	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	水 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、マーケティング・リサーチの基礎に当たる諸理論を学びながら、マーケティング・リサーチとは、いったい何のために実施し、何に寄与するのかについて、実務的な観点から紐解いて行くことにある。議論に当たってエビデンス・ベース / ファクト・ベースを重視する姿勢は、アカデミックな研究の世界だけではなく、ビジネス界でも今や広く行きわたっている。15 回の授業を通じて、諸理論に言及しながらも、何よりもこうした“マーケティング・リサーチ・センス”を履修者の皆さんにはお伝えして行きたい。

到達目標

- ① 履修者が、マーケティング・リサーチの代表的な理論を説明できるようになる。
- ② 履修者が、様々な事例について背後にあるマーケティング・リサーチ結果を理解・把握できるようになる。
- ③ 履修者が、自身の分野で、マーケティング・リサーチを活用して課題解決を図れるようになる。

授業計画			授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) ガイダンス (マーケティング・リサーチとは何か？ この講義の狙いと概要について)	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問項目の検討 (0.5h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 2 週	(第 2・3 講) マーケティング・リサーチの進め方 / 定量調査と定性調査の使い分け	事前	本週の内容に関する学習 (2h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 3 週	(第 4・5 講) 定性調査① / インタビュー調査を中心に	事前	本週の内容に関する学習 (2h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 4 週	(第 6・7 講) 定量調査 / 質問紙調査を中心に	事前	本週の内容に関する学習 (2h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 5 週	(第 8・9 講) データ分析 / クラスター分析を中心に	事前	本週の内容に関する学習 (2h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 6 週	(第 10・11 講) 定性調査② / フィールドワークを中心に	事前	本週の内容に関する学習 (2h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 7 週	(第 12・13 講) 講師自身による調査の具体例	事前	本週の内容に関する学習 (2h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)	
第 8 週	(第 14・15 講) 総括 / マーケティング・リサーチを自身の 課題にどう活かすか？	事前	本週の内容に関する学習 (8h)	
対面有		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h) 最終レポート課題 (15h)	

授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、講義とディスカッションを中心に進行する。具体的には、ベーシックな理論を担当教員から履修者に紹介する偶数回と、その理論に関連する各自の経験や考察を元にディスカッションする奇数回という構成で進める予定である。						
教科書・参考書						
教科書は特に指定しない。下記の参考図書の他にも、担当教員がその都度、資料や参考図書を提示する場合がある。 ● 多田実・多田伶（2025）『事例で学ぶ マーケティング・リサーチ ～定性・定量調査の理論と実践～』，オーム社.						
評価方法						
① 毎回の授業でのディスカッションへの参加とコメントペーパーの提出 ② 最終レポート課題 以上、①（50%）と②（50%）の総合評価により判定する。						
その他の重要事項						
担当教員のオフィスアワーについては、初回の授業で説明する。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● 新設・基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	－	－	○	○	－	－

授業名称	ライティング・エディティング			科目区分	社会構想実践科目
授業テーマ	伝わる文章の「設計図」			科目コード	SDPF2505S
担当教員	上岡 典彦	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	月 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択
授業の目的					
本授業の目的は、ライティングとエディティングの理論と基本を理解することにより、パブリックリレーションズに携わるビジネスパーソンにとって必要な「より正確に」「より強く・深く」表現する文章力を養うことと、書いた文章を「より効果的に」伝えるためのエディティングスキルを身に付けることにある。名文とされるエッセイ、新聞記事などの分析を通じて文章の構造を理解し、著名な雑誌、映像作品等の分析を通じて編集のポイントを学ぶ。それを踏まえて、履修者によるリリース作成と広報資料編集の実践を行う。またゲスト講師として記者（ライター）、編集者を招き、彼らが仕事で重視していることに関するディスカッションを通じて授業内容の深掘りを行う。					
到達目標					
① 履修者がライティングとエディティングの理論と基本を理解できるようになる。 ② 履修者がリリースや広報資料を作成する際に「より良く伝わる文章」を書くことができるようになる。 ③ 履修者が広報誌や動画編集を行う際に「より効果的に伝わる編集」ができるようになる。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション (本授業の目的・到達点・進め方の説明) / PR パーソンにとって必要なライティング・エディティングとは (履修者それぞれが考えることの共有)			事前	シラバスの精読(1h),本講義に期待すること・質問事項のまとめ(1h)
対面有				事後	コメントペーパー提出(1h),講義・ディスカッション内容の復習(2h)
第 2 週	(第 2 講) ライティングの理論・基本			事前	前回授業の復習(1h),ディスカッションの準備(2h)
対面有	(第 3 講) 名文とされるエッセイ、記事の分析			事後	コメントペーパー提出(1h),ディスカッションの復習 (2h)
第 3 週	(第 4 講) 履修者各々が良いと考えるリリースの発表			事前	リリースの選定(3h)
対面有	(第 5 講) 履修者によるリリース (コーポレートテーマ) 作成の実践			事後	コメントペーパー提出 (1h),ディスカッションの復習 (2h),リリースの見直し (2h)
第 4 週	(第 6 講) 作成したリリースの発表、論評			事前	前回授業の復習(1h),ディスカッションの準備(2h)
対面有	(第 7 講) 履修者によるリリース (プロダクトテーマ) 作成の実践			事後	コメントペーパー提出 (1h),ディスカッションの復習 (2h),リリースの見直し (2h)
第 5 週	(第 8 講) 作成したリリースの発表、論評			事前	前回授業の復習(1h),ディスカッションの準備(2h)
対面有	(第 9 講) 記者 (ライター) とのディスカッション			事後	コメントペーパー提出 (1h),ディスカッションの復習 (2h)
第 6 週	(第 10 講) エディティングの理論・基本			事前	前回授業の復習(1h),ディスカッションの準備(2h)
対面有	(第 11 講) 編集作品 (雑誌・書籍) の分析			事後	コメントペーパー提出 (1h),ディスカッションの復習 (2h)
第 7 週	(第 12 講) 編集作品 (映像・動画) の分析			事前	前回授業の復習(1h),ディスカッションの準備(1h)

対面有	(第 13 講) 編集者とのディスカッション	事後	コメントペーパー提出 (1h) ,ディスカッションの復習 (2h)			
第 8 週	(第 14・15 講) ライティング・エディティングのポイントについての総合ディスカッションとまとめ	事前	前回授業の復習(1h),ディスカッションの準備(2h)			
対面有		事後	コメントペーパー提出 (1h) ,ディスカッションの復習 (2h) ,最終レポート課題 (10h)			
授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッション、そして実践を中心に進行する。 また履修者は、学んだ内容が自らの実務にどう活かせるか、といった事柄についてコメントペーパーに記入し、毎回の授業後に提出する。						
教科書・参考書						
教科書は指定しない。 参考書：竹内政明（2013）『「編集手帳」の文章術』，文藝春秋。 高橋廣敏（2020）『伝わる 文章の基本』,総合法令出版。 近藤康太郎（2024）『文章は起承転結』，フォレスト出版。 松岡正剛（2000）『知の編集術』，講談社現代新書。 ピーター・エルボウ（2024）『自分の「声」で書く技術』,英知出版。 佐々木紀彦（2019）『編集思考』,ニュースピックス。 奈良正哉（2020）『ビジネス文章力の基本』,日本実業出版社。 唐木元（2015）『新しい文章力の教室』,インプレス。 大西寿男（2025）『みんなの校正教室』,創元社。 日本エディタースクール（2012）『原稿編集ルールブック 第 2 版』,日本エディタースクール出版部						
評価方法						
① 毎回の授業での議論への参加とコメントペーパーの提出 ② 最終レポート課題 以上、①（50%）、②（50%）の総合評価により判定する。						
その他の重要事項						
担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● 新設・基礎科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	－	－	－	○	－	○

授業名称	地域プロジェクトマネージャーの理論と実践			科目区分	社会構想実践科目
授業テーマ	政策構想実践・リアルな地域課題に挑む			科目コード	SDPF1506S
担当教員	オムニバス	実施方法	ハイフレックス	単位数	4 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	前期・後期	曜日	火 A・火 B 他
年間開講数	2 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

急速な人口減少や少子高齢化などに伴い、地方の衰退に歯止めをかけるための地域課題の解決や地域活性化の取り組みは急務となっている。そしてそれらを実行できる人材の確保は今最も重要な課題の一つである。

本授業では、総務省が令和 3（2021）年度から設けた『地域プロジェクトマネージャー』の任用制度に合わせ、地域のプロジェクトを牽引できる「ブリッジ人材」の輩出を目指している。地域で重要なプロジェクトを実施する際には、行政や民間企業、地域住民、外部専門人材など様々な主体が連携して進めていく必要がある。しかし、それらを橋渡ししながらプロジェクトを推進する「ブリッジ人材」が圧倒的に不足しているのが現状である。本授業では、地方自治体の仕組みや考え方、行政と民間の違い、地域住民と外部人材の発想・考え方の違い、都市圏と地方圏の性質などを学ぶとともに、豊富な事例をもとにした実践的なスキルやノウハウを習得する。

到達目標

- ① 履修生が、地方創生の事例から現場志向を学び説明できるようになる。
- ② 履修者が、地方自治体の独特の仕組み、ルール、組織、慣習、思考、予算管理などを理解する。
- ③ 履修者が、公民共創プロジェクトの組成の仕方、運営、資金調達など成功への道筋がわかる。
- ④ 履修者が、実際の政策展開を知ること、分析や実現の能力を高められるようになる「行政視点」で、地方自治体の仕組みや考え方、地域活性化や産官学連携の方法や事例を理解することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション	事前	資料の事前読み込み (1h)
対面有	(第 2 講) 地方創生の理論と実践①	事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出 (1h)
第 2 週	(第 3 講) フィールド自治体の紹介①	事前	資料の事前読み込み (1h)
OL のみ	(第 4 講) フィールド自治体の紹介②	事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第 3 週	(第 5 講) 地方創生の理論と実践②	事前	資料の事前読み込み (1h)
OL のみ	(第 6 講) 地方創生の理論と実践③	事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第 4 週	(第 7 講) 地方自治体の制度① (地方自治の意義・仕組み)	事前	資料の事前読み込み (1h)
OL のみ	(第 8 講) 地方自治体の制度② (地方自治の意義・仕組み)	事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第 5 週	(第 9 講) 地域振興の理論と実践①	事前	資料の事前読み込み (1h)
OL のみ	(第 10 講) 地域振興の理論と実践②	事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第 6 週	(第 11 講) 地域振興の理論と実践③	事前	資料の事前読み込み (1h)

OLのみ	(第12講) 地域振興の理論と実践④	事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第7週	(第13講) 地方自治体の制度③ (議会の仕組み・対応)	事前	資料の事前読み込み (1h)
OLのみ	(第14講) 地方自治体の制度④ (議会の仕組み・対応)	事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第8週	(第15講) 地域創生とEBPM①	事前	資料の事前読み込み (1h)
OLのみ	(第16講) 地域創生とEBPM②	事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第9週	(第17講) 地域課題解決に資する事業構想の基礎①	事前	資料の事前読み込み (1h)
OLのみ	(第18講) 地域課題解決に資する事業構想の基礎②	事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第10週	(第19・20講) 中間発表および講評①	事前	資料の事前読み込み、中間発表の準備 (11h)
対面有		事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第11週	(第21・22講) 中間発表および講評②	事前	資料の事前読み込み (1h)
対面有		事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討、中間発表のふりかえり (13h)
第12週	(第23講) 地方自治体の制度⑤ (財政の仕組み・考え方)	事前	資料の事前読み込み (1h)
OLのみ	(第24講) 地方自治体の制度⑥ (財政の仕組み・考え方)	事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第13週	(第25講) 地域振興の理論と実践⑤	事前	資料の事前読み込み (1h)
OLのみ	(第26講) 地域振興の理論と実践⑥	事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第14週	(第27・28講) 地域プロジェクトマネージャーの実例と経験談	事前	資料の事前読み込み (1h)
OLのみ		事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第15週	(第29講) 公民共創の事例と方法論①	事前	資料の事前読み込み (1h)
OLのみ	(第30講) 公民共創の事例と方法論②	事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第16週	(第31講) 地域活性化と事業構想・事例①	事前	資料の事前読み込み (1h)
OLのみ	(第32講) 地域活性化と事業構想・事例②	事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第17週	(第33講) 地域プロジェクトマネジメントの実践例①	事前	資料の事前読み込み (1h)
OLのみ	(第34講) 地域プロジェクトマネジメントの実践例②	事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第18週	(第35・36講) 最終プレゼンテーション予行演習	事前	資料の事前読み込み、最終プレゼンテーション準備 (11h)
OLのみ		事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第19週	(第37・38講) 政策提言の最終発表会①	事前	資料の事前読み込み、最終プレゼンテーション準備 (11h)
対面有		事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、政策提言案の検討 (3h)
第20週	(第39・40講) 政策提言の最終発表会②	事前	資料の事前読み込み (1h)

対面有		事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、最終発表ふりかえり（5h）
授業の進め方と方法			
本授業は、地方自治体の現役職員や経験者、地域活性化や産官学連携を実践する専門家などを講師とし、通常学習する機会が少ない「行政視点」を多く取り入れながら、地方自治体の仕組みや考え方、地域活性化や産官学連携の方法や事例などについて、リアルかつ現在進行形の知識やノウハウを提供する講義形式の授業と、地方自治体の首長に対してスライドをもちいて政策提言をおこなう演習形式の授業を組み合わせで展開する。 講義形式の授業については、双方向型の授業を旨とし、講師による講義と意見交換（ディスカッション）を組み合わせで進める。また、実際に地方創生に携わっている当事者をゲスト講師として招く。 演習形式の授業については、2組織以上の地方自治体からテーマ（課題）を提示していただき（第2週）、最終的に履修者が直接、市長、副市長等に対して政策提言をおこなう形式をとる（第19・20週）。希望者を対象に、情報交換やプレゼンの練習等に活用することのできる「ゼミ」を、政策提言自治体ごとに講義外で開講する。任意参加のフィールドワークをおこなう可能性もある。 毎週の事後学習として、感想や質問を記すコメントペーパーの提出を求める。 また本授業は、先端教育研究所が開設する「地域プロジェクトマネージャー養成課程」と同時開講の授業である。授業実施日が変則的で（5月上旬から9月下旬／11月上旬から3月下旬）、A週・B週連続で開講すること、時間割記載以外の日程で授業を実施する場合があること、授業計画が入れ替わる可能性があることから、履修にあたっては、「地域プロジェクトマネージャー養成課程 研究生募集要項」やMicrosoft Teams上の案内も参照すること。			
教科書・参考書			
【教科書】指定しない 【参考書】 ● 牧瀬稔，2021，『地域づくりのヒント——地域創生を進めるためのガイドブック』社会情報大学院大学出版部。 ● 河村昌美・中川悦宏，2020，『公民共創の教科書』事業構想大学院大学出版部。			
評価方法			
● コメントペーパーの内容 40% ● フィールド自治体への政策提言書の内容 60%			
その他の重要事項			
● 授業時間外での相談方法については、第1週の授業や事前配布資料において説明する。 ● 政策提言の最終発表会は、当日出席が難しい場合でも、事前の発表動画提出以外の代替策を講じることが難しいため、あらかじめ担当教員に相談するか、Microsoft Teams上の案内にしたがうこと。 ● 「地域プロジェクトマネージャー養成課程」ならびに「地域プロジェクトマネージャー養成課程 研究生募集要項」は次のURLから確認することができる。 https://www.socialdesign.ac.jp/lab/lpmlp ● 履修希望者多数のばあい、履修制限をおこなうことがある。			
2025年度以前の科目との読み替え			

● グランドデザイン構想実践（SDPD1411S・社会構想探究科目）

● 社会起業構想実践（SDPD1412S・社会構想探究科目）

＊旧科目履修済みの場合でも、社会構想探究科目の別科目として履修可。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	－	－	○	○	○	○

授業名称	経営構想実践			科目区分	社会構想探究科目
授業テーマ	事業を構想し、カタチにする			科目コード	SDPF1507S
担当教員	河村昌美・ 下平拓哉	実施方法	ハイフレックス	単位数	4 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	通年	曜日	土 B (3・4 限)
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択
授業の目的					
本科目は、社会構想研究科における「社会構想実践科目」の一環として、企業経営・行政経営・地域経営の 3 つの経営領域の視点を横断的に学び、それぞれの特性と共通性を理解しながら、社会課題解決に資する実践的な経営構想力や政策・事業構想力を養うことを目的とする。 急激な変化が進む現代社会においては、企業だけではなく様々な主体が、自己の活動領域に留まらない一層統合的な視点から人間中心の価値創造を見据えて自らの未来をデザインし、内部・外部環境とともに変化しながら活動していく「経営をデザインすること」が求められていく。そのため、主にデザイン経営の視点を基軸に、グランドデザインやソーシャルデザイン、ビジネスデザインの思考法や手法を取り入れた講義とする。 演習として、長野県内の地方自治体（予定）を実践フィールドとして、実際の地域における課題の構造化、解決策検討、社会実装可能な政策・事業構想計画を作成し自治体に提案するまでの一連のプロセスを実践する。 2 回の現地フィールドリサーチ（予定）と自治体への最終提案を通じて、理論と実践を融合させた各種構想力を身につけ、2 年次の専門的な社会構想研究へと接続する土台を築く。					
到達目標					
① 経営領域横断的な分析力と構想力 履修者が、企業経営・行政経営・地域経営の特性と相違点を理解し、地方自治体をフィールドとした実践を通じて、各領域における経営課題を社会科学的な視点から分析・構造化できる。さらに、領域を横断した統合的なグランドデザイン・ソーシャルデザインを踏まえた経営構想を描く基礎力を身につけることができる。 ② デザイン思考・デザイン経営などに基づく課題解決力と構想力 履修者が、デザイン経営の思考法を活用し、地域のステークホルダーの視点を踏まえ革新的かつ実現可能な政策・事業構想を提案できる力を養うことができる。 ③ 実践的なフィールドリサーチ力とプレゼンテーション力 現地調査を通じて地域資源の発掘と課題の構造化を行い、調査・分析・構想・提案という一連のプロセスをチームで協働しながら遂行し、自治体や地域ステークホルダーに対して説得力のある提案ができる実践力を修得することができる。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 前期オリエンテーション			事前	シラバス及び授業資料の確認 (1h)
対面有	本授業の進め方、1 年間のスケジュール、到達目標等の確認			事後	授業内容の復習 (1h)
第 2 週	(第 2 講) 連携自治体プレゼンテーション・質疑			事前	プログレスレポートの執筆 (1h)
対面有	(第 3 講) 企業・行政・地域経営の知識			事後	自治体リサーチ・取り組み課題検討 (7h)

第3週	(第4講) グランドデザインとは何か	事前	プロGRESSレポートの執筆 (1h)
対面有	(第5講) デザイン思考・経営の基礎とフレームワーク	事後	リサーチワーク (6h)
第4週	(第6講) ソーシャルデザインとは何か	事前	プロGRESSレポートの執筆 (1h)
対面有	(第7講) フィールドワーク・リサーチの知識と手法	事後	フィールドリサーチ準備 (6h)
第5週	(第8講) ～ (第9講) 連携自治体へのフィールドリサーチ	事前	プロGRESSレポートの執筆 (1h)
対面有		事後	フィールドリサーチ結果まとめ (8h)
第6週	(第10講) フィールドリサーチでの気づき共有と討議	事前	プロGRESSレポートの執筆 (1h)
対面有	(第11講) フィールドリサーチを踏まえた各自の構想の発表	事後	リサーチワーク (6h)
第7週	(第12講) ヒューマンデザインとは何か	事前	プロGRESSレポートの執筆 (1h)
対面有	(第13講) 経営デザインシートの演習と作成	事後	リサーチワーク (6h)
第8週	(第14講) ～ (第15講) 夏季課題の各自テーマ共有・討議	事前	プロGRESSレポートの執筆 (1h)
対面有	※ 夏季課題 (予定): 経営デザインシート及びそれを踏まえた政策・事業構想案の調査・検討	事後	夏季課題ワーク (12h)
第9週	(第16講) 後期オリエンテーション	事前	シラバス及び授業資料の確認 (1h)
対面有	夏季課題の共有及び今後の進め方確認	事後	授業内容の復習 (1h)
第10週	(第17講) ビジネスモデルデザインの知識①	事前	プロGRESSレポートの執筆 (1h)
対面有	(第18講) ビジネスモデルデザインの知識②	事後	リサーチワーク (6h)
第11週	(第19講) 未来のまちづくり・ひとづくりなど	事前	プロGRESSレポートの執筆 (1h)
対面有	(第20講) フィールドリサーチで確認する事項の共有・討議	事後	フィールドリサーチ準備 (6h)
第12週	(第21講) ～ (第22講) 連携自治体へのフィールドリサーチ	事前	プロGRESSレポートの執筆 (1h)
対面有		事後	フィールドリサーチ結果まとめ (6h)
第13週	(第23講) ～ (第24講) 各自の構想について発表と討議	事前	プロGRESSレポートの執筆 (1h)
対面有		事後	構想計画作成・修正 (8h)
第14週	(第25講) ～ (第26講) 各自の構想について発表と討議	事前	プロGRESSレポートの執筆 (1h)
対面有		事後	構想計画作成・修正 (8h)
第15週	(第27講) ～ (第28講)	事前	発表資料作成 (10h)
対面有	連携自治体への政策・事業構想提案	事後	自治体からの講評に対する振り返り (5h)
第16週	(第29講) ～ (第30講)	事前	1年間の振り返り整理 (2h)
対面有	1年間の学びのまとめと振り返り	事後	1年間の学びの復習 (2h)

授業の進め方と方法						
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義部分と各履修者の個人構想検討・リサーチ・作成という演習部分の組み合わせとなり、演習部分においては教員・研究員の討議及び進捗管理と助言指導が中心となる。授業ごとに各授業の内容や構想進捗等に関するプロGRESSレポート（A4 サイズ 1～2 枚）を作成・提出することを求める。 なお、フィールドリサーチは連携自治体現地に訪問することとなる。						
教科書・参考書						
【教科書】指定しない。 【参考書】 ● 内閣府「経営をデザインする」WEB ページ上の各種資料。 ● Christian Bason (2017) <i>Leading Public Design: Discovering Human-Centred Governance</i>, Policy Press. ● ジョン・アーリ (2019) 『＜未来像＞の未来：未来の予測と創造の社会学』、作品社。 ● ドン・ノーマン (2023) 『より良い世界のためのデザイン：意味、持続可能性、人間性中心』、新曜社。 ● ロバート・ウォールディンガー (2023) 『グッド・ライフ』、辰巳出版。 ※この他は講義中に適宜指示する。						
評価方法						
主に自治体に提案する最終的な構想計画書の内容につき評価する。 ① 構想の内容（60%） ② プロGRESSレポート（20%） ③ 講義中の参加態度・討議内容（20%）						
その他の重要事項						
【オフィスアワーの予約方法】 事前に Microsoft Teams のチャットで教員に直接連絡を取り、日程や相談内容を調整すること。 【フィールドリサーチ】 リサーチ先自治体との調整により、実施時期は前後する可能性があり、通常の講義日時とは異なる可能性もある。なお、自治体との各種調整は教員による事前調整の後は履修生が中心となり協力して行うこととする。						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● グランドデザイン構想実践（SDPD1411S・社会構想探究科目） ● 社会起業構想実践（SDPD1412S・社会構想探究科目）						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	—	—	○	○	○	○

授業名称	社会教育演習			科目区分	社会構想実践科目
授業テーマ	市民社会構想実践・市民が主役の社会をつくる			科目コード	SDPF1508S
担当教員	荒木 貴之	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	木 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、文献講読、シンポジウム参加、実地調査、プレゼンテーション、レポート作成等を通じて、地域社会やさまざまなコミュニティで行われている「人づくり・つながりづくり・地域づくり」に関する社会教育実践の性格と背景を客観的に把握し、あわせて現実的な提言を行うことを通して、社会教育人材に求められる社会教育の実践能力の育成を図る。

本授業は、「社会教育主事講習等規程（昭和二六年文部省令第一二号）」にある「社会教育演習」の授業に相当以上の科目である。

到達目標

- ① 履修者が、社会教育施設、社会教育行政と関連する制度、社会教育をめぐる連携のあり方に関して、社会教育人材に求められる基本的な視点と知識を得ることができる。
- ② 履修者が、社会教育人材としての視点と知識を生かして、自治体が企画実施する実際の社会教育事業に対して、客観的把握と実践的提言を行うことができる。
- ③ 履修者が、社会教育事業を構想し、実現することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 社会教育人材 (社会教育主事及び社会教育士、学芸員、司書等) の職務と求められる役割の実際	事前	社会教育施設の体系と各種施設の役割に関するリサーチワーク (3h)
対面有		事後	社会教育施設の現状と課題に関する検討と相互レビュー (2h)
第 2 週	(第 2 講) 事業計画立案の実際 1 (演習) (第 3 講) 事業計画立案の実際 2 (演習) モデル自治体や社会教育施設における社会教育に関する現状を把握し、学習課題を抽出する。	事前	モデル自治体 (社会教育施設) の総合教育計画や年間事業計画に関するリサーチワーク (3h)
対面有		事後	モデル自治体 (社会教育施設) の学習課題の検討と相互レビュー (2h)
第 3 週	(第 4 講) 事業計画立案の実際 3 (演習) (第 5 講) 事業計画立案の実際 4 (演習) モデル自治体や社会教育施設における社会教育に関する事業計画を検討し、立案する。	事前	モデル自治体 (社会教育施設) の社会教育計画に関するリサーチワーク (3h)
対面有		事後	モデル自治体 (社会教育施設) の社会教育に関する事業計画の検討と相互レビュー (2h)
第 4 週	(第 6 講) 予算・調達の実際 1 (演習) (第 7 講) 予算・調達の実際 2 (演習) モデル自治体や社会教育施設における社会教育に関する「ヒト・モノ・カネ」の調達計画を検討し、立案する。	事前	ふるさと納税やクラウドファンディングの現状と課題に関するリサーチワーク (3h)
対面有		事後	「ヒト・モノ・カネ」の調達計画の検討と相互レビュー (2h)
第 5 週	(第 8 講) ゲスト講義 1 (第 9 講) ゲスト講義 2	事前	モデル自治体が定めた地域総合計画に関するリサーチワーク (3h)

対面有	モデル自治体において、社会教育・生涯学習に実際にかかわっている社会教育人材をお招きし、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」に関する現状と課題を把握する。	事後	モデル自治体の「人づくり・つながりづくり・地域づくり」に関する現状と課題に関する相互レビュー（2h）				
第6週	（第10講）事業計画広報の実際1（演習） （第11講）事業計画広報の実際2（演習）	事前	モデル自治体（社会教育施設）が行う社会教育の広報活動に関するリサーチワーク（3h）				
対面有	モデル自治体や社会教育施設における社会教育に関する広報計画を検討し、プレゼンテーションを行う。	事後	プレゼンテーションの検討と相互レビュー（2h）				
第7週	（第12講）自治体（社会教育施設）への提言1（演習） （第13講）自治体（社会教育施設）への提言2（演習）	事前	自治体（社会教育施設）へのプレゼンテーション作成（8h）				
対面有	モデル自治体や社会教育施設に対して、社会教育の振興に関する提言を行い、自治体職員等から評価を受ける。	事後	プレゼンテーションの成果と課題に関する相互レビュー（2h）				
第8週	（第14講）社会教育人材に求められる専門性の検討	事前	社会教育人材に求められる専門性に関するリサーチワーク（3h）				
対面有	（第15講）これからの社会教育のあり方の検討	事後	今後の社会教育のあり方に関する検討と相互レビュー（2h）				
授業の進め方と方法							
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、ワークショップやグループ討議など、アクティブ・ラーニングの手法を用いた参加型による学習を適宜行う。また、社会教育が目指す「人づくり・かかわりづくり・地域づくり」の観点から、実際の自治体で行われている社会教育の取り組みに対して、実地調査を行った上で現実的な提言を行い、自治体職員等からフィードバックを受ける。自治体等が企画するシンポジウム参加や実地調査等は、開講時期や講義の順序性に関わらず、適宜実施する。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：生涯学習・社会教育行政研究会（2025）『生涯学習・社会教育行政必携（令和8年版）』，第一法規、日本青年館公益事業部「社会教育」編集部（月刊）『社会教育』，日本青年館							
評価方法							
● 課題、リアクションペーパー、アンケート等（40%） ● プレゼンテーション及びレポート「社会教育総合計画の策定」（60%）							
その他の重要事項							
● 本授業科目は、「社会教育士養成講座」科目である。 ● オフィスアワーの予約方法：電子メールにて希望日時を調整し、研究相談を実施する。							
2025年度以前の科目との読み替え							
● グランドデザイン構想実践（SDPD1411S・社会構想探究科目） ● 社会起業構想実践（SDPD1412S・社会構想探究科目） ＊旧科目履修済みの場合でも、社会構想探究科目の別科目として履修可。							
本科目と対応するディプロマ・ポリシー		DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
		—	—	○	○	○	○

授業名称	社会構想事例研究 I			科目区分	社会構想実践科目
授業テーマ	成功事例に学ぶ「構想の型」			科目コード	SDPF1509S
担当教員	オムニバス	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	水 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、政策・経営・市民社会それぞれの領域でリーダーシップを発揮する社会構想家が、どのような条件のもと、どのような見識のもとで社会構想を組み立て、いかに社会構想を実践してきたのかについて、事例研究をおこなっていくことにある。

本授業では、各界の第一線で活躍する社会構想の実践者をゲストとして招き、ゲスト自身による事例紹介を踏まえて、討論をつうじた事例検討をおこなうことで、社会構想をめぐる実践的な思考力を養うことをめざす。

到達目標

- ① 社会構想の事例について、その構想や実践がいかにして成立しているかを理解し、説明することができる。
- ② 社会構想を体系化するための要点を理解し、説明することができる。
- ③ 社会構想を実践するための要点を理解し、説明することができる。

授業計画			授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講)	授業概要の確認・登壇予定ゲスト講師についてのガイダンス	事前	シラバスを読み自身の授業への期待を明確化する (1h)
対面有			事後	コメントペーパーの記入、授業内容の復習、予習・復習スケジュールの割当検討 (4h)
第 2 週	(第 2・3 講)	ゲスト講師による事例紹介＋討論による事例検討 1	事前	資料の事前読み込み・討論での質問内容検討 (3h)
対面有			事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出 (3h)
第 3 週	(第 4・5 講)	ゲスト講師による事例紹介＋討論による事例検討 2	事前	資料の事前読み込み・討論での質問内容検討 (3h)
対面有			事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出 (3h)
第 4 週	(第 6・7 講)	ゲスト講師による事例紹介＋討論による事例検討 3	事前	資料の事前読み込み・討論での質問内容検討 (3h)
対面有			事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出 (3h)
第 5 週	(第 8・9 講)	ゲスト講師による事例紹介＋討論による事例検討 4	事前	資料の事前読み込み・討論での質問内容検討 (3h)
対面有			事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出 (3h)
第 6 週	(第 10・11 講)	ゲスト講師による事例紹介＋討論による事例検討 5	事前	資料の事前読み込み・討論での質問内容検討 (3h)
対面有			事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出 (3h)
第 7 週	(第 12・13 講)	ゲスト講師による事例紹介＋討論による事例検討 6	事前	資料の事前読み込み・討論での質問内容検討 (3h)
対面有			事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出 (3h)
第 8 週	(第 14・15 講)	ゲスト講師による事例紹介＋討論による事例検討 7	事前	資料の事前読み込み・討論での質問内容検討 (3h)
対面有			事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、最終レポート課題の執筆 (16h)

授業の進め方と方法						
第2週から第8週の授業は、ゲスト講師による話題提供と、ゲスト講師を含む参加者全員での討論で構成され、ゲスト講師のかかわってきた社会構想の発想法、実行力、環境、成功／失敗の要因についての検討をおこなう。 毎週の授業終了時には、新たな気づき・考えの深まり・視野の広がりなどを400字程度で記すコメントペーパーの提出を求める。 このほか、任意の社会構想の事例について、すぐれている点、応用可能な点、さらなる改善の提案等を2,400字程度で論じる最終レポート課題を課す。						
教科書・参考書						
【教科書】指定しない 【参考書】適宜文献を紹介する ＊社会構想の発想法に関連する参考書 ● 井上俊ほか編，1996，『岩波講座 現代社会学 第26巻 社会構想の社会学』岩波書店。						
評価方法						
● コメントペーパーの内容 40% ● 最終レポート課題 60%						
その他の重要事項						
● ゲスト講師に対する授業時間外での質問・相談は、授業終了時にかぎって受け付ける。						
2025年度以前の科目との読み替え						
● 新設・専門科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	—	—	○	—	—	○

授業名称	社会構想事例研究Ⅱ			科目区分	社会構想実践科目
授業テーマ	失敗から学ぶ「次の一手」			科目コード	SDPF1510S
担当教員	オムニバス	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	水 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、政策・経営・市民社会それぞれの領域でリーダーシップを発揮する社会構想家が、どのような条件のもと、どのような見識のもとで社会構想を組み立て、いかに社会構想を実践してきたのかについて、事例研究をおこなっていくことにある。

本授業では、各界の第一線で活躍する社会構想の実践者をゲストとして招き、ゲスト自身による事例紹介を踏まえて、討論をつうじた事例検討をおこなうことで、社会構想をめぐる実践的な思考力を養うことをめざす。

到達目標

- ① 社会構想の事例について、その構想や実践がいかにして成立しているかを理解し、説明することができる。
- ② 社会構想を体系化するための要点を理解し、説明することができる。
- ③ 社会構想を実践するための要点を理解し、説明することができる。

授業計画			授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講)	授業概要の確認・登壇予定ゲスト講師についてのガイダンス	事前	シラバスを読み自身の授業への期待を明確化する (1h)
対面有			事後	コメントペーパーの記入、授業内容の復習、予習・復習スケジュールの割当検討 (4h)
第 2 週	(第 2・3 講)	ゲスト講師による事例紹介＋討論による事例検討 1	事前	資料の事前読み込み・討論での質問内容検討 (3h)
対面有			事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出 (3h)
第 3 週	(第 4・5 講)	ゲスト講師による事例紹介＋討論による事例検討 2	事前	資料の事前読み込み・討論での質問内容検討 (3h)
対面有			事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出 (3h)
第 4 週	(第 6・7 講)	ゲスト講師による事例紹介＋討論による事例検討 3	事前	資料の事前読み込み・討論での質問内容検討 (3h)
対面有			事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出 (3h)
第 5 週	(第 8・9 講)	ゲスト講師による事例紹介＋討論による事例検討 4	事前	資料の事前読み込み・討論での質問内容検討 (3h)
対面有			事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出 (3h)
第 6 週	(第 10・11 講)	ゲスト講師による事例紹介＋討論による事例検討 5	事前	資料の事前読み込み・討論での質問内容検討 (3h)
対面有			事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出 (3h)
第 7 週	(第 12・13 講)	ゲスト講師による事例紹介＋討論による事例検討 6	事前	資料の事前読み込み・討論での質問内容検討 (3h)
対面有			事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出 (3h)
第 8 週	(第 14・15 講)	ゲスト講師による事例紹介＋討論による事例検討 7	事前	資料の事前読み込み・討論での質問内容検討 (3h)
対面有			事後	授業内容の復習、コメントペーパーの提出、最終レポート課題の執筆 (16h)

授業の進め方と方法						
第2週から第8週の授業は、ゲスト講師による話題提供と、ゲスト講師を含む参加者全員での討論で構成され、ゲスト講師のかかわってきた社会構想の発想法、実行力、環境、成功／失敗の要因についての検討をおこなう。 毎週の授業終了時には、新たな気づき・考えの深まり・視野の広がりなどを400字程度で記すコメントペーパーの提出を求める。 このほか、任意の社会構想の事例について、すぐれている点、応用可能な点、さらなる改善の提案等を2,400字程度で論じる最終レポート課題を課す。						
教科書・参考書						
【教科書】指定しない 【参考書】適宜文献を紹介する ＊社会構想の発想法に関連する参考書 ● 井上俊ほか編，1996，『岩波講座 現代社会学 第26巻 社会構想の社会学』岩波書店。						
評価方法						
● コメントペーパーの内容 40% ● 最終レポート課題 60%						
その他の重要事項						
● ゲスト講師に対する授業時間外での質問・相談は、授業終了時にかぎって受け付ける。						
2025年度以前の科目との読み替え						
● 新設・専門科目として履修可						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	—	—	○	—	—	○

授業名称	社会構想研究 I			科目区分	社会構想探究科目
授業テーマ	研究の第一歩：問いを立て、テーマを探る			科目コード	SDPD1410T
担当教員	専任教員	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	時間割参照
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	必修

授業の目的

本授業の目的は、2 年次に社会構想報告書を執筆するための基盤として、社会科学的思考力・実践的な思考力・リサーチ能力・社会構想提言能力を醸成することである。

本授業では、社会構想の発想法や調査研究の手法、先行研究や先行事例の探索方法、研究倫理・コンプライアンスについての理解を深めたうえで、みずからの社会構想のテーマを深めていくための発表・討論をおこなう。

到達目標

- ① みずからの社会構想について、社会構想の発想法を理解し、テーマと問いを設定することができる。
- ② 多様な調査研究・分析手法の特性を理解し、みずからの社会構想にあった手法をもちいることができる。
- ③ 先行研究・先行事例をレビューすることの意義を理解し、実践することができる。
- ④ 研究倫理・コンプライアンスを理解し、それを遵守して調査研究・社会構想の探究をすることができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 本授業の目的・グランドルール・進め方にかんする ガイダンス	事前	シラバスおよび授業資料の確認 (1h)
対面有		事後	プログレスレポートの執筆 (2h)
第 2 週	(第 2・3 講) 入学時点における社会構想のテーマ・内容の報告	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)
対面有		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)、 リサーチワーク (3h)
第 3 週	(第 4・5 講) 研究計画の報告とディスカッション 1	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)、 プログレスレポートの執筆 (2h)
対面有		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)、 リサーチワーク (3h)
第 4 週	(第 6・7 講) 研究計画の報告とディスカッション 2	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)、 プログレスレポートの執筆 (2h)
対面有		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)、 リサーチワーク (3h)
第 5 週	(第 8・9 講) 研究計画の報告とディスカッション 3	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)、 プログレスレポートの執筆 (2h)
対面有		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)、 リサーチワーク (3h)
第 6 週	(第 10・11 講) 研究の進捗報告とディスカッション 1	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)、 プログレスレポートの執筆 (2h)
対面有		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)、 リサーチワーク (3h)
第 7 週	(第 12・13 講) 研究の進捗報告とディスカッション 2	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)、 プログレスレポートの執筆 (2h)
対面有		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)、 リサーチワーク (3h)

第 8 週	(第 14・15 講) 研究の進捗報告とディスカッション 3	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)、 プログレスレポートの執筆 (2h)			
対面有		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)、 リサーチワーク (3h)、 学期末レポート執筆 (6h)			
授業の進め方と方法						
本授業は、履修者を担当教員ごとに割り当てた複数の少人数演習形式で進める。 第 1 週から第 4 週までは、社会構想・学術研究の基本的な考え方について、具体的な事例も踏まえて解説する。そのうえで、第 5 週から第 8 週は代表的な研究手法を各分野における代表的な論文等を持ちいながら概説する。						
教科書・参考書						
【教科書】指定しない 【参考書】履修者の調査研究や構想のテーマに即して、適宜文献を紹介する。 ＊調査研究や構想を進める方法に関連する参考書 ● 荻谷剛彦・石澤麻子, 2019, 『教え学ぶ技術』筑摩書房. ● 上野千鶴子, 2018, 『情報生産者になる』筑摩書房. ● 小熊英二, 2022, 『基礎からわかる論文の書き方』講談社.						
評価方法						
● 毎時のディスカッションへの貢献 30% ● 毎時の発表内容・方法 30% ● プログレスレポート 20% ● 学期末レポート 20%						
その他の重要事項						
● 社会構想研究Ⅰと社会構想研究Ⅱは前期・後期と連続して履修し、同一時間帯の担当教員の授業に出席すること ● 各担当教員の授業実施方法、オフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、各担当教員からの案内にしたがうこと						
2025 年度以前の科目との読み替え						
● グランドデザイン構想実践 (社会構想探究科目・SDPD1411S) ● 社会起業構想実践 (社会構想探究科目・SDPD1412S)						
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
	－	○	○	○	○	－

授業名称	社会構想研究Ⅱ			科目区分	社会構想探究科目
授業テーマ	リサーチデザインを構築する			科目コード	SDPD1420T
担当教員	専任教員	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	時間割参照
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	必修

授業の目的

本授業の目的は、2 年次に社会構想報告書を執筆するための基盤として、社会科学的思考力・実践的な思考力・リサーチ能力・社会構想提言能力を醸成することである。

本授業では、社会構想の発想法や調査研究の手法、先行研究や先行事例の探索方法、研究倫理・コンプライアンスについての理解を深めたうえで、みずからの社会構想のテーマを深めていくための発表・討論をおこなう。

到達目標

- ① みずからの社会構想について、リサーチデザインを構築し、構想計画書を書くことができる。
- ② 多様な調査研究・分析手法の特性を理解し、みずからの社会構想にあった手法をもちいることができる。
- ③ 先行研究・先行事例をレビューすることの意義を理解し、実践することができる。
- ④ 研究倫理・コンプライアンスを理解し、それを遵守して調査研究・社会構想の探究をすることができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 本授業の目的・グランドルール・進め方にかんする ガイダンス	事前	シラバスおよび授業資料の確認 (1h)
対面有		事後	プログレスレポートの執筆 (2h)
第 2 週	(第 2・3 講) 研究の進捗報告とディスカッション①-1	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)
対面有		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)、 リサーチワーク (3h)
第 3 週	(第 4・5 講) 研究の進捗報告とディスカッション①-2	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)、 プログレスレポートの執筆 (2h)
対面有		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)、 リサーチワーク (3h)
第 4 週	(第 6・7 講) 研究の進捗報告とディスカッション①-3	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)、 プログレスレポートの執筆 (2h)
対面有		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)、 リサーチワーク (3h)
第 5 週	(第 8・9 講) 研究の進捗報告とディスカッション②-1	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)、 プログレスレポートの執筆 (2h)
対面有		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)、 リサーチワーク (3h)
第 6 週	(第 10・11 講) 研究の進捗報告とディスカッション②-2	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)、 プログレスレポートの執筆 (2h)
対面有		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)、 リサーチワーク (3h)
第 7 週	(第 12・13 講) 研究の進捗報告とディスカッション②-3	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)、 プログレスレポートの執筆 (2h)
対面有		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)、 リサーチワーク (3h) 構想計画書の執筆 (6h)

第 8 週	(第 14・15 講) 1 年間の学びのまとめとふりかえり・ 社会構想プロジェクト報告会準備	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)、 プログレスレポートの執筆 (2h)				
対面有		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)、 リサーチワーク (3h)、 構想計画書の執筆 (11h)				
授業の進め方と方法							
本授業は、履修者を担当教員ごとに割り当てた複数の少人数演習形式で進める。 第 1 週から第 4 週までは、各履修者が自身の関心に基づいてリサーチ・クエスションの設定からデータの収集・分析をおこなう。第 5 週から第 7 週にかけては、データの収集・分析に基づいて執筆した小論文を発表し、担当教員及び他の履修者と討論する。第 8 週は、次年度に執筆する社会構想報告書のプロットを「構想計画書」として作成・発表し、2 年次の研究計画を具体化する。 社会構想プロジェクト報告会の全時間帯への参加も求める。							
教科書・参考書							
【教科書】指定しない 【参考書】履修者の調査研究や構想のテーマに即して、適宜文献を紹介する。 * 調査研究や構想を進める方法に関連する参考書 ● 荻谷剛彦・石澤麻子, 2019, 『教え学ぶ技術』筑摩書房. ● 上野千鶴子, 2018, 『情報生産者になる』筑摩書房. ● 小熊英二, 2022, 『基礎からわかる論文の書き方』講談社.							
評価方法							
● 毎時のディスカッションへの貢献 30% ● 毎時の発表内容・方法 30% ● プログレスレポート 20% ● 構想計画書 20%							
その他の重要事項							
● 社会構想研究Ⅰと社会構想研究Ⅱは前期・後期と連続して履修し、同一時間帯の担当教員の授業に出席すること ● 各担当教員の授業実施方法、オフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、各担当教員からの案内にしたがうこと							
2025 年度以前の科目との読み替え							
● グランドデザイン構想実践 (社会構想探究科目・SDPD1411S) ● 社会起業構想実践 (社会構想探究科目・SDPD1412S)							
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥	
	－	○	○	○	○	－	

授業名称	社会構想研究Ⅲa・社会構想研究Ⅲb			科目区分	社会構想探究科目
授業テーマ	中間報告とロジックの深化			科目コード	SDPD2431T・ SDPD2432T
担当教員	各専任教員	実施方法	ハイフレックスほか	単位数	各 2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	時間割参照
年間開講数	各 1 回	授業種別	演習	授業区分	必修・選択
授業の目的					
本授業の目的は、履修者がみずから構想する社会構想について、社会科学領域の学術的な視点と調査に基づき探究し、その成果を「社会構想報告書」として学術論文の形式でまとめるにあたり、社会構想のロジックを深化させ、中間報告をおこなう準備をすることにある。 本授業では、研究計画の立案、分析枠組みとなる理論や視点の探索、調査の実施、社会構想報告書の構成の検討をおこない、その成果を、前期末におこなわれる「2 年次中間報告会」で報告する。 授業は履修者からの発表とそれに基づく討論により進行し、他者からの助言を受ける機会を提供する。					
到達目標					
① みずからの社会構想について、具体的な調査研究の計画を立て、実行に向けた準備に着手できる。 ② みずからの社会構想について、社会科学の理論や方法論等、学術的な手法を適切に援用することができる。 ③ 社会構想報告書を論理的に構成して書くための構成案を作成することができる。 ④ 他者の社会構想を内面的にとらえ、議論することができる。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 社会構想報告書執筆・授業の進め方にかんする ガイダンス			事前	これまでの研究成果のとりまとめ (3h)
対面有/OLのみ				事後	前期の研究計画の立案 (1h)
第 2 週	(第 2・3 講) 履修者の研究計画・進捗共有と討論			事前	報告資料の準備 (3h)
対面有/OLのみ				事後	履修者間の相互レビュー (1h)、 調査研究・報告書執筆 (3h)
第 3 週	(第 4・5 講) 課題設定と社会構想報告書の構成 1			事前	報告準備または調査研究・報告書執筆 (3h)、報告資料の予習 (1h)
対面有/OLのみ				事後	履修者間の相互レビュー (1h)、 調査研究・報告書執筆 (3h)
第 4 週	(第 6・7 講) 課題設定と社会構想報告書の構成 2			事前	報告準備または調査研究・報告書執筆 (3h)、報告資料の予習 (1h)
対面有/OLのみ				事後	履修者間の相互レビュー (1h)、 調査研究・報告書執筆 (3h)
第 5 週	(第 8・9 講) 研究計画の進捗報告 1			事前	報告準備または調査研究・報告書執筆 (3h)、報告資料の予習 (1h)
対面有/OLのみ				事後	履修者間の相互レビュー (1h)、 調査研究・報告書執筆 (3h)
第 6 週	(第 10・11 講) 研究計画の進捗報告 2			事前	報告準備または調査研究・報告書執筆 (3h)、報告資料の予習 (1h)
対面有/OLのみ				事後	履修者間の相互レビュー (1h)、 調査研究・報告書執筆 (3h)
第 7 週	(第 12・13 講) 2 年次中間報告会へ向けた相互レビュー1			事前	報告準備または調査研究・報告書執筆 (3h)、報告資料の予習 (1h)
対面有/OLのみ				事後	履修者間の相互レビュー (1h)、 調査研究・報告書執筆 (3h)

第 8 週	(第 14・15 講) 2 年次中間報告会へ向けた相互レビュー2	事前	報告準備または調査研究・報告書執筆 (3h)、報告資料の予習 (1h)				
対面有／OL のみ		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・報告書執筆 (3h)				
授業の進め方と方法							
本授業において履修者は、あらかじめ選択した指導教員の授業に出席し、調査研究・社会構想報告書執筆を進める。Ⅲa の授業は必修、Ⅲb の授業は任意選択であるが、それぞれ 1 名の指導教員を選択する。指導教員は研究科専任教員が務め、個別に授業の実施曜日を定める。 第 1 週については、社会構想報告書の執筆や、授業の進行に関して必要な情報提供を教員がおこない、それにもとづく質疑応答をおこなう。 第 2 週以降については、履修者による社会構想報告書執筆に向けた計画や進捗・成果についての報告と、それについての他の履修者および指導教員をまじえた討論によって進行し、2 年次中間報告会での報告の完成をめざす。 2 年次中間報告会の全時間帯への参加も求める。							
教科書・参考書							
【教科書】指定しない 【参考書】履修者の調査研究や構想のテーマに即して、適宜文献を紹介する。 * 調査研究や構想を進める方法に関連する参考書 ● 荻谷剛彦・石澤麻子, 2019, 『教え学ぶ技術』筑摩書房. ● 上野千鶴子, 2018, 『情報生産者になる』筑摩書房. ● 小熊英二, 2022, 『基礎からわかる論文の書き方』講談社.							
評価方法							
● 2 年次中間報告会での社会構想報告書の完成度 40% ● 報告担当週の報告内容・方法 30% ● ディスカッションへの貢献 30%							
その他の重要事項							
● 社会構想Ⅲa と社会構想研究Ⅳa、社会構想Ⅲb と社会構想Ⅳb はそれぞれ前期・後期と連続して履修し、同一の指導教員を選択すること ● 2 年次中間報告会の実施方法、社会構想報告書等の提出方法については、別途大学院便覧や関連する案内を確認すること ● 各指導教員の授業実施方法、オフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、各指導教員からの案内にしたがうこと							
2025 年度以前の科目との読み替え							
● グランドデザイン構想研究 (社会構想探究科目・SDPD2421T) ● 社会起業構想研究 (社会構想探究科目・SDPD2422T)							
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥	
	－	○	○	○	○	－	

授業名称	社会構想研究IVa・社会構想研究IVb			科目区分	社会構想探究科目
授業テーマ	実践的価値の創造と社会への提言			科目コード	SDPD2441T・ SDPD2442T
担当教員	各専任教員	実施方法	ハイフレックスほか	単位数	各 2 単位
標準履修年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	時間割参照
年間開講数	各 1 回	授業種別	演習	授業区分	必修・選択
授業の目的					
本授業の目的は、履修者がみずから構想する社会構想について、社会科学領域の学術的な視点と調査に基づき探究し、その成果を学術論文の形式でまとめることにある。 本授業では、立案した研究計画に基づく調査の実施・調査結果の解釈・論文の執筆について一連の指導をおこなう。履修者は最終成果としての「社会構想報告書」を作成し、年度末に開催される「最終審査会」での報告をおこなう。 授業は履修者からの発表とそれに基づく討論により進行し、他者からの助言を受ける機会を提供する。					
到達目標					
① みずからの社会構想について、具体的な実装のありかたを提言することができる。 ② みずからの社会構想について、社会科学の理論や方法論等、学術的な手法を適切に援用することができる。 ③ 社会構想報告書を論理的に構成して書くことができる。 ④ 他者の社会構想を内面的にとらえ、議論することができる。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 社会構想報告書執筆・授業の進め方にかんする ガイダンス			事前	夏休みの研究成果のとりまとめ (4h)
対面有/OLのみ				事後	後期の研究計画の立案 (1h)
第 2 週	(第 2・3 講) 研究進捗状況の共有と批判的検討 1			事前	報告準備または調査研究・報告書執筆 (3h)、報告資料の予習 (1h)
対面有/OLのみ				事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・報告書執筆 (3h)
第 3 週	(第 4・5 講) 研究進捗状況の共有と批判的検討 2			事前	報告準備または調査研究・報告書執筆 (3h)、報告資料の予習 (1h)
対面有/OLのみ				事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・報告書執筆 (3h)
第 4 週	(第 6・7 講) 社会構想報告書の進捗報告 1			事前	報告準備または調査研究・報告書執筆 (3h)、報告資料の予習 (1h)
対面有/OLのみ				事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・報告書執筆 (3h)
第 5 週	(第 8・9 講) 社会構想報告書の進捗報告 2			事前	報告準備または調査研究・報告書執筆 (3h)、報告資料の予習 (1h)
対面有/OLのみ				事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・報告書執筆 (3h)
第 6 週	(第 10・11 講) 社会構想報告書の進捗報告 3			事前	報告準備または調査研究・報告書執筆 (3h)、報告資料の予習 (1h)
対面有/OLのみ				事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・報告書執筆 (3h)
第 7 週	(第 12・13 講) 社会構想報告書の進捗報告 4			事前	報告準備または調査研究・報告書執筆 (3h)、報告資料の予習 (1h)
対面有/OLのみ				事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・報告書執筆 (3h)

第 8 週	(第 14・15 講) 最終審査会に向けた相互レビュー	事前	報告準備または調査研究・報告書執筆 (3h)、報告資料の予習 (1h)				
対面有／OL のみ		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・報告書執筆 (3h)				
授業の進め方と方法							
本授業において履修者は、あらかじめ選択した指導教員の授業に出席し、調査研究・社会構想報告書執筆を進める。Ⅳa の授業は必修、Ⅳb の授業は任意選択であるが、Ⅲa・Ⅲb と共通するそれぞれ 1 名の指導教員を選択する。指導教員は研究科専任教員が務め、個別に授業の実施曜日を定める。 第 1 週については、社会構想報告書の執筆や、授業の進行に関して必要な情報提供を教員がおこない、それにもとづく質疑応答をおこなう。 第 2 週以降については、履修者による社会構想報告書執筆に向けた計画や進捗・成果についての報告と、それについての他の履修者および指導教員をまじえた討論によって進行し、社会構想報告書の完成をめざす。 2 年次中間審査会・2 年次最終審査会の発表時間帯への参加も求める。							
教科書・参考書							
【教科書】指定しない 【参考書】履修者の調査研究や構想のテーマに即して、適宜文献を紹介する。 * 調査研究や構想を進める方法に関連する参考書 ● 荻谷剛彦・石澤麻子, 2019, 『教え学ぶ技術』筑摩書房. ● 上野千鶴子, 2018, 『情報生産者になる』筑摩書房. ● 小熊英二, 2022, 『基礎からわかる論文の書き方』講談社.							
評価方法							
● 各報告会・審査会時点での社会構想報告書の完成度 40% ● 報告担当週の報告内容・方法 30% ● ディスカッションへの貢献 30%							
その他の重要事項							
● 社会構想Ⅲa と社会構想研究Ⅳa、社会構想Ⅲb と社会構想Ⅳb はそれぞれ前期・後期と連続して履修し、同一の指導教員を選択すること ● 2 年次中間審査会・2 年次最終審査会の実施方法、社会構想報告書の提出方法については、別途大学院便覧や関連する案内を確認すること ● 各指導教員の授業実施方法、オフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、各指導教員からの案内にしたがうこと							
2025 年度以前の科目との読み替え							
● グランドデザイン構想研究 (社会構想探究科目・SDPD2421T) ● 社会起業構想研究 (社会構想探究科目・SDPD2422T)							
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥	
	－	○	○	○	○	－	